

泉大津市教育施設再編計画(案)

2023年(令和5年)3月

泉大津市教育委員会

【目次】

第1章 目的・位置づけ	1
I 本計画の目的及び位置づけ等	2
1 本計画策定の背景及び目的	2
2 本計画の位置づけ	2
3 関連計画・方針	3
4 対象施設	8
第2章 対象施設ごとの配置計画	9
第1部 新たな生涯学習環境の形成に向けて一体的に検討すべき施設	10
I 小・中学校（地域交流ゾーン）、南・北公民館及び勤労青少年ホームの現状	10
1 小・中学校（地域交流ゾーン）、南・北公民館及び勤労青少年ホームの現状	10
2 市民の生涯学習環境に対する認知度及びニーズ	16
II 施設配置基本方針	20
1 本市の新たな生涯学習環境形成に向けた検討経緯	20
2 「未来の学びの場」の整備の方向性	21
3 「未来の学びの場」のめざす姿（コンセプト）	22
4 「未来の学びの場」の施設整備のあり方	23
III 施設計画	24
1 （仮称）生涯学習センター	24
2 地域交流ゾーン（小・中学校）	27
3 南・北公民館及び勤労青少年ホーム	28
IV 配置計画	29
1 各施設の整備方針と事業スケジュール	29
第2部 その他の教育施設	30
I 施設計画	30
1 小・中学校（地域交流ゾーンを除く）：校舎、体育館	30
2 教育支援センター	30
3 図書館（シープラ）	30
4 織編館・文化財収蔵庫	30
5 池上曾根弥生学習館	30
6 あすとホール	30
7 おてんのう会館	31
8 総合体育館	31
9 学校プール	31
資料編	33

第1章 目的・位置づけ

I 本計画の目的及び位置づけ等

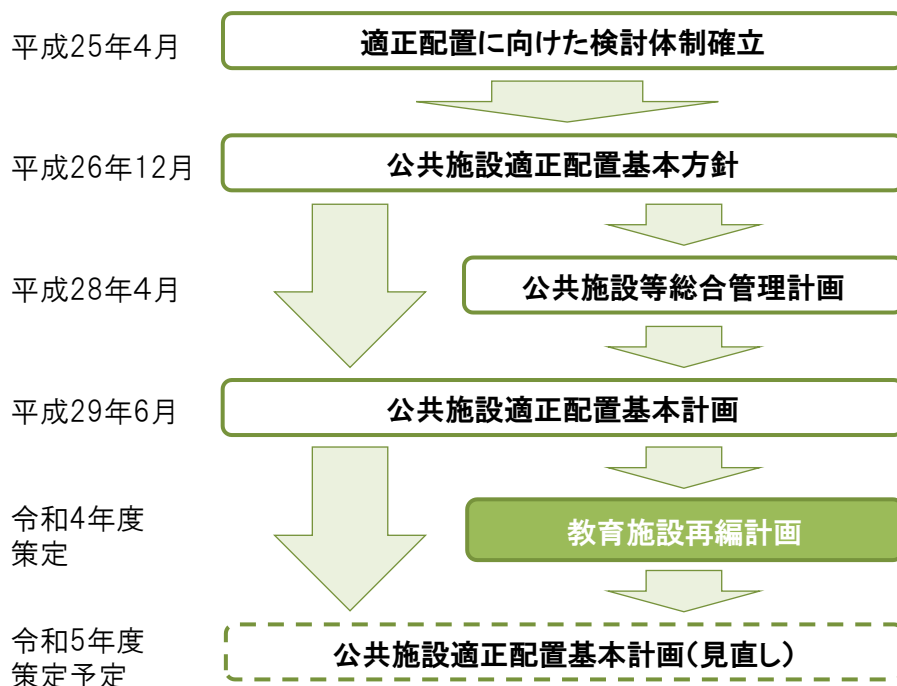
1 本計画策定の背景及び目的

- 本市の将来を見据えながら、多様化するニーズや公共施設の担う役割などを踏まえ、新たなニーズに対応した教育施設づくりに取り組む必要があります。社会に開かれた教育課程の実現に向けて、学校と地域の連携・協働が今まで以上に求められていくなか、コミュニティ・スクール等の仕組みにより、地域とともにある学校づくりを進めていくため、地域交流ゾーンの整備方針と併せ、教育施設の持つ役割を維持しつつ、効率的・効果的な再編に向けた教育施設再編計画を策定します。

2 本計画の位置づけ

- 本市においては、平成 25 年から本市の人口動態や財政状況の見通し等を勘案し、公共施設全体の整備等においてめざす姿や適正な規模等の検討を行ってきました。
- 平成 26 年 12 月には「泉大津市公共施設適正配置基本方針」を策定し、公共施設の基本理念(めざす姿)と5つの基本方針を定め、その中で令和 21 年度までに公共施設の総量を 15%以上削減することを当面の目標として掲げました。
- その後、目標を実現するための計画として、平成 29 年6月に「泉大津市公共施設適正配置基本計画」(以下、「公共施設適正配置基本計画」という。)を策定し、取組を進めています。
- 本計画は、「公共施設適正配置基本計画」のうち教育施設の再編について、必要な見直しを行います。

図表 1 関連計画の策定経緯と本計画の位置づけ



3 関連計画・方針

(1) 泉大津市教育振興基本計画(平成 28 年 3 月)

- 本市においては、教育振興の基本的な方向性である「地域の豊かな学びの育成」を実現するため、基本施策として「生涯学習活動の推進」を掲げています。
- 具体的な施策として、「生涯学習施設を拠点とした学習活動の活性化などを図る」ことを定めています。

《関連する方針・施策》

【基本的な方向性】

4 地域の豊かな学びの育成

【基本施策】

(1) 生涯学習活動の推進

【具体的な施策】

2. 学習活動支援の充実(抜粋)

- 市民を対象としたアンケート調査では、今後、自主的な学習活動、文化・芸術活動、スポーツ・レクリエーション活動などに取り組みたいという意向を示す市民が6割余り
- 誰もが気軽に参加できる学習機会の提供や、学んだ人が知識や技能を発揮することができる環境づくりが重要
- 生涯学習施設を拠点とした学習活動の活性化などを図るとともに、広く活動情報を発信

(2) 泉大津市教育みらい構想(令和元年 5 月)

- 一人の子どもが泉大津市で生まれ、育つ中でしっかりと学び、そして、二十歳を迎えた時どのような自立した人間となってほしいのか、また、子どもたちのアイデンティティの確立とともに地域への愛着が持てるような教育、自分が受けた教育を自らの子にも受けさせたいと思える教育について議論したことを踏まえ、20 年先を見据えた構想として本市の今後の大きな方向性を定めています。

《関連する方針・施策》

【泉大津市の教育がめざすもの】

- 「きょういく」できる環境をつくる
- 「じりつ」できる人を育てる
- 「そうぞう」できる力を高める

【第5章 泉大津市でめざす未来の教育】

(1) 地域とともにある学校をめざすこと

(4) 新しい学校像の実現への方向性

- コミュニティ・スクールによる相互連携・相互支援・交流の推進
⇒ 学校運営協議会を中心に学校と地域が目標を共有するとともに、両者の活動拠点となるよう学校教育の場と社会教育の場の融合を図る。
- 多様性を生かした施設形態の確保
⇒ 多様な学習活動に対応するよう学社融合(学校教育施設と社会教育施設の複合化)の

検討を進める。

- ・公共施設適正配置基本計画への対応
⇒公共施設適正配置基本計画との整合性を図りながら、教育施設の総量削減に資する教育施設の再配置、施設の複合化を検討する。

(3)泉大津市教育振興基本計画【後半期】(令和3年3月)

- ・教育振興基本計画(後半期)において、コミュニティ・スクールによる学校と地域の協働活動推進と教育施設の再配置を検討する方針を掲げています。

《関連する方針・施策》

【基本的な方向性】

- 3 子どもをはぐくむ学校力・教師力の向上
- 5 安全・安心な学びの充実

【重点】

- 11 コミュニティ・スクールによる学校と地域の協働活動を進める
 - ・「めざすこども像」の実現に向けたコミュニティ・スクールとしての取り組みを通して、「地域とともにある学校づくり」「学校を核とした地域づくり」をめざす。
- 17 学校教育施設・社会教育施設の再配置などを検討する
 - ・地域コミュニティの拠点として、多様性を生かした施設形態による多機能化・複合化を視野に、「泉大津市公共施設適正配置基本計画」に基づく再配置を検討する

(4)泉大津市生涯学習推進計画(平成29年3月)

- ・教育振興基本計画の基本理念「つながりからはじまる学びの環」を継承し、子どもから子ども、子どもから大人へ、大人から大人、大人から子どもへと、それぞれが関わり合いながら、また、子ども、家庭、地域、学校が「学ぶつながり」を創りだし、学びの環を教育がつなげ、広げていくまちづくりを進めることを掲げています。

《関連する方針・施策》

【基本方針】

- ・「きょういく」できる環境をつくる(共育・協育)
- ・「じりつ」できる人を育てる(自立・自律)
- ・「そうぞう」できる力を高める(想像・創造)

【基本的な方向性】

4. 地域の豊かな学びの育成
 - ・学校と連携した地域づくりを推進していくことが重要。学校教育を通じてよりよい地域社会を創るという目標を地域と共有。
 - ・学校と連携した地域づくりを推進することで、人と人とのつながりが生まれるとともに、地域教育力向上につながり、持続可能な地域社会の基盤となる。

泉大津市公共施設適正配置基本方針(平成 26 年 12 月)

- 基本理念(めざす姿)として「誰もが利用しやすく誰もが集える公共施設」を掲げています。
- 令和 21 年(注:計画時点では「平成 51 年」)までには公共施設の総量を 15%以上削減することを当面の目標として掲げています。

《関連する方針・施策》

【基本理念(めざす姿)】

誰もが利用しやすく誰もが集える公共施設

【基本理念の実現に向けた5つの基本方針】

基本方針1: 公共施設の建替の際は、施設の複合化・多機能化を進める。

(施設の複合化・多機能化)

基本方針2: 施設の長寿命化や適切な維持保全により、公共施設にかかるコストの圧縮を図る。

(コストの圧縮)

基本方針3: 民間事業者や市民と連携し、公共施設サービスの質の向上を図る。

(サービスの維持・向上)

基本方針4: 将来推計人口をもとに、公共施設の総量を圧縮する。(総量の圧縮)

⇒ 平成 51 年までには公共施設の総量を 15%以上削減することを当面の目標

基本方針5: 公共施設適正配置に向けた推進体制の構築を目指す。

(共通理解と体制の構築)

【対象施設】

- 平成 25 年4月1日時点で本市が保有する施設及び PFI 事業で運営している施設、計 98 施設

(5)泉大津市公共施設適正配置基本計画(平成 29 年 6 月)

- 「泉大津市公共施設適正配置基本方針」で掲げた基本理念(めざす姿)や基本方針、公共施設の総量削減目標を実現するための各公共施設の今後の方向性について定めています。
- そのうち、学校教育施設及び生涯学習施設に関しては、以下の方向性が定められています。

《関連する方針・施策》

区分	対象施設	今後の方向性(抜粋)
学校教育施設 G ①	小学校・中学校	○長寿命化対策として実施する大規模改修の時期については、築 40 年を一定の目途とし、築年数に応じて以下の2つの方向性とします。 ・築 40 年を経過していない学校については、築 40 年を目途に大規模改修を行うことにより、およそ築 80 年まで使用します。なお、築 20 年を経過していない戎小学校及び平成 28 年度に建替事業が完了した旭小学校については、築 20 年を目途に改修を行います。 ・既に築 40 年以上経過し、大規模改修の実施時期を逸している学校については、築 60 年を目途に建替を検討します。
学校教育施設 G ②	教育支援センター	○他施設との複合化により機能維持を図ります。
生涯学習施設 G ①	北公民館	○本市における生涯学習施設の配置状況を踏まえ、エリア的な補完施設として、適切な維持管理を行い、長寿命化を図ります。
	南公民館	○生涯学習の中心的な施設として複合化・多機能化により、さらなる運営の効率化
	勤労青少年ホーム	○設置目的や利用実態から廃止
生涯学習施設 G ②	文化財収蔵庫、池上曾根弥生学習館、あすとホール、織編館	○いずれの施設も機能を維持し、適切な維持管理を行い、長寿命化を図ります。
生涯学習施設 G ④	おてんのう会館	○適切な維持管理を行い、地域の実情に沿った地域移管を進めます。
健康増進施設 G ①	総合体育館	○平成 28 年度に長寿命化対策を目的とした大規模改修を実施しており、引き続き適切な維持管理を行い、長寿命化を図ります。 ○また、必要に応じて利用料金の見直しを行い、利用者負担の適正化を図ります。
健康増進施設 G ④	学校プール施設	○引き続き適切な維持管理により長寿命化を図るとともに、利用状況や設置条件等を勘案し、多機能化(地域開放)による施設の有効活用を進めます。

(6)地域交流ゾーンの整備(教育委員会方針)

- コミュニティ・スクール等の仕組みをはじめとする、学校と地域の連携・協働による「地域とともにある学校づくり」や「学校を核とした地域づくり」を展開し、よりよい学校教育を通じて、めざすこども像として掲げている『泉大津市の豊かな歴史と伝統を大切にしながら「子どもたちのアイデンティティの確立とともに地域への愛着が持てるようになること』、また、その子どもが大人になった時に「自分自身が受けた泉大津市の教育を自分の子どもにも受けさせたい」と思える教育課程や教育環境の確立という目標を達成するための一つ的手段として、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支える仕組みづくりを具現化できる施設を目指した「地域交流ゾーン」をすべての小・中学校に整備することとしています。

《関連する方針・施策》

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">• 令和4年度から全小・中学校に、コミュニティ・スクールを導入(ただし、小津中学校区(上條小学校・条東小学校・小津中学校は平成30年度から導入)• 令和4年度以降、校舎棟長寿命化・建替に併せて学校と地域の連携の拠点として各小・中学校に「地域交流ゾーン」を整備 |
|--|

4 対象施設

(1)本計画における対象施設

- 本計画の検討対象とする施設は、関連計画の公共施設適正配置基本計画の「学校教育施設 G」「生涯学習施設 G」「健康増進施設 G」に分類されている施設のうち、教育施設に該当する施設とします(図表 2)。
- 小・中学校に整備を進めている地域交流ゾーン及び、「生涯学習施設 G①」に分類されている北公民館・南公民館・勤労青少年ホーム・図書館のうち、令和3年度に移転を完了した図書館を除く3施設は、利用目的や機能が共通している施設であることや関連計画・方針で示す方向性等を踏まえ、新たな生涯学習環境の形成に向けて一体的に検討すべき施設として位置づけます。
- 第2章以降においては、第1部で、新たな生涯学習環境の形成に向けて一体的に検討すべき施設の配置計画を、第2部でその他の教育施設の配置計画を、それぞれ策定します。

図表 2 本計画の対象施設

	配置計画(第1部) :新たな生涯学習環境の形成 に向けて一体的に検討すべき施設	配置計画(第2部) :その他の教育施設
学校教育施設 G①	○小・中学校(地域交流ゾーン)	○小・中学校(地域交流ゾーン除く)
学校教育施設 G②	—	○教育支援センター
生涯学習施設 G①	○北公民館 ○南公民館 ○勤労青少年ホーム	○図書館(シープラ)
生涯学習施設 G②	—	○文化財収蔵庫 ○池上曾根弥生学習館 ○織編館 ○あすと松之浜
生涯学習施設 G④	—	○おてんのう会館
健康増進施設 G①	—	○総合体育館
健康増進施設 G④	—	○学校プール施設

第2章 対象施設ごとの配置計画

第1部 新たな生涯学習環境の形成に向けて一体的に検討すべき施設

I 小・中学校（地域交流ゾーン）、南・北公民館及び勤労青少年ホームの現状

1 小・中学校（地域交流ゾーン）、南・北公民館及び勤労青少年ホームの現状

(1) 小・中学校における地域開放事業の取組状況

- 現在、本市では戎小学校、条東小学校、旭小学校の3校において、地域交流ゾーンに類する取組として、図書室の地域開放事業を実施しています。
- 上記3校における図書室開放事業の利用状況について、年間の利用者数の合計は、原則毎週実施している戎小学校の「りぶれ EBISU」が最も多く、900人以上となっている一方、1回あたりの平均利用者数は、旭小学校の「ブックランドあさひ」が最も多く、約60人となっており、学校ごとに利用状況が異なっています。

図表 3 図書室の地域開放事業の概要(令和2年度時点)

場所	戎小学校	条東小学校	旭小学校
名称	りぶれ EBISU	ミント条東	ブックランドあさひ
開始	平成26年10月	平成28年12月	平成31年2月
開館日時	毎週土曜日 午前9時～12時	第2土曜日 午前9時～11時30分	第2土曜日 午前9時～12時
運営状況・方法・団体	運営委員9名 安全管理員4名	地域ボランティア15名	自治会を中心に民生委員など地域の方
内容	居場所づくりを目的にスタート。開放時には本の読み聞かせのほか、工作やゲームなど読書以外の活動もさかん。クリスマス会や七夕まつりほか、バルーンアートなどのイベントも開催している。	本に親んでもらうことに特化。地域の人からの寄贈や購入した本を集め、図書室とは別の部屋も開放している。絵本広場や紙芝居などのイベントも開催。	本に親んでもらうことを基本とするが、毎回何らかのイベントを開催している。モフ草履、手品、紙芝居、ロボット教室、ドローン教室など。

図表 4 図書室開放の利用状況(令和元年度)

	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	利用者数 合計(人)	1回あたり平 均利用者数 (人)
		回数(回)	回数(回)	回数(回)	回数(回)	回数(回)	回数(回)	回数(回)	回数(回)	回数(回)	回数(回)	回数(回)	回数(回)		
戎	回数(回)	4	3	4	4	4	3	3	3	3	3	4	-	919	24
	人数(人)	94	84	88	111	55	63	58	78	129	65	94	-		
条東	回数(回)	1	1	1	1	-	1	1	1	1	1	1	-	315	32
	人数(人)	30	48	32	36	-	23	42	37	8	35	24	-		
旭	回数(回)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	-	650	59
	人数(人)	47	55	54	53	34	87	70	54	84	71	41	-		

※新型コロナウイルス感染症の影響により、年間を通じて図書室開放を実施した直近の年度の利用状況を掲載

(2)南・北公民館及び勤労青少年ホームの現状

① 南・北公民館及び勤労青少年ホームの建物現況

- 南・北公民館及び勤労青少年ホームはいずれも築年数が40年以上と、建物・設備の老朽化が進んでいる状況です。また、旧耐震基準適用時期に整備された施設で、現在に至るまで大規模改修工事等は行っていません。

図表 5 南・北公民館及び勤労青少年ホームの状況(令和4年時点)

建物名称	施設名	構造	建築年 (年)	築年数 (年)	延床面積 (㎡)	諸室面積 合計※ (㎡)	階数
南公民館	本館	RC造	1974	48	1683.30	827.55	3階建て
北公民館	本館	RC造	1981	41	1530.85	710.75	3階建て
	機械室	RC造	1981	41	57.00	-	-
勤労青少年ホーム	本館	RC造	1980	42	1020.00	546.53	2階建て

※「諸室面積」は共用部を除いた諸室の面積を表している

② 南・北公民館及び勤労青少年ホームの利用状況

ア 稼働率

- 南・北公民館及び勤労青少年ホームの稼働率は、諸室によって大きく異なります。いずれの施設においても、規模の大きい講堂や会議室、利用団体数の多い音楽室は稼働率が高く、50%を上回る諸室もみられます。一方で、調理室や和室、茶室など利用用途が限定されており、利用団体数の少ない諸室は、稼働率が低く、10%にも満たない諸室もみられます。

図表 6 【南公民館】諸室稼働率・利用者数(令和元年度)

諸室名	階数	面積 (㎡)	定員 (人)	稼働率 ^{※1} (%)	利用者数 (人)
小会議室	1	31.02	25	28.1	1,984
講習室	1	30.11	25	23.7	2,019
工芸室	1	42.52	20	9.4	472
図書室	1	30.45	24	27.4	879
娯楽談話室	1	60.84	30	53.4	6,112
講堂兼体育室	2	183.84	150	62.2	7,069
大会議室	2	42.11	30	7.7	780
視聴覚実習室	2	31.02	25	13.6	1,126
料理室	2	60.56	25	3.3	340
児童室	2	31.02	25	16.9	1,092
大音楽室	2	60.56	50	57.1	6,616
第1・第2研修室 ^{※2}	3	31.02	25	13.8	1,539
第3研修室	3	31.02	25	7.6	644
第4研修室	3	31.02	25	17.5	1,073
和室	3	18.24	20	9.0	701
茶室	3	18.24	20	6.1	405
その他	-	-	-	0.0	0
合計					41,965

※1 稼働率は年間利用回数の年間稼働枠数(条例の定める「休館日」をもとに稼働日数を求めて算出)に占める割合。北公民館、勤労青少年ホームに関する次表についても同様。

※2 第1研修室と第2研修室は同時にしか借りられない。面積・定員は1室あたり。

図表 7 【北公民館】諸室稼働率・利用者数(令和元年度)

諸室名	階数	面積 (㎡)	定員 (人)	稼働率 (%)	利用者数 (人)
料理室	1	69.12	30	6.2	805
児童室	1	49.68	—	16.9	911
大会議室視聴覚室	2	69.12	42	28.5	4,996
第一研修室	2	34.56	24	24.1	2,418
第二研修室	2	34.56	24	22.7	1,703
実習室	2	34.56	20	10.5	635
グループ室	2	23.88	18	7.5	656
茶室	2	18.24	20	5.3	396
和室	2	18.24	20	10.5	502
音楽室	2	60.48	30	28.9	2,609
講堂兼体育室	3	188.12	150	70.7	7,662
娯楽談話室	3	—	—	1.5	112
図書室	2	34.56	—	29.7	468
軽運動室	3	42.49	—	11.2	422
合計					33,947

図表 8 【勤労青少年ホーム】諸室稼働率・利用者数(令和元年度)

諸室名	階数	面積 (㎡)	定員 (人)	稼働率 (%)	利用者数 (人)
集会室兼軽運動室	1	195.52	200	59.3	11,512
会議室	1	27.60	36	18.3	2,136
音楽室	2	103.79	60	38.6	7,290
和室	2	47.04	20	12.5	1,010
講習室1	2	28.91	18	24.8	1,662
講習室2	2	28.91	18	11.7	754
料理講習室	2	28.32	18	0.0	0
娯楽談話室	2	28.91	—	0.4	12
合計					24,376

イ 利用実態

- 令和元年度の南・北公民館及び勤労青少年ホームにおける諸活動の開催回数と人数をみると、各施設に登録している学習グループ「クラブ」の利用が主となっています。
- 令和元年度の南・北公民館及び勤労青少年ホームの利用クラブ数は、南公民館で 47 クラブ、北公民館で 51 クラブ、勤労青少年ホームで 16 クラブとなっており、3施設で計 114 クラブが利用しています。年間開催回数別の利用クラブ数をみると、いずれの施設においても年間 31～45 回開催しているクラブが最も多く、また、一部の利用者が施設を高頻度で利用している傾向がみられます。

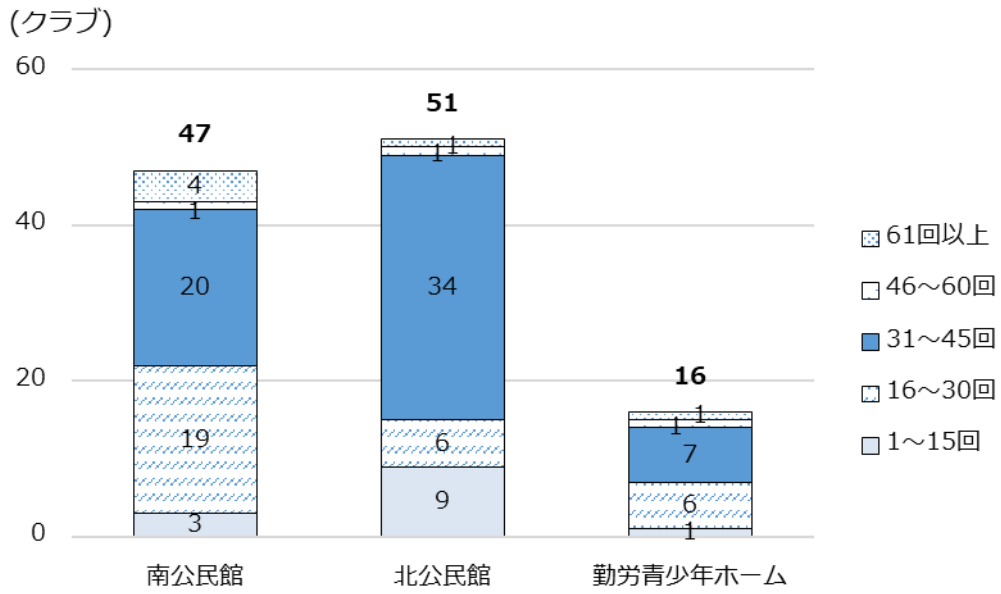
図表 9 開催回数・人数(令和元年度)

	南公民館			北公民館			勤労青少年ホーム		
	利用回数 (回)	延べ人数 (人)	平均 (人/回)	利用回数 (回)	延べ人数 (人)	平均 (人/回)	利用回数 (回)	延べ人数 (人)	平均 (人/回)
講座	55	794	14.4	82	1,189	14.5	30	370	12.3
クラブ	1,573	18,443	11.7	1,613	18,477	11.5	580	9,396	16.2
地域団体	559	6,149	11.0	290	3,814	13.2	-※2	24,376	-
市	21	376	17.9	38	1,514	39.8	-	7,705	-
学校等	61	623	10.2	0	0	-	-	1,329	-
社会教育 団体等	81	1,665	20.6	14	230	16.4	-	1,248	-
自治会等	12	113	9.4	11	172	15.6	-	-	-
一般	384	3,369	8.8	227	1,898	8.4	-	12,962	-
労働団体	-	-	-	-	-	-	-	724	-
ホーム	-	-	-	-	-	-	-	408	-
その他※1	734	9,168	12.5	1,007	10,457	10.4	-	-	-

※1 祭り(準備)、図書室利用、保健装置利用、クラブ連絡協議会などを含む。

※2 勤労青少年ホームについては「事務報告書」に地域団体の開催回数の記載なし

図表 10 年間開催回数別利用クラブ数(令和元年度)

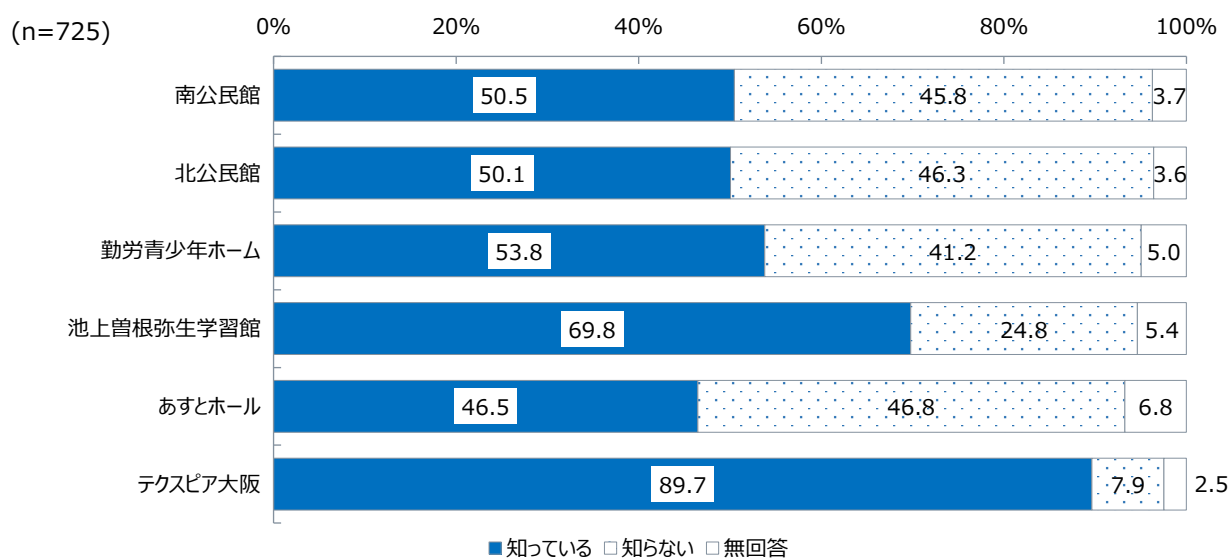


2 市民の生涯学習環境に対する認知度及びニーズ

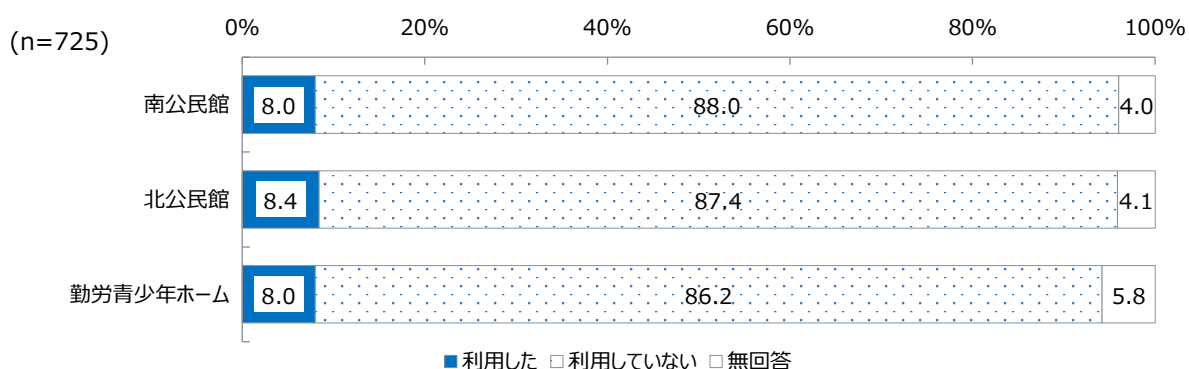
(1)市民の認知度

- 市民アンケート調査において、各施設がどこにあるか知っているか聞いたところ、南・北公民館及び勤労青少年ホームはいずれも50%程度と市民の認知度は低くなっています。
- 過去3年間に南・北公民館及び勤労青少年ホームを利用した割合は1割未満となっています。また、南・北公民館及び勤労青少年ホームのうちいずれか1つでも利用した人の割合は約2割となっており、一部の人にしか利用されていない状況です。
- 地域交流ゾーンの整備に先行して実施されている学校・就学前施設の地域開放の取組に対する認知度は2割程度と低くなっており、効果的な情報発信による周知の取組が求められます。

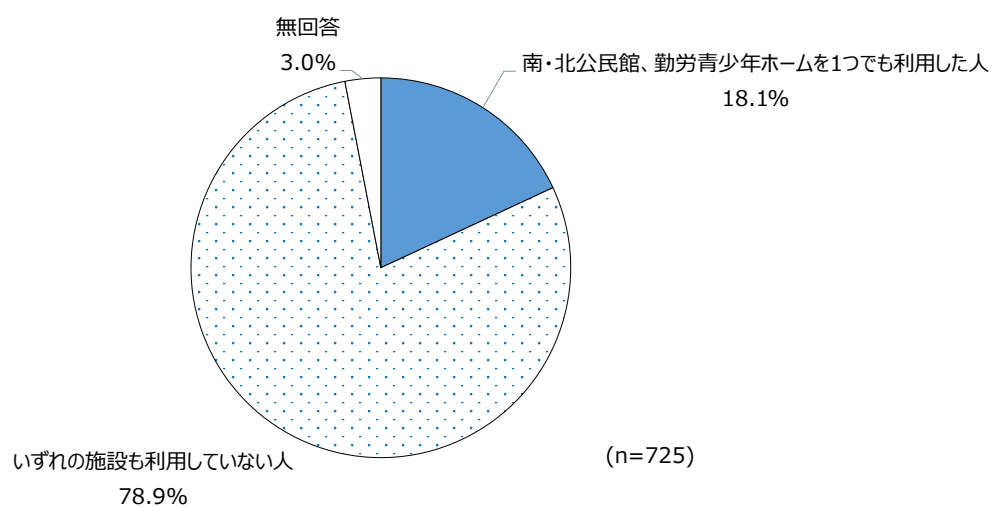
図表 11 各施設の場所の認知状況



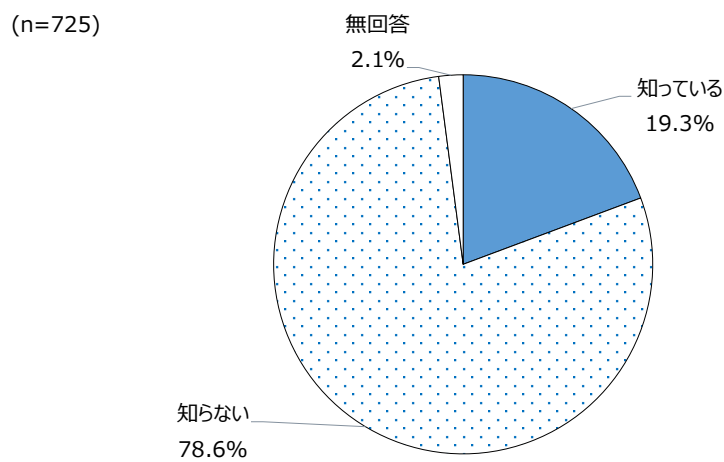
図表 12 過去3年間の各施設の利用状況



図表 13 過去 3 年間の施設の利用状況



図表 14 学校・就学前施設における地域開放の取組の認知度



※りぶれ EBISU、ミント条東、ブックランドあさひといった学校図書室の地域開放や、校庭・園庭開放、おやこ広場などの本市の学校・就学前施設における地域開放の取組の認知度を聞いた。

(2)市民のニーズ

- 市民アンケートやグループインタビュー・ワークショップを通じて、既存の南・北公民館及び勤労青少年ホームに対する施設・設備面や管理運営面での様々な課題やニーズが確認されています。

図表 15 アンケート及びグループインタビュー・ワークショップでの意見

項目	主な意見
施設、設備面の改善点	<ul style="list-style-type: none"> ■アンケート <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化が進んでいるので、トイレなどキレイな設備にする ・バリアフリーにする。エレベーターをつける。駐車場を広くする ・授乳室を設置する ・明るいデザイン ■グループインタビュー・ワークショップ <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化が進んでおり、防災面で不安がある ・バリアフリーに対応できていないことが問題 ・トイレが古く狭い / 水漏れを起こすことがある ・リノベーションは困難であり、場合によっては建替えが必要 ・Wi-Fi 等の設備が不十分 ・予約せずに使えるサロンのような場所が必要 ・会議室等は、大きさが柔軟に変えられると便利 ・わかりやすく入りやすい諸室の配置が必要
周知・広報	<ul style="list-style-type: none"> ■アンケート <ul style="list-style-type: none"> ・公民館での習い事やイベント等を知ってもらうために、小・中学校にも紹介 ・何をしているのか、何が出来るのかを発信した方が良い。子どもがいない世代は存在すら知らないため、市民だより等でもっと発信すべき ・誰でも利用ができるという発信 ■グループインタビュー・ワークショップ <ul style="list-style-type: none"> ・利用者以外には何をしているのかわかりにくい ・どのようにすれば利用できるかわからない ・利用している人が決まっていて、新たに利用する際にハードルを感じる・世代に応じた異なる広報のアプローチが必要 ・高齢者は紙媒体、若者は SNS 等、ターゲットにあわせた情報発信が必要 ・イベント等を通じて、まずは経験してもらい知ってもらうこと、来てもらうきっかけが必要
講座やイベント等の充実、利用のしやすさ	<ul style="list-style-type: none"> ■アンケート <ul style="list-style-type: none"> ・季節、ジャンルごとに専門の先生を呼んで各講座を開く。歴史や、PC、携帯アプリの使い方講座など ・若い人たちにも利用しやすい習い事や講座などを増やす ・講座に「預かり保育」があれば利用しやすい ・子育て世代や共働きの人にも利用しやすいようクラブ活動の役員やクラブ以外の施設掃除や祭りの手伝いをしなくてもいいような仕組みが必要 ■グループインタビュー・ワークショップ <ul style="list-style-type: none"> ・能力や専門性を有する市民たちが主体となって様々なプログラムを提供できる場があると良い ・若者等には使い方を制限せず、自由に利用できる場所の方がニーズはあるのではないか ・民間企業のノウハウを活用してプログラム等を検討してはどうか ・施設利用者の活動を支援する機能があると良い
運営	<ul style="list-style-type: none"> ■グループインタビュー・ワークショップ <ul style="list-style-type: none"> ・運営のために自主組織は重要な役割を担っているが、メンバーの高齢化が進み、負担感が増している ・地域の方々にも運営の支援をして頂く方が良い ・施設利用者、地域住民も、過度な負担にならない範囲で参加・協力できる仕組みが必要

項目	主な意見
雰囲気	<ul style="list-style-type: none"> ■アンケート ・開放感がある施設の雰囲気づくりが必要 ・いつでも何もなくても立ち寄れる雰囲気が感じられるとよい。開放感もなく、全体的に暗い印象
利用できる時間帯、曜日	<ul style="list-style-type: none"> ■アンケート ・土日などみんなが使いやすい時間にもやってほしい ・通常の仕事以外の時間帯で利用できるとよい ■グループインタビュー・ワークショップ ・予約時間枠が使いやすい設定になっていない（細かいコマ割りに改善する、クラブ以外への割当枠を確保するなど対応が必要）
利用手続等	<ul style="list-style-type: none"> ■アンケート ・利用の手続きを簡単にする ■グループインタビュー・ワークショップ ・利用状況や予約の状況等が一目でわかり、予約できるシステムを整備
アクセス	<ul style="list-style-type: none"> ■アンケート ・高齢になっても行きやすいところにある ■グループインタビュー・ワークショップ ・広い駐車場や駐輪場を整備
セキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> ■グループインタビュー・ワークショップ ・学校のセキュリティの確保（地域交流ゾーン）
利用ルール	<ul style="list-style-type: none"> ■グループインタビュー・ワークショップ ・施設利用のルールが変わることがあり戸惑う ・利用区分（1日3枠）が少ないため予約が取りにくいのではないか、時間単位で利用できないか ・空き状況の確認や予約が不便、インターネットでできるようになれば利用しやすい ・市民に向けた講座を開催したい人が、もっと柔軟に施設を利用できるようになれば、より魅力的なプログラムが増えるのではないか ・冷房期間が決められているので、暑い日であっても冷房を使うことができないのはとても不便 ・飲食ができる交流の場としても使いたい ・「営利目的」の利用を柔軟な判断で可能にしてもらいたい
その他	<ul style="list-style-type: none"> ■アンケート ・人間関係や、特定の人に負担が集中することが原因で利用を躊躇する場合もあると思う ・職員対応も含め、気持ちよく利用できる施設がよい ■グループインタビュー・ワークショップ ・世代間の交流が生まれていない

※アンケートは「生涯学習施設がもっと使いやすくなるために必要なこと、改善した方がよいこと」という設問に対する自由意見。

II 施設配置基本方針

1 本市の新たな生涯学習環境形成に向けた検討経緯

(1)本市の生涯学習環境を取り巻く課題認識

- アンケート調査により、現在の主な生涯学習施設である南・北公民館及び勤労青少年ホームが一部の市民の利用に留まっていることが改めて明らかになりました。本市は、泉大津市教育振興基本計画において、教育振興の基本的な方向性として「地域の豊かな学びの育成」を掲げています。これを実現するための基本施策である「生涯学習活動の推進」の具体的な実施にあたり、より幅広い市民にとって利用しやすい生涯学習環境の形成が課題です。
- 生涯学習施設の利用団体や子どもたちに対するグループインタビュー、市民ワークショップでは、現在の南・北公民館及び勤労青少年ホームに対して、建物が古く現在の新たな市民ニーズへの対応が不十分、設備の老朽化に伴う不便さ、不十分なバリアフリーの不安など、各施設に対する様々な問題点、課題について意見がありました。

(2)新たな生涯学習環境の形成に向けた施設整備の必要性

- 本市においては、学校と地域の連携・協働によって、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支える仕組みづくりを具現化できる施設をめざし、今後、地域交流ゾーンをすべての小・中学校に整備することとしています。
- 地域交流ゾーンは、学校との連携・協働による「地域とともにある学校づくり」や「学校を核とした地域づくり」を展開し、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支える仕組みづくりを実現することを目指して、学校の特別教室等を地域住民が利用することを想定した施設であるため、学校教育だけでなく、市民の身近な活動や交流を目的とした生涯学習の場としての役割・機能を有する施設として位置づけられます。
- また、今よりも幅広い多くの市民が利用でき、多様なニーズに対応した新たな生涯学習環境を形成するためには、本市の生涯学習環境を取り巻く課題等に対応するとともに、老朽化した南・北公民館及び勤労青少年ホームに代わる、未来を見据えた施設整備が必要です。
- そして、その施設を中心として、身近な活動・交流の場としての機能を有した地域交流ゾーンと連携を図りながら、市域全体をフィールドに新たな生涯学習環境の形成を展開していくことが求められています。

ここでは、地域交流ゾーン及び南・北公民館及び勤労青少年ホームの現状・課題を踏まえ、グループインタビューによる意見や市民ワークショップにおいてとりまとめられた意見などを参考にしながら、本市の生涯学習環境(=「未来の学びの場」)のめざす姿を定めます。

2 「未来の学びの場」の整備の方向性

- 新たな生涯学習環境の形成にあたっては、社会環境の変化や市民ニーズを踏まえた環境整備に取り組む必要があります。
- 対象施設の現状と関連計画の方針を踏まえ、新たな市民ニーズに対応した生涯学習環境の整備の方向性として、次の4点を設定します。

(1)より多くの、より多様な市民が利用しやすい環境整備

- 現在の南・北公民館及び勤労青少年ホームは、市民の認知度が低く、一部の市民の利用に留まっていることから、市民の利用しやすさ・分かりやすさに配慮した管理運営に取り組むとともに、すべての市民にとってより身近で、日常的に利用したくなる生涯学習環境を整備することが求められます。
- また、子ども・若者から子育て世代や高齢者まで幅広い市民の認知度・関心を高め、利用しやすい施設整備が求められます。
- ターゲットに合わせた情報発信や施設外におけるアウトリーチ活動を強化することも重要です。

(2)市民ニーズを捉えた、安全・安心で魅力的な公共サービスの提供

- 「未来の学びの場」を形成する施設においては、耐震性の確保やバリアフリーへの配慮など、市民が安全・安心に利用できる環境の確保が必要です。また、小・中学校の施設を活用した地域交流ゾーンにおいては、関係者が安心して利用でき、管理のしやすいセキュリティ対策も重要になります。
- さらに、より魅力的な生涯学習環境の形成に向けては、市民ニーズの高い設備・備品の導入や、誰もが使いやすい利用ルールの設定など、ハード・ソフトの両面で、公共サービスの充実を図ることが求められます。

(3)効率的・効果的な施設整備・運営による公共施設の総量圧縮や将来整備費用の軽減

- 充実した「未来の学びの場」の形成を目指す一方で、関連計画にも掲げられている通り、将来人口の推計を基に、公共施設の総量圧縮に取り組むことも重要です。
- 生涯学習施設だけでなく、地域交流ゾーンや既存の関連施設を含めた機能分担の中で、市民ニーズに対応した効率的な施設配置や維持管理のあり方を検討します。

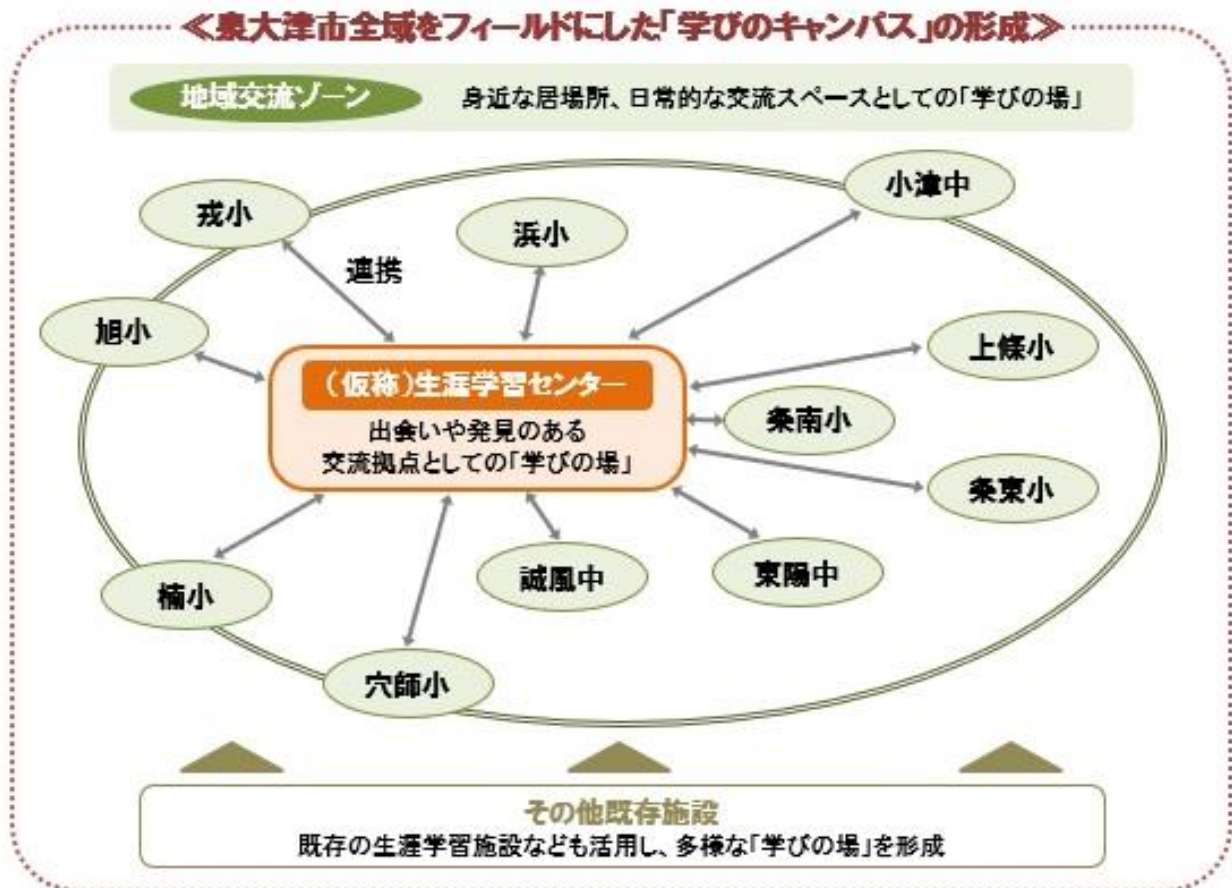
(4)日常も、非常時も、市民の暮らしを支える拠点としての環境整備や機能強化

- 近年、自然災害は激甚化・頻発化しています。加えて、感染症の世界的流行など、不測の事態への対応力の向上に取り組むことも重要です。
- 市民にとって身近で、利用したくなる施設として、日常も、非常時も、区別なく、市民の暮らしを支えるために必要な環境の整備や機能の強化を検討します。

3 「未来の学びの場」のめざす姿(コンセプト)

- 現状の南・北公民館、勤労青少年ホームを集約し、新たな生涯学習環境形成のための拠点施設として「出会いや発見のある交流拠点としての学びの場」に位置づける「(仮称)生涯学習センター」を整備するものとし、各小・中学校へ「地域交流ゾーン」を整備することによる「身近な居場所としての複数の学びの場」を組み合わせ、泉大津市全域をフィールドにした「学びのキャンパス」の形成をめざします。

図表 16 「未来の学びの場」のめざす姿(コンセプト)



4 「未来の学びの場」の施設整備のあり方

(1)市民の生涯学習活動が継続できる切れ目のない施設整備

- 「未来の学びの場」の施設整備を進める上では、現在様々な生涯学習活動に取り組んでいる市民の活動を継続できるよう、事業全体として切れ目のない施設整備を行います。
- 特に、地域交流ゾーンは、各小・中学校の建替・改修に合わせて順次整備を進めるため、校区によって活動環境が整う時期が異なる点に留意します。

(2)立地・アクセス性

- (仮称)生涯学習センターは、市域全体から利用者が集まり、様々な交流・学びを生むことや非常時でも機能継続を図ることが期待されるため、市域全体から訪れやすく、災害に対するリスクが低い場所に立地することが重要です。また、車で訪れる利用者が多いことが想定されるため、利便性を確保するために適正規模の駐車場を確保します。
- 地域交流ゾーンには、日常的に地域住民が訪れることが想定されるため、安全面の検討やわかりやすい動線の設定、駐車場の確保などに留意して施設整備を計画します。

(3)計画・設計にあたっての市民意見の反映

- 利用者が使いやすい地域交流ゾーン及び(仮称)生涯学習センターを整備するために、各生涯学習等の活動に取り組む団体をはじめとした市民の幅広い意見を取り込むことが重要です。
- 施設の計画段階・設計段階においても、ワークショップ等を継続的に実施し、市民の意見を取り入れながら諸室規模・構成・設備を検討します。

III 施設計画

1 (仮称)生涯学習センター

- (仮称)生涯学習センターについては、「出会いや発見のある交流拠点としての学び場」として、身近な活動の場である地域交流ゾーンとすみ分け、様々な規模・種類の活動に対応した中心的な活動・交流拠点として位置づけます。
- 市民ニーズに対応した活動・交流拠点とするため、既存の南・北公民館及び勤労青少年ホームの諸室のうち、稼働率が高い諸室や施設の利用を促進する諸室、特定の利用目的のために必要な諸室を中心に整備することを想定します。
- 地震時の災害時にも施設機能を維持可能とする耐震性を備えた建物とします。また、ライフライン（電力・通信・給排水・ガス等）が途絶えた場合においても、非常時の活動を継続できるよう、機能の維持・強化対策を行います。

(1)整備対象地

① 整備対象地に求められる条件

- 「未来の学びの場」のめざす姿や、アンケート・ワークショップ等での意見、上記の施設要件等を踏まえると、(仮称)生涯学習センターの整備対象地の条件として、以下が求められます。
- 市内全域の市有地のうち、下記の条件を満たす最適な市有地を、現在の活用状況だけでなく近い将来に活用が可能となる計画の策定状況も踏まえ、整備対象地として選定します。

《整備対象地に求められる条件》

中心性・拠点性	• 市内における新たな生涯学習環境及び交流拠点の形成に向け、既存及び将来の公共施設の配置等を踏まえた、中心性・拠点性を備えることができる立地であること
交通便利性	• 市域の中心部であり、市域のどこからでも訪れやすいアクセス性が良好な立地であること • 車での交通利便性(幹線道路からのアクセス性、前面道路の幅員、十分な規模の駐車場が確保できる敷地面積など)の高い立地であること
防災性	• 大地震及び大地震により引き起こされる災害を想定し、機能継続を図ることができるよう、これらの災害に対するリスクの低い立地であること
敷地要件・法令要件	• (仮称)生涯学習センターを整備できる敷地面積・土地形状などの敷地要件及び法令要件を満たすこと
他施設との連携可能性	• その他公共サービスの充実に向けた、周辺の公共施設等との近接性・連携可能性があること

② (仮称)生涯学習センターの整備対象地

- 上記の整備対象地に求められる条件及び市域全体の市有地の活用状況や計画の策定状況をふまえ、全体最適の視点で様々な条件整理を全庁的に行った結果、(仮称)生涯学習センターの整備対象地は、泉大津市公営住宅等長寿命化計画(平成31年3月)に基づき二田市営住宅との集約建替えが検討されている寿市営住宅の敷地として、現在活用されている市有地(以下「寿町市有地」といいます。)とします。

《寿町市有地に対する評価》

- 寿町市有地は、府道大阪臨海線よりも東側の、住居施設が多く立地する市域の中心に位置しており、泉大津市都市計画マスタープラン(平成30年3月)の「将来都市構造」の中で「交流拠点」として位置付けられた古池公園に近接しています。そのことから、寿町市有地は、市内において新たな生涯学習環境及び交流拠点を形成するにあたり、(仮称)生涯学習センターが中心性・拠点性を備えることのできる立地として適していると考えられます。
- また、寿町市有地は市域の中心部に位置しており、幅員9mの道路に接道していることから、車によるアクセス性も高い立地であるといえます。最寄りの鉄道駅は松ノ浜駅であり、公共交通でのアクセス性も一定の利便性が確保できます。
- 敷地形状は平坦な整形地で、寿市営住宅のすべての住戸が移転を完了した際は、敷地規模は最大で約6,200㎡(公簿面積)確保することができるため、移転完了後においては施設計画の自由度が高く、駐車場台数も十分に確保できます。
- 最寄りの鉄道駅である松ノ浜駅前には、生涯学習と地域のコミュニティの創造の場であるあすとホールが立地しており、(仮称)生涯学習センターの各諸室等の機能連携や、施設運営における連携等を行うことが可能になると考えられます。これにより、市民の生涯学習活動の推進に資する、より効果的な公共サービスの提供が可能になると期待できます。

図表 17 整備対象地の概要及び位置

所在地	寿町	用途地域 等	第1種中高層住居専用地域／準防火地域
敷地面積	約6,200 m ² (公簿面積)	容積率／建ぺい率	200％／60％



注：図は「泉大津市都市計画マスタープラン」(平成 30 年 3 月)の「将来都市構造イメージ」を編集して作成したものです。図中の凡例にある「拠点」、「軸」は、都市計画マスタープランにおいて、それぞれ以下のとおり定められています。

中心拠点：本市の玄関口として、高次の商業・業務やサービス機能の充実を図る地区
 地域拠点：鉄道駅周辺の日常生活に必要な都市機能の集積を図る地区
 交流拠点：公園・緑地・水辺など憩いの場として人々が集う地区
 広域交流軸：広域的な交通ネットワークを構成する主要な幹線道路および鉄道
 生活交流軸：広域交流軸を補完し市内の東西、南北方向での連携を図り、交流の中心となる生活幹線道路
 水と緑のネットワーク軸：緑や親水空間と連携する道路や河川

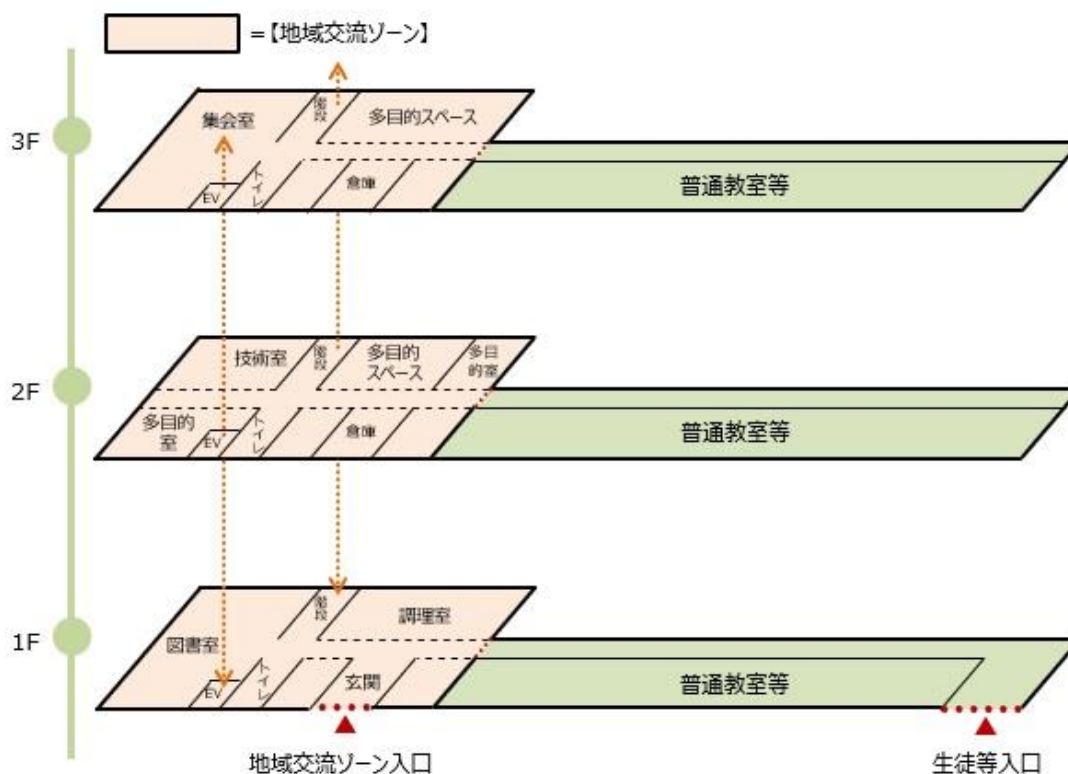
2 地域交流ゾーン(小・中学校)

- (仮称)生涯学習センターと連携した身近な活動・交流の場としての機能を充実させるため、以下の諸室・機能を基本要件として、各学校・校区の取組状況や敷地制約等に応じた整備を行います。
- 地域交流ゾーンについては、整備が完了した時点から身近な地域活動の場として積極的な活用を推進します。
- なお、すでに改修・建替を完了している小・中学校については、地域交流ゾーンに類するエリアとして、引き続き、図書室等の一部スペースの地域開放に取り組みます。

《地域交流ゾーンの基本要件》

- 地域住民が、学校の特別教室等を、学校教育活動を優先にしながら、日常的に利用できる活動スペース
- 地域住民と学校(児童・生徒)と一緒に利用する、交流空間としての地域開放型図書室
- 特定の利用目的に対応した特別な設備を有する諸室(音楽室等)
 - ※それぞれの学校の地域交流ゾーンであらゆる利用目的をカバーするのではなく、(仮称)生涯学習センターと機能や設備をすみ分け、市域全体として網羅的に確保することを想定する。
 - ※学校の特別教室(音楽室、調理室等)を曜日や時間帯で分けて使用することを想定(平日は学校使用を優先しながら、運用面の工夫が必要)

図1 地域交流ゾーンイメージ図



3 南・北公民館及び勤労青少年ホーム

- 各施設ともすでに老朽化が進んでいるため、適切な時期に廃止・解体撤去を行い、その機能や役割を、地域交流ゾーンへ分散又は(仮称)生涯学習センターへ集約する必要があります。
- ただし、生涯学習活動に取り組む市民の活動の場が継続できるよう、受け皿となる施設の整備等、活動継続のための環境が整うまでの間は、順次整備される小・中学校の地域交流ゾーンの活用を推進し、既存の南・北公民館及び勤労青少年ホームについては、適切な維持管理や必要な修繕等を行います。そして、(仮称)生涯学習センターの整備が完了したのちに、速やかに廃止・解体を行うこととします。

IV 配置計画

1 各施設の整備方針と事業スケジュール

- 各小・中学校の改修・建替のタイミングに合わせて、地域交流ゾーンの整備を進めます。なお、すでに改修・建替が完了している3校(戎小学校、条東小学校、旭小学校)については、地域交流ゾーンに類するエリアとして、図書室等の一部スペースの地域開放に取り組みます。
- (仮称)生涯学習センターは、寿市営住宅の移転が完了し、施設の解体撤去が完了し次第、順次施設整備を進めます。

図表 18 事業スケジュール

公共施設適正配置基本計画 における計画期間	第2期		第3期	
対象期間	2022～2026年度 (R4～R8)	2027～2031年度 (R9～R13)	2032～2036年度 (R14～R18)	2037～2039年度 (R19～R21)
地域交流ゾーン	小・中学校の改修・建替に併せて順次整備			
(仮称)生涯学習センター		整備	供用開始	
南公民館・北公民館・ 勤労青少年ホーム	継続利用		解体撤去	
(参考)寿市営住宅		移転完了		
(参考)二田市営住宅		集約建替		

図表 19 地域交流ゾーンの整備スケジュール

公共施設適正配置基本計画 における計画期間		第2期		第3期	
対象期間		2022～2026年度 (R4～R8)	2027～2031年度 (R9～R13)	2032～2036年度 (R14～R18)	2037～2039年度 (R19～R21)
小津 中学校区	小津中学校	供用開始			
	上條小学校		供用開始		
	条東小学校	供用開始			
東陽 中学校区	東陽中学校	※令和22年度以降に供用開始予定			
	旭小学校	※地域交流ゾーンに類するエリアをすでに整備			
	浜小学校		供用開始		
	条南小学校	※地域交流ゾーンに類するエリアをすでに整備			
誠風 中学校区	誠風中学校				供用開始
	戎小学校	※地域交流ゾーンに類するエリアをすでに整備			
	穴師小学校			供用開始	
	楠小学校		供用開始		

第2部 その他の教育施設

I 施設計画

1 小・中学校(地域交流ゾーンを除く):校舎、体育館

- 校舎及び体育館ともに、公共施設適正配置基本計画において定めた方針に基づき、適切な維持管理を行いながら、改修や大規模改修や建替を進めます。

2 教育支援センター

- 公共施設適正配置基本計画で示すとおり、機能の維持が必要です。
教職員の資質向上を図る拠点施設であるとともに、学校や家庭における教育への適切な支援を行う上で不可欠な役割を担っていることから、教育支援センターが有する機能を踏まえた適切な整備地について、市域全体の現状に加え、将来に活用が可能となる敷地なども視野に選定していきます。

3 図書館(シープラ)

- 移転・複合化が完了しており、適切な維持管理を行います。

4 織編館・文化財収蔵庫

- 市の文化財等は、現在分散している状況であることから、今後は、文化財等の効率的・効果的な保存・活用を考え、博物館機能を集約することを検討します。

5 池上曾根弥生学習館

- 適切な維持管理を行っていく一方で、空調設備などについては大規模な改修の必要性が見込まれることから、計画的な改修を検討する必要があります。また、史跡池上曾根遺跡に関しては和泉市教育委員会をはじめ、大阪府などの関係機関・地域等と連携しながら保存と活用及び整備と改修を進めていきます。

6 あすとホール

- あすとホールについては、PFI 事業として令和 12 年度まで継続することから、事業実績や効果等の検証に加え、(仮称)生涯学習センターや各学校の地域交流ゾーンの整備状況を踏まえたうえで、今後の施設のあり方を検討します。また、施設の空調設備については耐用年数を超えており、不具合も発生していることから改修が必要となっています。

7 おてんのう会館

- おてんのう会館については、コロナ禍により利用者の大幅な減少はあったものの、公共施設適正配置基本計画において定めた方針で示すとおり、既に地域組織において管理運営されていることから、地域の実情に沿った地域移管を進めます。

8 総合体育館

- 公共施設適正配置基本計画において定めた方針に基づき、適切な維持管理及び施設の環境整備を行うとともに、施設の長寿命化を図ります。また、必要に応じて利用料金の見直しを行い、利用者負担の適正化を図ります。

9 学校プール

- 学校プール施設における水泳授業については、天候や気温により授業時間確保が不安定となることやプールの老朽化による維持管理や修繕費用の増大ならびにプール建替等の更新費用等ハード面の課題や水泳授業に係る教員の負担、水泳指導スキルのバラつきといったソフト面の課題があります。これらを踏まえ、学校プール施設のあり方については、適切な維持管理を行いながら、子どもたちの健全な体づくりと水泳技術の向上とともに教員の負担軽減を図ることを目的とした民間委託なども視野に入れた学校水泳授業の今後のあり方と併せて検討します。

資料編

I 教育施設再編計画検討状況

本計画策定にあたっては、様々な視点での意見や助言に基づいて策定するため、教育委員会会議や総合教育会議をはじめ、学識経験者、市民から構成される泉大津市社会教育委員会会議においても、本計画についての検討を重ねてきました。

	日 時	議 題 等
1	令和3年6月11日(金) (社会教育委員会会議)	・社会教育施設再編計画の進捗状況について(書面開催)
2	令和3年8月18日(水) (総合教育会議)	・教育施設配置検討業務について
3	令和3年11月22日(月) (社会教育委員会会議)	・(仮称)泉大津市教育施設再配置計画について
4	令和3年12月22日(水) (総合教育会議)	・教育施設配置検討業務の進捗状況について
5	令和4年2月9日(水) (教育委員会会議)	・(仮称)泉大津市教育施設再配置計画の進捗状況について
6	令和4年2月18日(金) (社会教育委員会会議)	・(仮称)泉大津市教育施設再配置計画の進捗について
7	令和4年5月30日(月) (社会教育委員会会議)	・(仮称)泉大津市教育施設再配置計画について
8	令和4年8月24日(水) (総合教育会議)	・教育施設再配置計画策定の進捗状況について
9	令和4年9月28日(水) (教育委員会会議)	・(仮称)教育施設再配置計画について
10	令和4年10月19日(水) (社会教育委員会会議)	・泉大津市教育施設再編計画(案)について
11	令和4年10月26日(水) (教育委員会会議)	・教育施設再編計画のパブリックコメントの実施について
12	令和4年12月6日(火)～ 令和5年1月5日(木)	・泉大津市教育施設再編計画(案)に対するパブリックコメントの募集(提出人数7人、意見提出件数12件)

13	令和 5 年 1 月 27 日(金) (社 会 教 育 委 員 会 会 議)	・泉大津市教育施設再編計画(案)に対するパブリックコメントの結果について
14	令和 5 年 2 月 8 日(水) (教 育 委 員 会 会 議)	・泉大津市教育施設再編計画のパブリックコメントの結果について
15	令和 5 年 3 月 15 日(水) (教 育 委 員 会 会 議)	・泉大津市教育施設再編計画の策定について

II 市民アンケート調査

1 調査実施概要

(1)調査目的

- 本アンケート調査は、「(仮称)泉大津市教育施設配置計画」の策定にあたり、既存の教育施設の現状や課題、市民ニーズなどについて、広く市民の意見、意向をうかがい、計画に反映していくことを目的に実施した。

(2)調査対象

- 無作為抽出した、泉大津市在住の16歳以上の市民2,000人に調査票を配布した。

(3)調査方法

- 郵送により調査票を配布し、回収方法は郵送による回収と、WEBアンケートフォーム上での回答の2種類とした。

(4)調査期間

- 令和3年8月23日～令和3年9月21日

(5)回収状況

発送数	回収数	回収率
2,000 件	725 件 (うち Web 回答:132 件)	36.3%

(6)調査結果の表示方法

- 設問ごとの集計母数はグラフ中に(n=〇〇)と表記している。
- 集計結果の百分率(%)は、小数点第2位を四捨五入した値を表記している。このため、回答設問の選択肢ごとの構成比の見かけ上の合計が100.0%にならない場合がある。
- 複数回答設問では、当該設問に回答すべき回答者数を母数として選択肢ごとにそれぞれ構成比を求めている。そのため、構成比率の合計は通常100.0%とならない。

2 単純集計結果

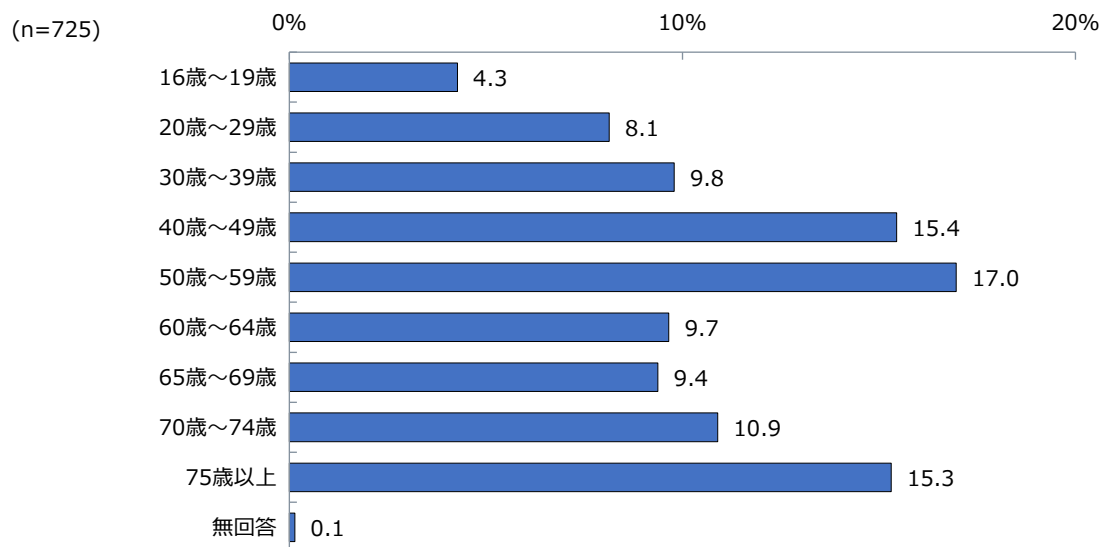
(1)あなた自身について

問 1 あなたご自身のことについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号を選んで1つに○印をつけてください。(アンケートご記入時の状況でご回答ください)

① 年齢

- 回答者の年齢別割合は「50歳～59歳」が最も高く17.0%、次いで「40歳～49歳」が15.4%、「75歳以上」が15.3%となっている。40歳以上が77.7%と高い割合になっている。

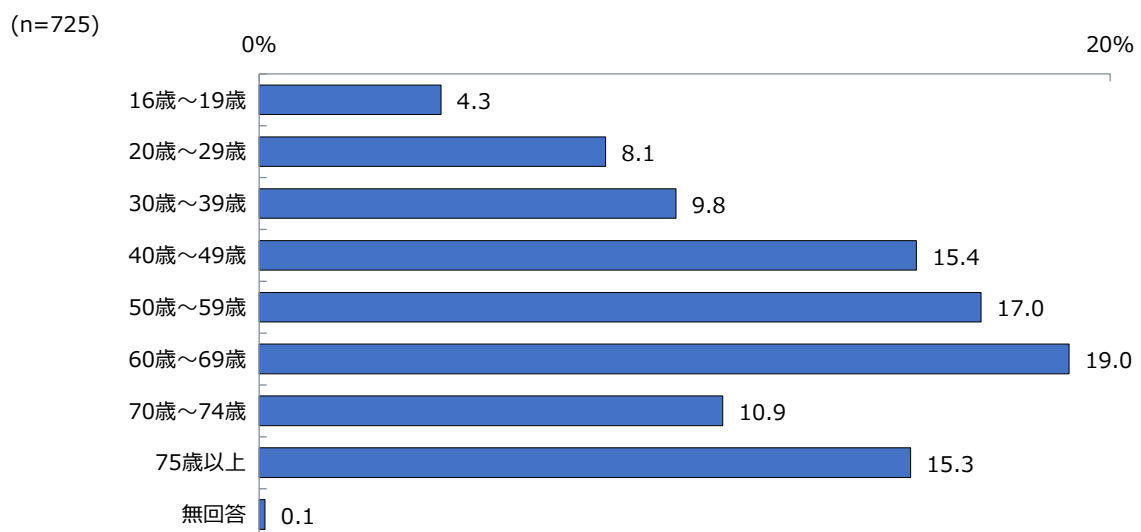
図表 1 年齢



(参考:60代を一括りにした場合)

- 60代を一括りにした場合、回答者の年齢別割合は「60歳～69歳」が最も高く19.0%となる。

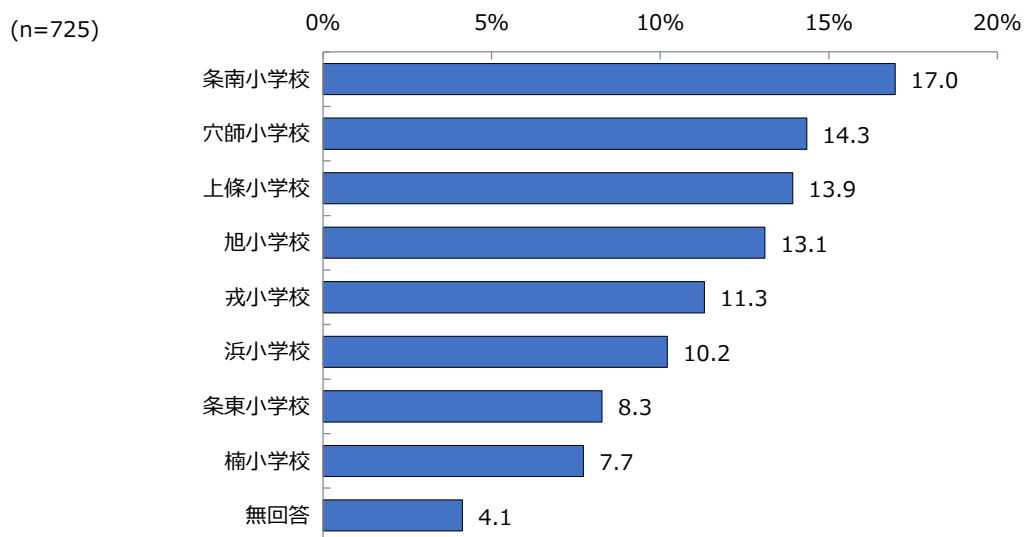
図表 2 年齢(60代を一括り)



② 居住地区

- 回答者の小学校区別割合は「条南小学校」が最も高く17.0%、次いで「穴師小学校」が14.3%、「上條小学校」が13.9%となっている。

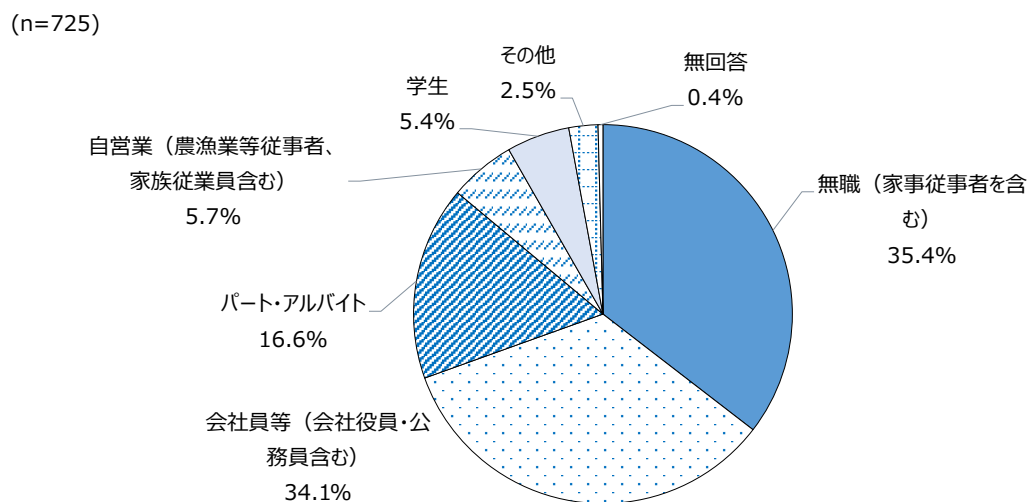
図表 3 居住地区



③ 職業

- 回答者の職業別割合は「無職(家事従事者を含む)」が最も高く35.4%、次いで「会社員等(会社役員・公務員含む)」が34.1%、「パート・アルバイト」が16.6%となっている。

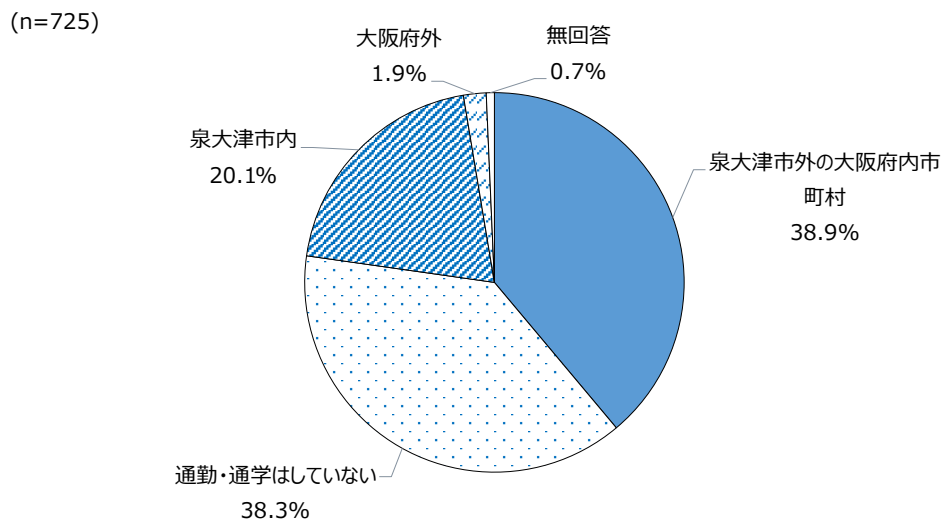
図表 4 職業



④ 通勤・通学先

- 回答者の通勤・通学先別割合は「泉大津市外の大阪府内市町村」が最も高く38.9%、次いで「通勤・通学はしていない」が38.3%、「泉大津市内」が20.1%となっている。

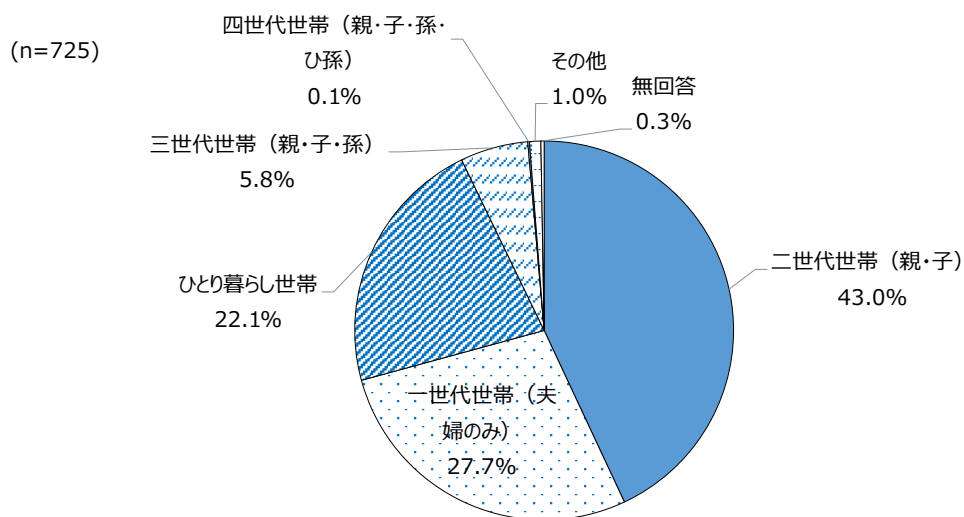
図表 5 通勤・通学先



⑤ 家族構成

- 回答者の家族構成別割合は、「二世帯世帯(親・子)」が最も高く43.0%、次いで「一世帯世帯(夫婦のみ)」が27.7%、「ひとり暮らし世帯」が22.1%となっている。

図表 6 家族構成

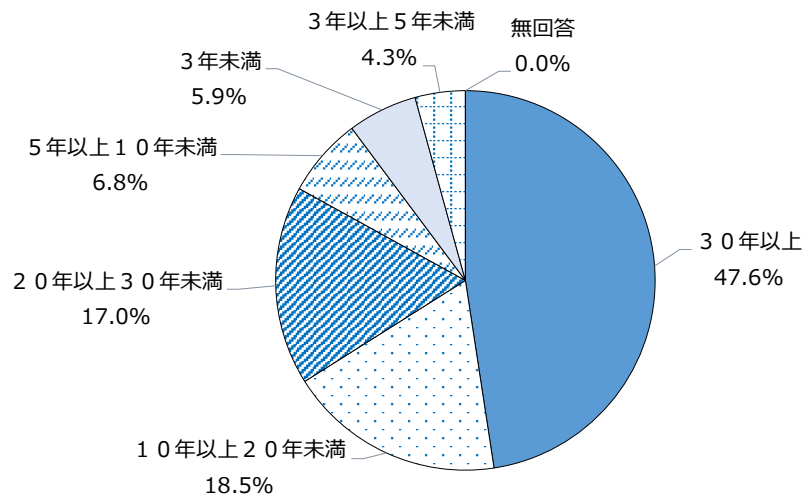


⑥ 泉大津市居住歴

- 回答者の泉大津市居住歴別割合は、「30年以上」が最も高く47.6%、次いで「10年以上20年未満」が18.5%、「20年以上30年未満」が17.0%となっている。

図表 7 居住年数

(n=725)



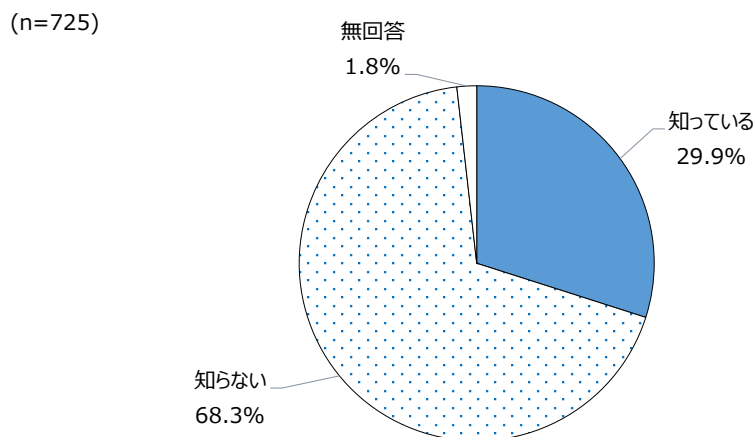
(2) 泉大津市の現状及び教育施設の現状に対する考えについて

問 2

本市が、公共施設の老朽化やそれに伴う改修費用の不足などの課題に対処していくために、施設の複合化・多機能化などにより、公共施設の数や規模を、市の将来の人口や税収の減少に見合ったものにする取組を行っていることを知っていますか？<1つに○印>

- 公共施設の数や規模を、市の将来の人口や税収の減少に見合ったものにする取組の認知度について、「知らない」と回答した人が 68.3%と過半数を占め、「知っている」と回答した人は 29.9%となっている。

図表 8 公共施設の数や規模を、市の将来の人口や税収の減少に見合ったものにする取組の認知度

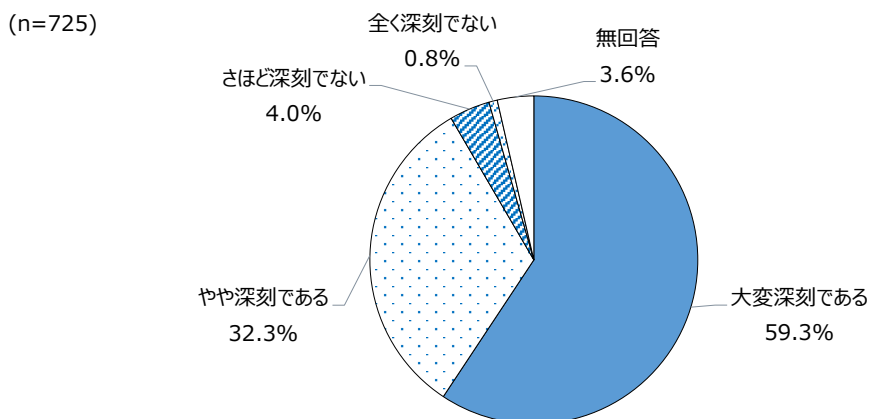


問 3

本市の教育施設の多くは老朽化が進行しており、将来も現在の数や規模を維持する場合、更新等にかかる整備費用が、令和 25 年までで約 120 億円（1 年あたり 5.5 億円）という試算結果になっています。このことについてどのように思いますか？<1つに○印>

- 教育施設の整備費用について、「大変深刻である」と回答した人が 59.3%と過半数を占め、次いで「やや深刻である」と回答した人が 32.3%と 91.6%の人が「深刻である」と感じている。

図表 9 教育施設の整備費用

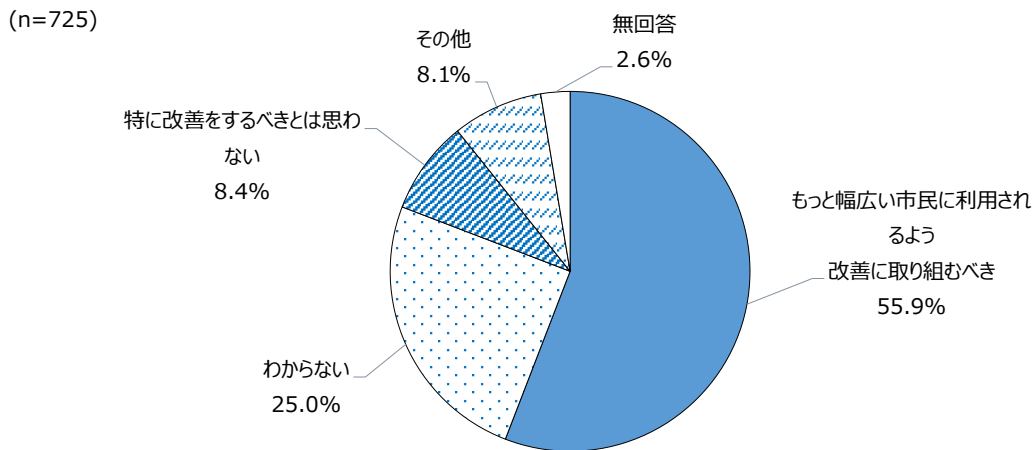


問 4

平成 28 年に実施した市民アンケートでは、過去 1 年間に南・北公民館、勤労青少年ホームを「利用していない」と回答した人が 8 割以上でした。このことについてどのように思いますか？ <1 つに〇印>

- 南・北公民館、勤労青少年ホームの利用状況に関する意見は、「もっと幅広い市民に利用されるよう改善に取り組むべき」が最も高く 55.9%と過半数を占め、「特に改善をするべきとは思わない」が 8.4%となっている。

図表 10 南・北公民館、勤労青少年ホームの利用状況に関する意見



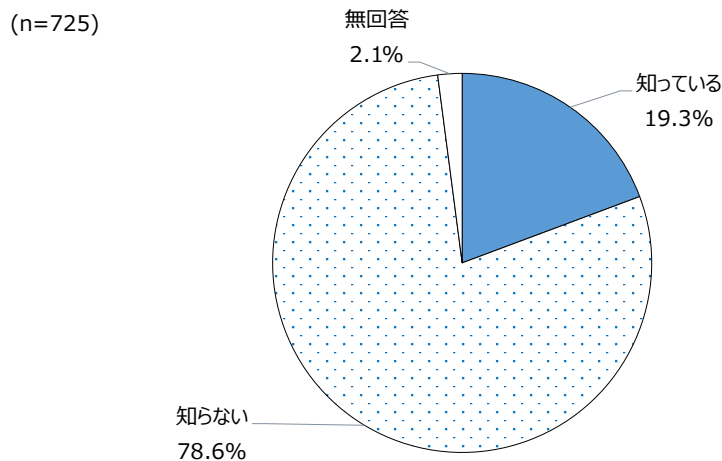
(3)学校教育施設の利用経験および複合化・多機能化について

問 5

りぶれ EBISU、ミント条東、ブックランド・あさひといった学校図書室の地域開放や、校庭・園庭開放、おやこ広場などの本市の学校・就学前施設における地域開放の取組を知っていますか？ <1 つに〇印>

- 学校・就学前施設における地域開放の取組について、「知っている」が 19.3%、「知らない」が 78.6%となっている。

図表 11 学校・就学前施設における地域開放の取組の認知度



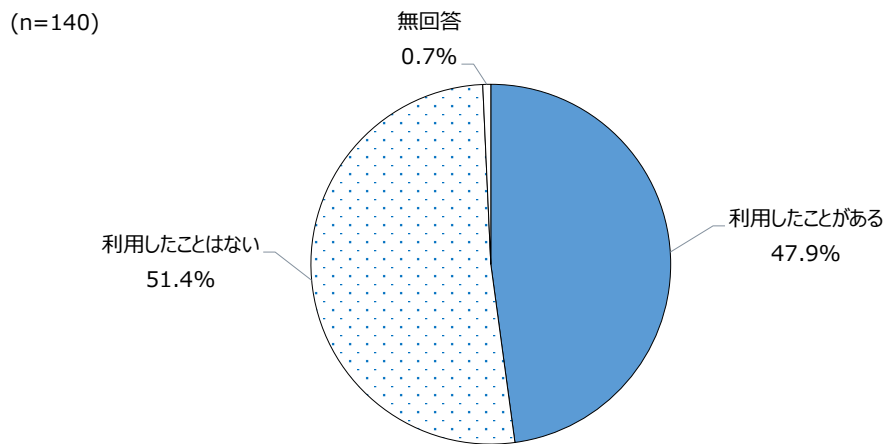
問 6

(問 5 で「1 知っている」と回答した方にお聞きします) 学校図書室など学校で地域開放されているスペースや、就学前施設の地域開放を利用したことはありますか？
 <1 つに〇印>

① 学校・就学前施設の地域開放の利用の有無

- 学校・就学前施設における地域開放の取組を知っていると回答した方において、学校で地域開放されているスペースや、就学前施設の地域開放の利用の有無について、「利用したことがある」が 47.9%、「利用したことはない」が 51.4%となっている。

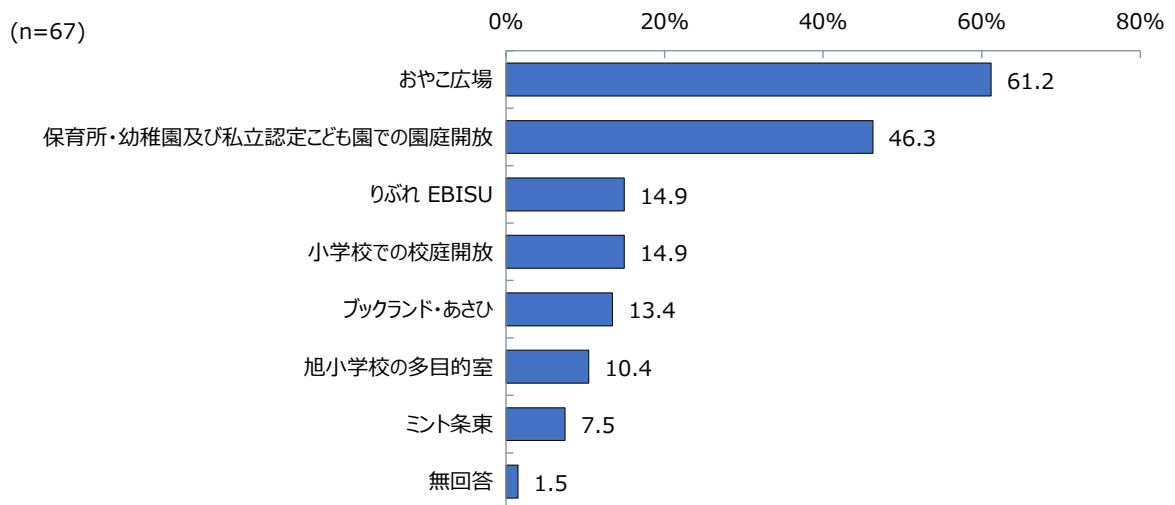
図表 12 学校・就学前施設の地域開放の利用の有無



② 利用した施設

- 学校・就学前施設における地域開放を利用したことがあると回答した方において、利用したことがある施設は「おやこ広場」が最も高く 61.2%、次いで「保育所・幼稚園及び私立認定こども園での園庭開放」が 46.3%、「りぶれ EBISU」が 14.9%、「小学校での校庭開放」が 14.9%となっている。

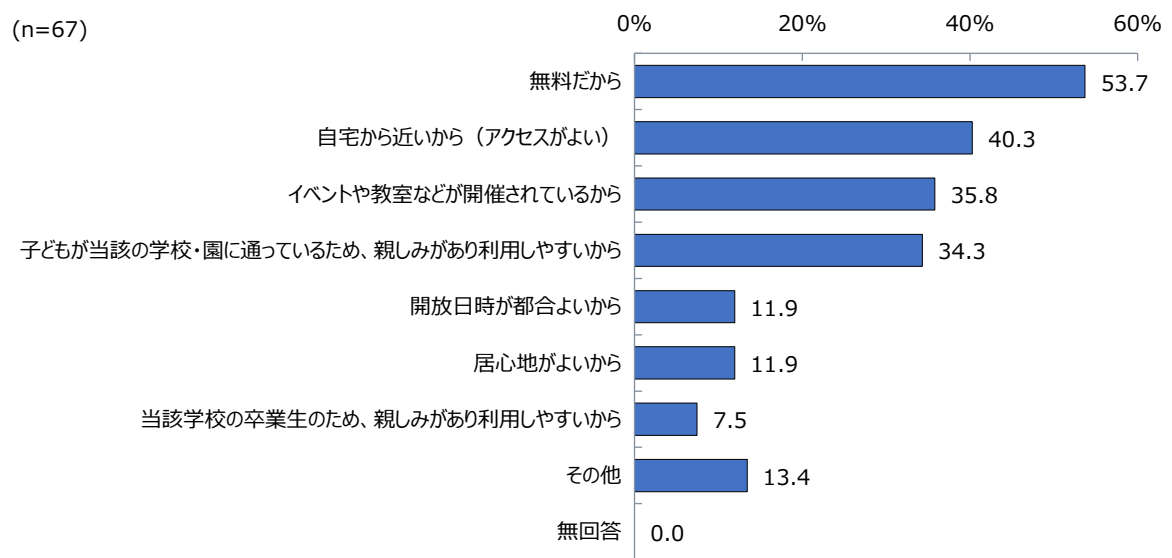
図表 13 利用したことがある施設〔複数回答〕



問 7 (問6で「1 利用したことがある」と回答した方にお聞きします) どのような理由で地域開放スペースを利用しましたか？<あてはまるものに○印(いくつでも)>

- 学校・就学前施設における地域開放を利用したことがあると回答した人において、施設を利用した理由は「無料だから」が最も高く 53.7%、次いで「自宅から近いから(アクセスがよい)」が 40.3%、「イベントや教室などが開催されているから」が 35.8%、「子どもが当該の学校・園に通っているため、親しみがあり利用しやすいから」が 34.3%となっている。

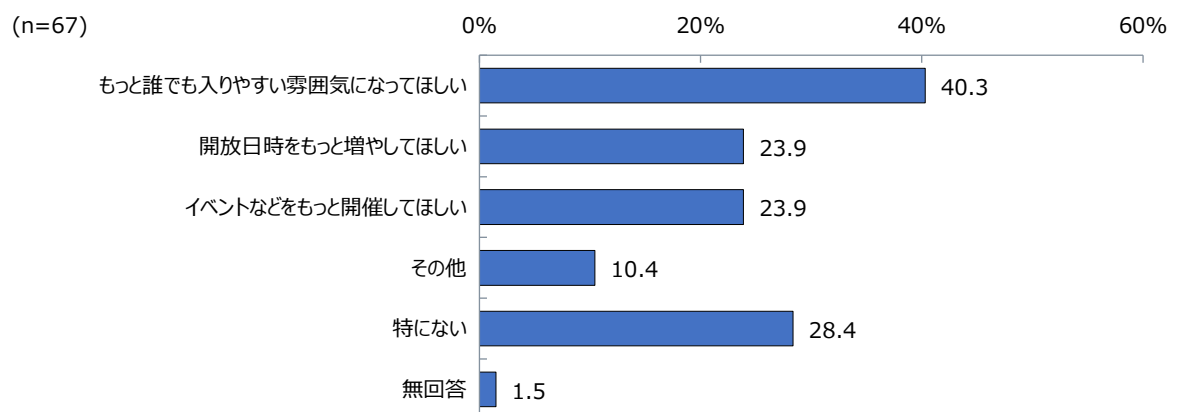
図表 14 利用した理由〔複数回答〕



問 8 (問6で「1 利用したことがある」と回答した方にお聞きします) 利用したことがある地域開放のスペースについて、もっと使いやすくなるために必要なことや、改善した方がよい点などがあれば、教えてください。 <あてはまるものに○印(いくつでも)>

- 学校・就学前施設における地域開放を利用したことがあると回答した人に、施設をもっと使いやすくなるために必要なことや、改善した方がよい点を聞いたところ、「もっと誰でも入りやすい雰囲気になってほしい」が最も高く 40.3%、次いで「開放日時をもっと増やしてほしい」が 23.9%、「イベントなどをもっと開催してほしい」が 23.9%となっている。一方、「特にない」が 28.4%となっている。

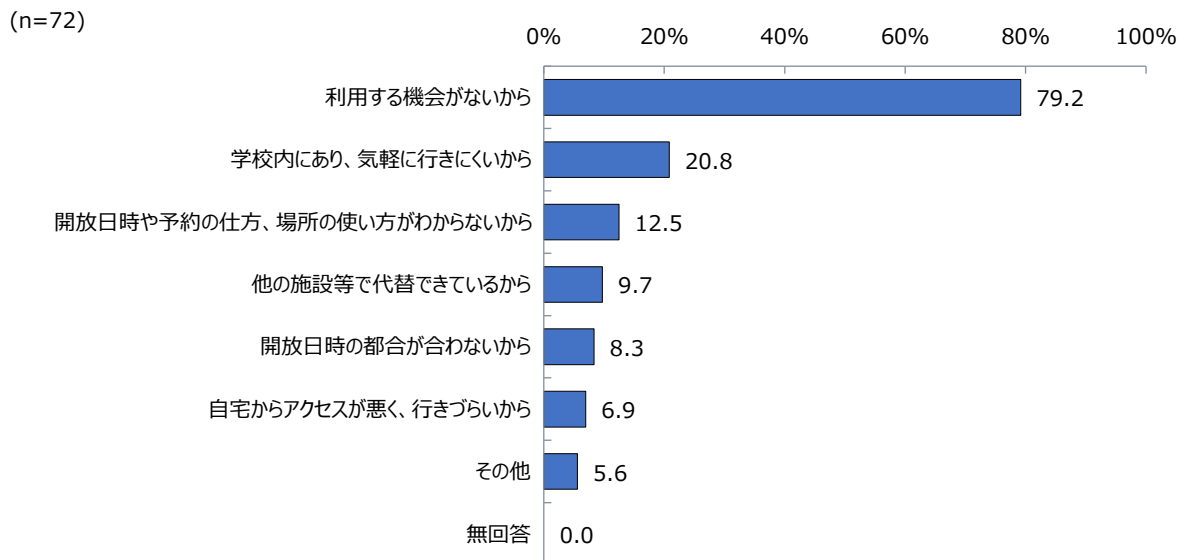
図表 15 もっと使いやすくなるために必要なことや、改善した方がよい点〔複数回答〕



問 9 (問6で「2利用したことはない」と回答した方にお聞きします) 利用していない理由を教えてください。 <あてはまるものに○印 (いくつでも)>

- 学校・就学前施設における地域開放を利用したことはないと回答した人において、利用していない理由は、「利用する機会がないから」が最も高く 79.2%、次いで「学校内にあり、気軽に行きにくいから」が 20.8%、「開放日時や予約の仕方、場所の使い方がわからないから」が 12.5%、となっている。

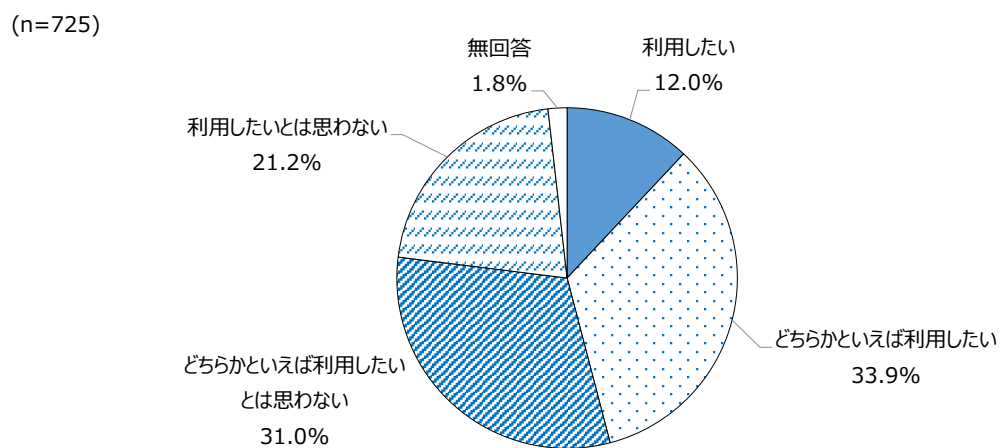
図表 16 利用していない理由〔複数回答〕



問 10 今後、学校内に「地域交流ゾーン」を整備していく予定です。自宅近くの学校に「地域交流ゾーン」ができれば、利用したいと思いますか？ <1つに○印>

- 「地域交流ゾーン」の利用意向について「利用したい」が 12.0%、「どちらかといえば利用したい」が 33.9%と利用したい人が 45.9%であり、「どちらかといえば利用したいとは思わない」が 31.0%、「利用したいとは思わない」が 21.2%と利用したいと思わない人が 52.2%となっている。

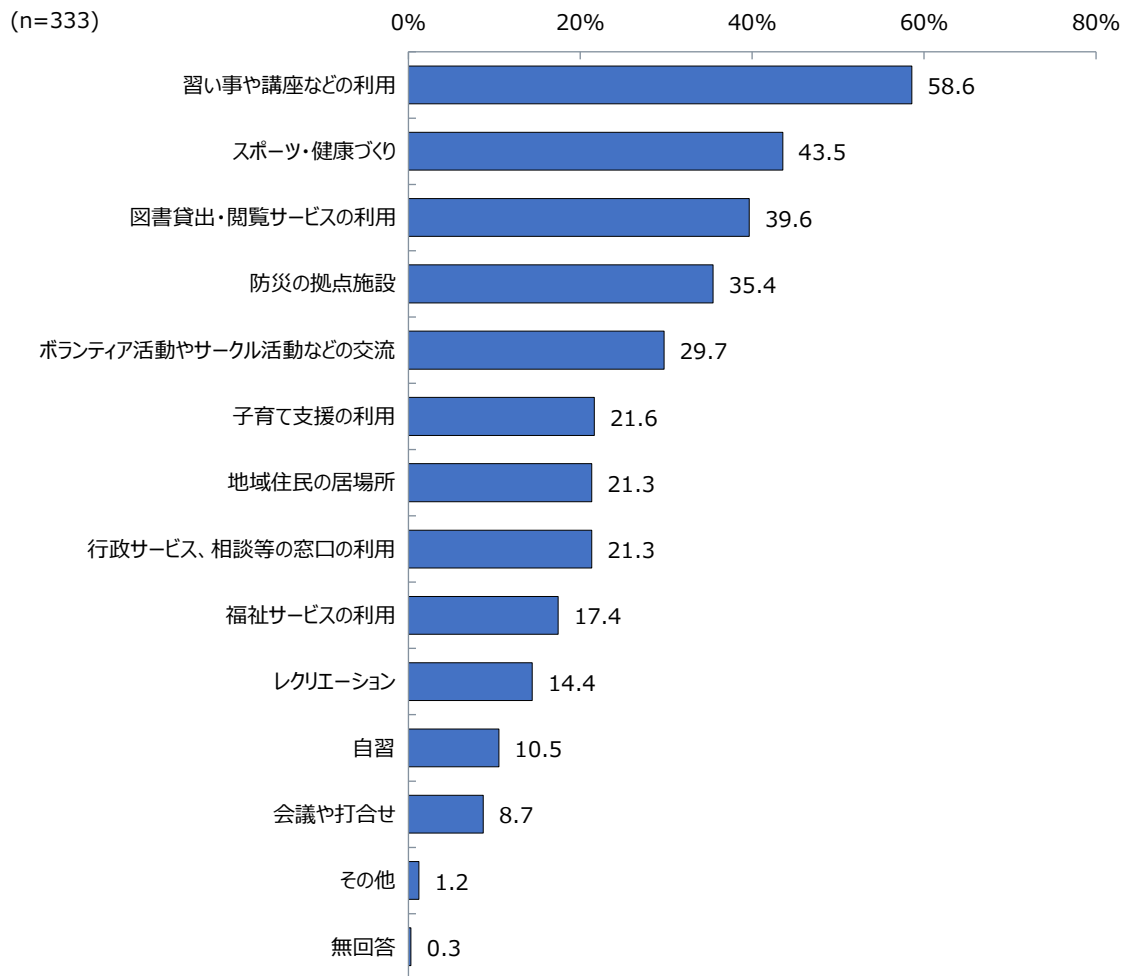
図表 17 「地域交流ゾーン」の利用意向



問 11 (問 10 で「1 利用したい」「2 どちらかといえば利用したい」と回答した方にお聞きします) どのような目的で利用したいですか? <あてはまるものに○印(いくつでも)>

- 「地域交流ゾーン」の利用意向がある人において、「地域交流ゾーン」を利用したい目的については、「習い事や講座などの利用」が最も高く 58.6%、次いで「スポーツ・健康づくり」が 43.5%、「図書貸出・閲覧サービスの利用」が 39.6%、「防災の拠点施設」が 35.4%となっている。

図表 18 利用したい目的〔複数回答〕

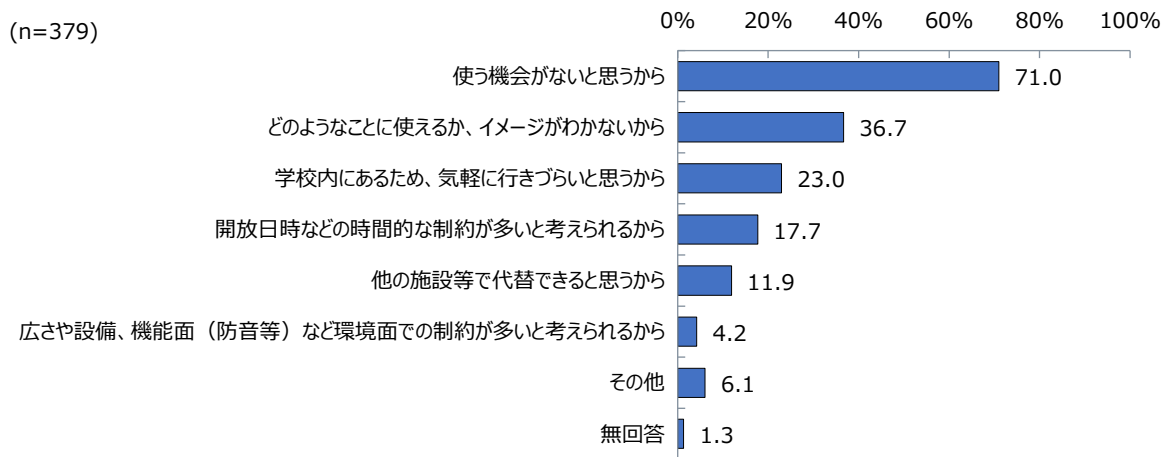


問 12

(問 10で「3どちらかといえば利用したいとは思わない」「4利用したいとは思わない」と回答した方にお聞きします) そう思う理由を教えてください。
 <あてはまるものに○印 (いくつでも) >

- 「地域交流ゾーン」の利用意向はない人において、「地域交流ゾーン」を利用したいと思わない理由については、「使う機会がないと思うから」が最も高く71.0%、次いで「どのようなことに使えるか、イメージがわからないから」が36.7%、「学校内にあるため、気軽に行きづらいと思うから」が23.0%となっている。

図表 19 利用したいと思わない理由〔複数回答〕

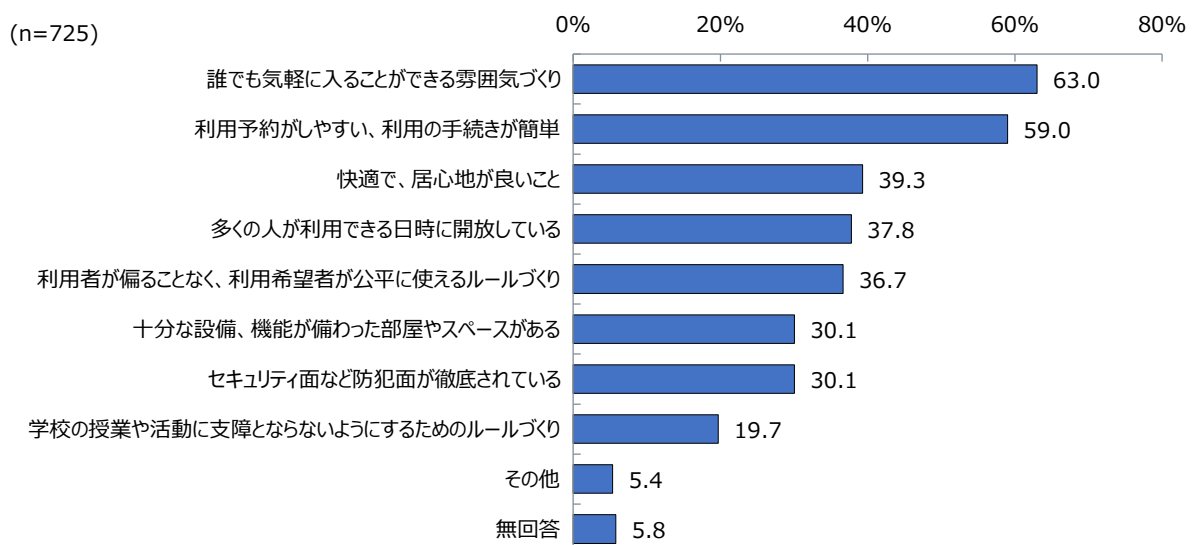


問 13

地域交流ゾーンをよりたくさんの人に使ってもらうために必要なことは何だと思えますか？ <あてはまるものに○印 (いくつでも) >

- 地域交流ゾーンをよりたくさんの人に使ってもらうために必要なことについて「誰でも気軽に入ることができる雰囲気づくり」が63.0%、「利用予約がしやすい、利用の手続きが簡単」が59.0%、「快適で、居心地が良いこと」が39.3%、「多くの人が利用できる日時に開放している」が37.8%、「利用者が偏ることなく、利用希望者が公平に使えるルールづくり」が36.7%となっている。

図表 20 地域交流ゾーンをよりたくさんの人に使ってもらうために必要なこと〔複数回答〕



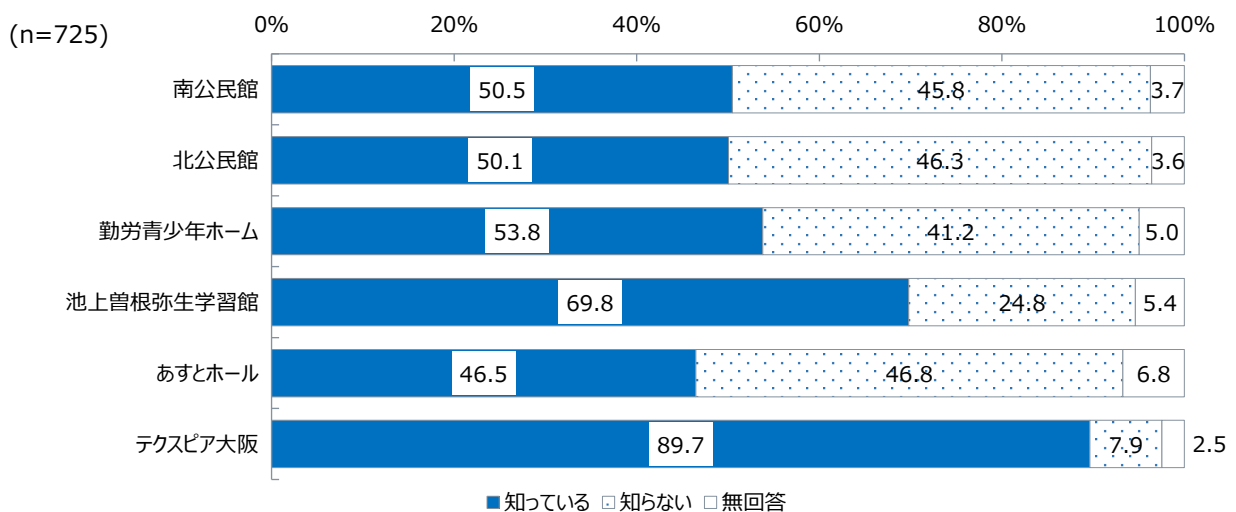
(4)生涯学習施設の利用経験および複合化・多機能化について

問 14 あなたは以下の施設がどこにあるか知っていますか？ <それぞれ1つに○印>

生涯学習施設の場所について、南公民館の場所は「知っている」が 50.5%、「知らない」が 45.8%、北公民館の場所は「知っている」が 50.1%、「知らない」が 46.3%、勤労青少年ホームの場所は「知っている」が 53.8%、「知らない」が 41.2%であり、これら 3 施設では「知っている」は約半数となっている。

- 池上曽根弥生学習館の場所は「知っている」が 69.8%、「知らない」が 24.8%、あすとホールは「知らない」が 46.8%、「知っている」が 46.5%、テクスピア大阪の場所は「知っている」が 89.7%、「知らない」が 7.9%となっている。「テクスピア大阪」は約9割の人が「知っている」と回答しており認知度が他施設に比べ高くなっている。

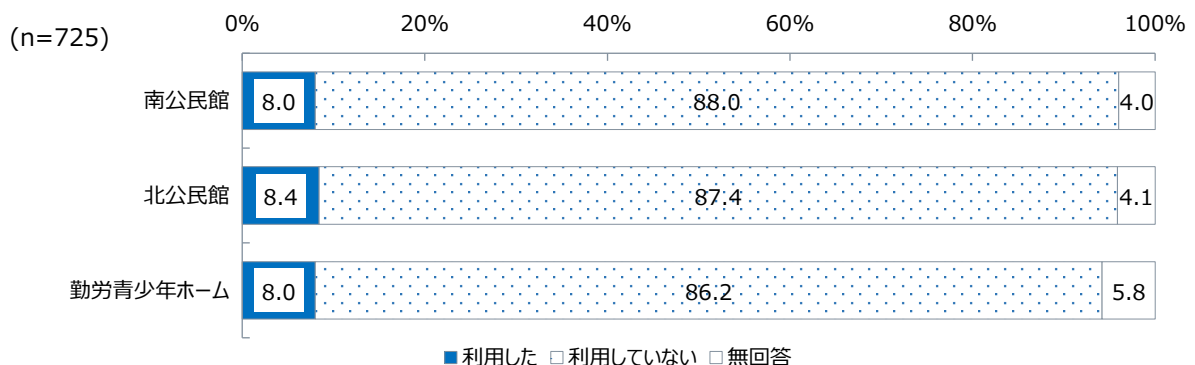
図表 21 各施設の場所の認知状況



問 15 あなたは過去3年間に、南・北公民館、勤労青少年ホームを利用しましたか？ <それぞれ1つに○印>

- 南公民館は、「利用していない」が 88.0%、「利用した」が 8.0%、北公民館は、「利用していない」が 87.4%、「利用した」が 8.4%、勤労青少年ホームは、「利用していない」が 86.2%、「利用した」が 8.0%となっている。どの施設も約8割の人が利用していない。

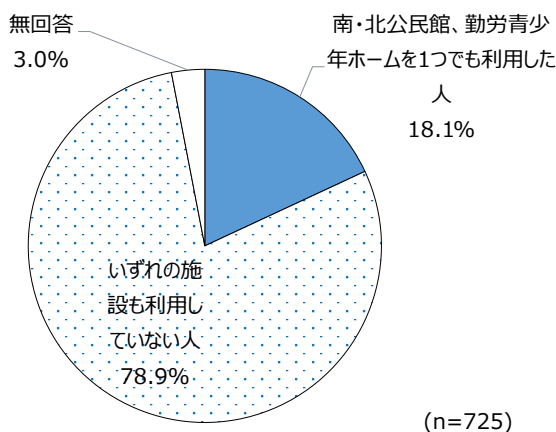
図表 22 過去3年間の各施設の利用状況



【南・北公民館、勤労青少年ホームのうちいずれか1つでも利用した人の割合】

- 南・北公民館、勤労青少年ホームのうちいずれか1つでも利用した人の割合は 18.1%、いずれの施設も利用していない人は、78.9%と、いずれの施設も利用していない人が約 8 割を占めている。

図表 23 過去 3 年間の施設の利用状況

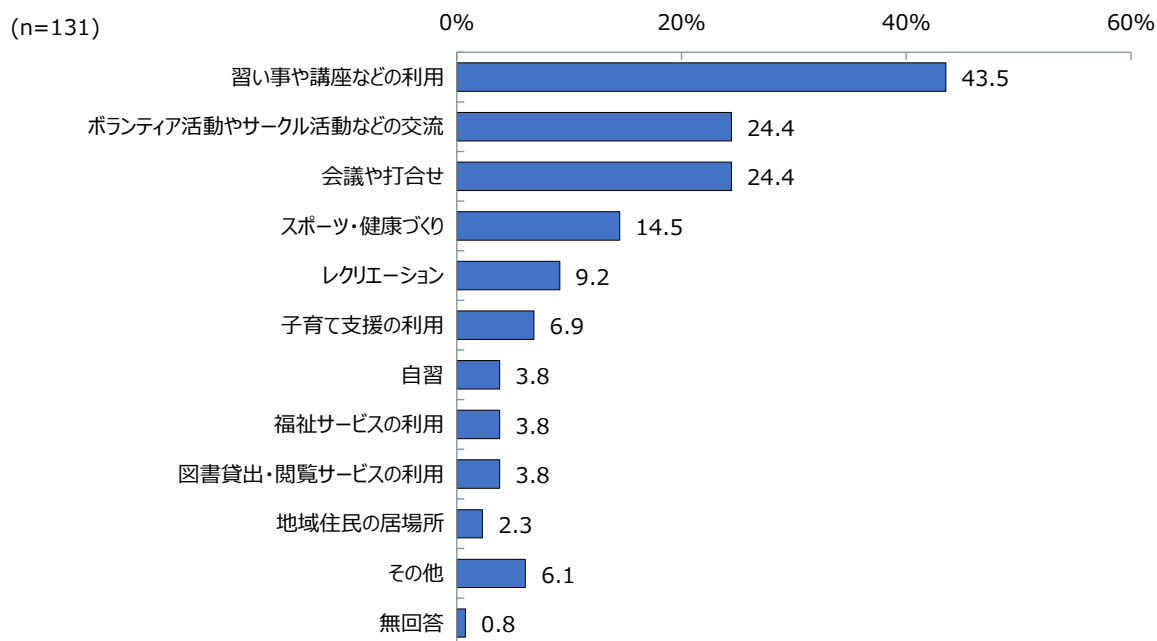


問 16

(問 15 で1つでも「1 利用した」と回答した方にお聞きします) 南・北公民館、勤労青少年ホームをどのようなことで利用しましたか? <あてはまるものに○印 (いくつでも) >

- 南・北公民館、勤労青少年ホームのいずれかを利用した人において、利用した目的については「習い事や講座などの利用」が最も高く 43.5%、次いで「ボランティア活動やサークル活動などの交流」が 24.4%、「会議や打合せ」が 24.4%となっている。

図表 24 南・北公民館、勤労青少年ホームの利用目的〔複数回答〕



問 17 (問 15 で1つでも「1 利用した」と回答した方にお聞きします) 南・北公民館などの生涯学習施設について、もっと使いやすくなるために必要なことや、改善した方がよい点などがあれば、教えてください。

項目	主な意見	件数
施設、設備面の改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化が進んでいるので、トイレなどキレイな設備にする ・バリアフリーにする。エレベーターをつける。駐車場を広くする ・授乳室を設置する。 ・明るいデザイン 等 	26
周知・広報	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館での習い事やイベント等を知ってもらうために、小学校、中学校で紹介できるようにプリント配布する。 ・何をしているのか、何が出来るのかを発信した方が良い。子どもがいない世代は存在すら知らないため、市民だより等でもっと発信すべき ・誰でも利用できるという発信 ・目に付くところにポスターを貼る 等 	11
講座やイベント等の充実、工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・季節、ジャンルごとに専門の先生を呼んで各講座を開く。歴史や、PC、携帯アプリの使い方講座など ・若い人たちにも利用しやすい習い事や講座などを増やす ・講座に「預かり保育」があれば利用しやすい ・子育て世代や共働きの人にも利用しやすいようクラブ活動の役員やクラブ以外の施設掃除や祭りの手伝いをしなくてもいいような仕組みが必要 等 	8
雰囲気	<ul style="list-style-type: none"> ・開放感がある施設の雰囲気づくりが必要 ・いつでも何もなくても立ち寄れる雰囲気が感じられるとよい。解放感もなく、全体的に暗い印象 等 	5
利用できる時間帯、曜日	<ul style="list-style-type: none"> ・土日などみんなが使いやすい時間にもやってほしい ・通常の仕事以外の時間帯で利用できるとよい 等 	4
利用の手続き面	<ul style="list-style-type: none"> ・利用の手続きを簡単にする 等 	3
交通アクセス	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢になっても行きやすいところにある 等 	2
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係や、特定の人に負担が集中することが原因で利用を躊躇する場合もあると思う ・職員対応の含め、気持ちよく利用できる施設がよい 等 	6

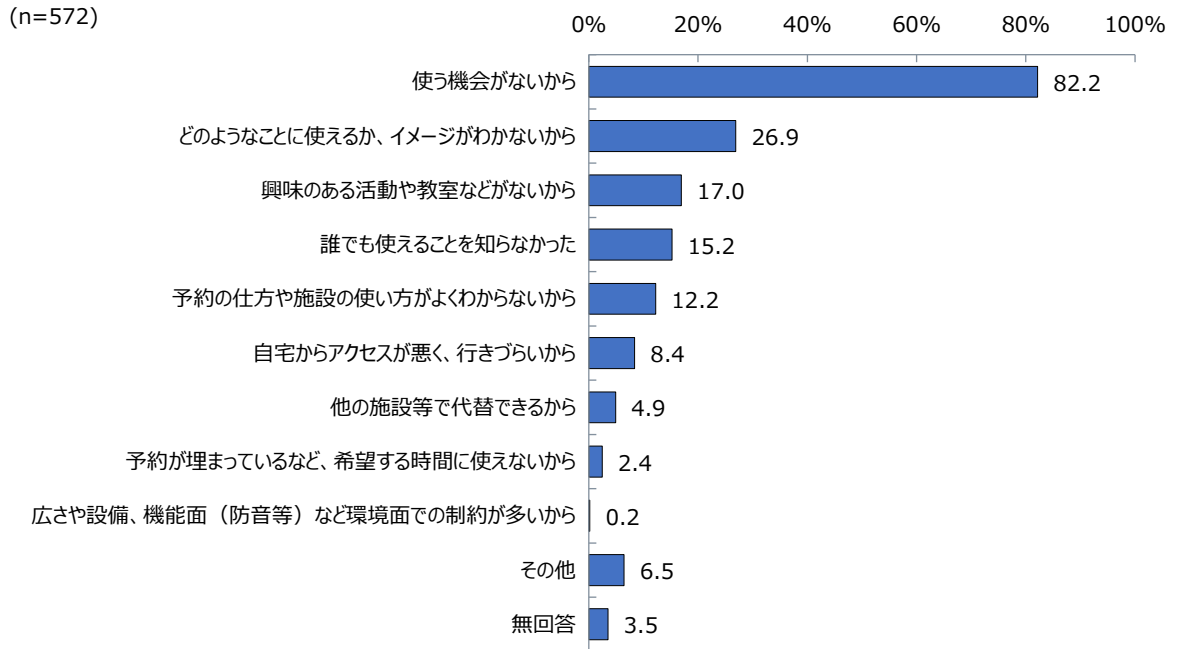
※ 1つの回答で複数の内容を含むものは重複してカウントしており、件数の合計が回答数ではない。

問 18

(問 15 ですべて「2利用していない」と回答した方にお聞きします) 利用していない、もしくは利用できていない理由を教えてください。〈あてはまるものに○印(いくつでも)〉

- 南・北公民館や勤労青少年ホームのいずれも利用していないと回答した人における、利用していない理由については、「使う機会がないから」が最も高く82.2%、次いで「どのようなことに使えるか、イメージがわからないから」が26.9%、「興味のある活動や教室などがないから」が17.0%となっている。

図表 25 南・北公民館、勤労青少年ホーム利用していない理由〔複数回答〕

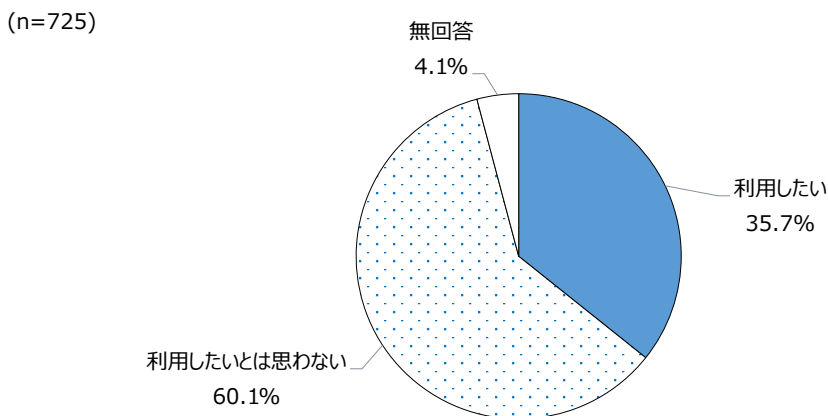


問 19

あなたは、南・北公民館などの生涯学習施設を利用したいと思いますか?〈1つに○印〉

- 南・北公民館などの生涯学習施設の利用意向について「利用したい」が35.7%、「利用したいとは思わない」が60.1%となっている。「利用したいとは思わない」が過半数を占めている。

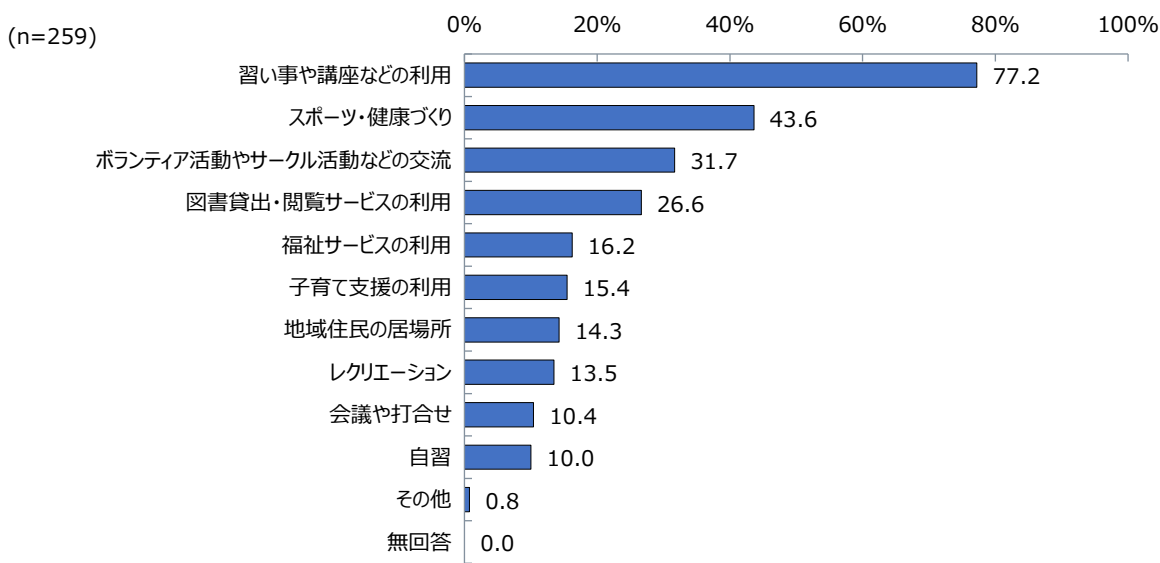
図表 26 南・北公民館などの生涯学習施設の利用意向



問 20 (問 19 で「1 利用したい」と回答した方にお聞きします) あなたは、南・北公民館などの生涯学習施設をどのようなことで利用したいですか？
 <あてはまるものに○印 (いくつでも) >

- 南・北公民館などの生涯学習施設を利用したいと回答した人において、利用したい目的については、「習い事や講座などの利用」が最も高く 77.2%、次いで「スポーツ・健康づくり」が 43.6%、「ボランティア活動やサークル活動などの交流」が 31.7%、「図書貸出・閲覧サービスの利用」が 26.6%となっている。

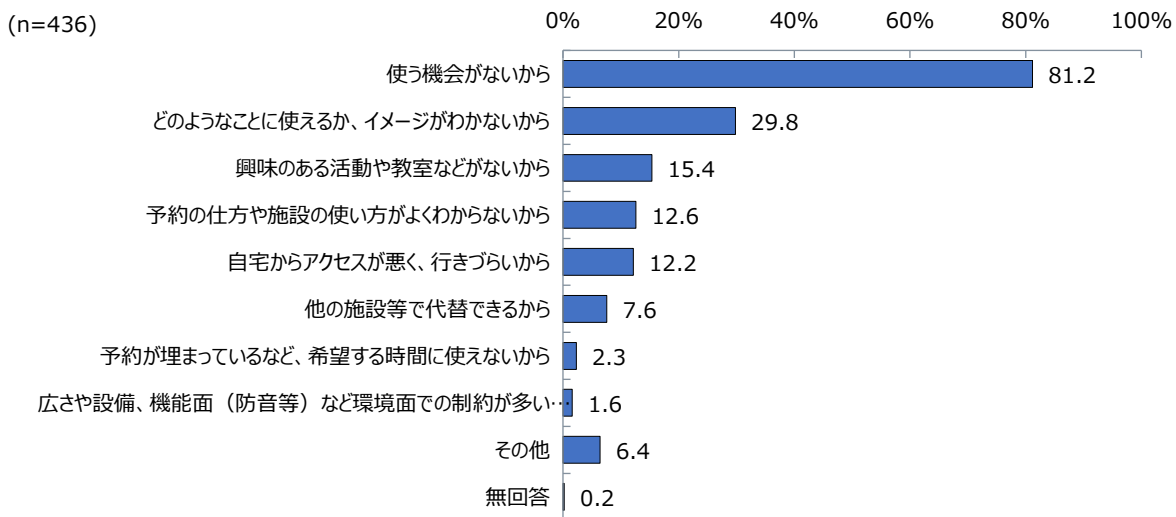
図表 27 南・北公民館などの生涯学習施設の利用目的〔複数回答〕



問 21 (問 19 で「2 利用したいとは思わない」と回答した方にお聞きします) 利用したいとは思わない理由を教えてください。<あてはまるものに○印 (いくつでも) >

- 南・北公民館などの生涯学習施設を利用したいと思わないと回答した人における、利用していない理由については、「使う機会がないから」が最も高く 81.2%、次いで「どのようなことに使えるか、イメージがわからないから」が 29.8%、「興味のある活動や教室がないから」が 15.4%となっている。

図表 28 南・北公民館などの生涯学習施設を利用したいと思わない理由〔複数回答〕

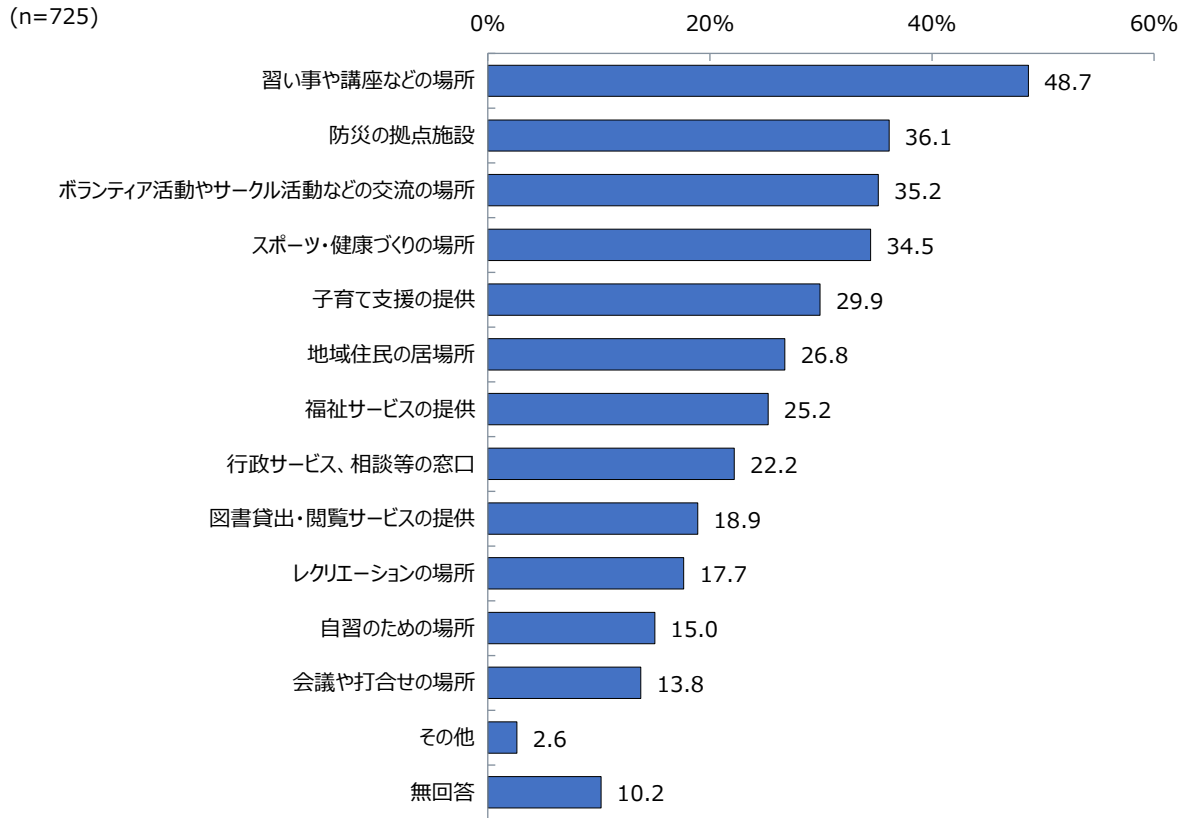


問 22

南・北公民館などの生涯学習施設の機能として必要だと思うものは何ですか？
 <あてはまるものに○印（いくつでも）>

- 南・北公民館などの生涯学習施設の機能として必要だと思うものは、「習い事や講座などの場所」が最も高く48.7%、次いで「防災の拠点施設」が36.1%、「ボランティア活動やサークル活動などの交流の場所」が35.2%、「スポーツ・健康づくりの場所」が34.5%となっている。

図表 29 南・北公民館などの生涯学習施設の機能として必要だと思うもの〔複数回答〕



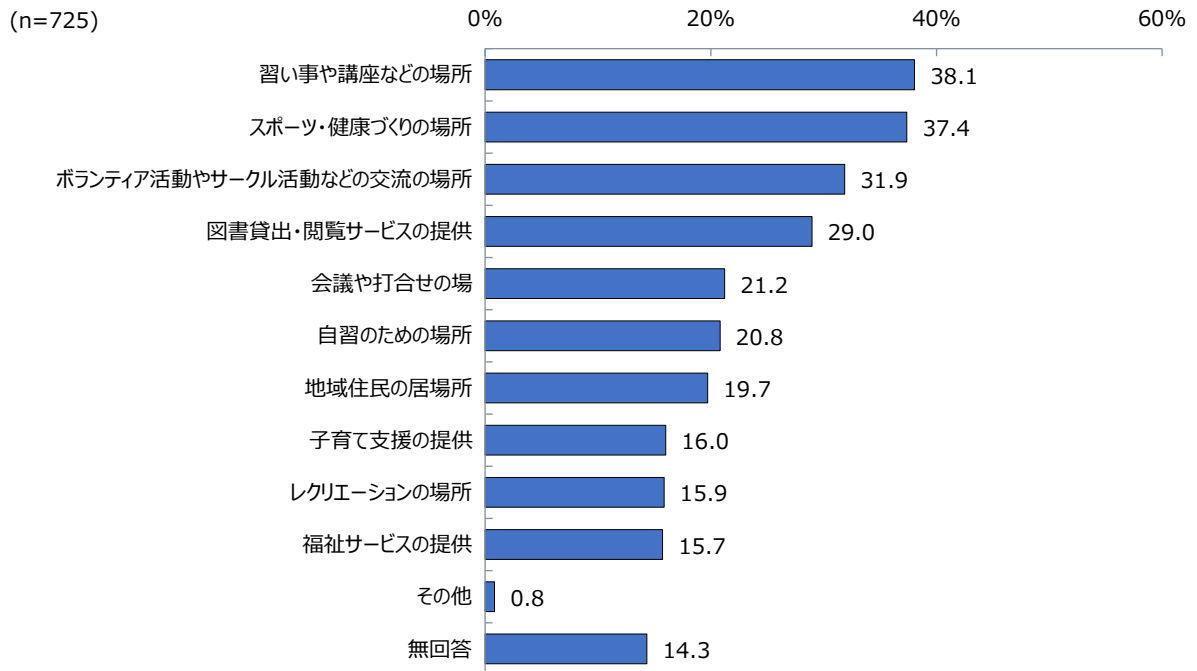
問 23

南・北公民館などの生涯学習施設の機能の中で、他の施設でも利用可能だと思うものを3つ選んでください。また、利用可能だと思う施設を3つお答えください。

① 生涯学習施設の機能の中で、他の施設で利用可能と思われるもの(3つ選択)

- 生涯学習施設の機能の中で、他の施設で利用可能と思われるものについて、「習い事や講座などの場所」が最も高く38.1%、次いで「スポーツ・健康づくりの場所」が37.4%、「ボランティア活動やサークル活動などの交流の場所」が31.9%となっている。

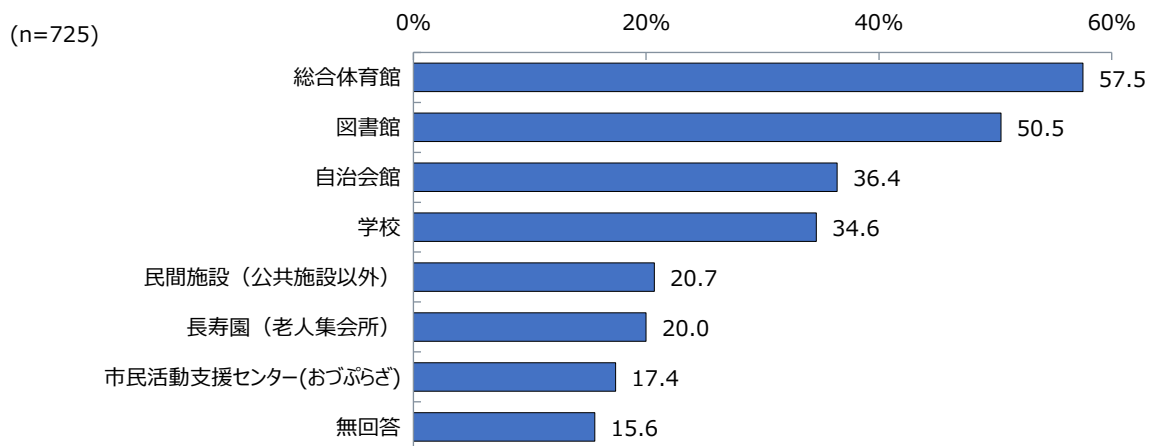
図表 30 生涯学習施設の機能の中で、他の施設で利用可能と思われるもの(3つ選択)[複数回答]



② 生涯学習施設の機能の中で、利用可能と思われる他の施設(3つ選択)

- 生涯学習施設の機能の中で、利用可能と思われる他の施設について「総合体育館」が最も高く57.5%、次いで「図書館」が50.5%、「自治会館」が36.4%、「学校」が34.6%となっている。

図表 31 生涯学習施設の機能の中で、利用可能と思われる他の施設(3つ選択)[複数回答]



(5)教育施設に求める機能について

問 24 公共施設に地域住民が自由に使えるスペースや空間がある場合に、どのような機能や設備（例：無料で使用可能な Wi-Fi がある、子ども 1 人でも安心安全に遊べる空間等）があれば、使いたくなりますか？

項目	主な意見	件数
無料 Wi-Fi	・無料で使用可能な Wi-Fi 等	126
充実した設備、機能	・きれいなトイレ ・広い通路、広い出入口、大きなエレベーター ・プロジェクター、スクリーン ・十分な数のテーブルやイス ・おむつの交換場所、授乳室、離乳食を食べさせることができる場所 ・調理室、和室、お風呂（シャワー室） ・充電できる場所 ・楽器が演奏できる防音設備がある。楽器や音楽機材がある。 ・広い駐車場 ・冷暖房完備 等	64
安心安全な子どもの遊び場、子ども連れ用の場所	・子供がまわりを気にせずのびのび走りまわったりできるスペース ・安全な遊具の設置 ・子どもが屋内で安全に遊べる空間 ・ボール遊びができる空間 ・自由に工作できたり、色塗りや読書、遊びなどできる場所 等	60
自習室・個室、リモートワーク用スペース	・学生が自習に使える静かなスペース ・仕切りなどで個別ブースになった自習スペース ・気軽に利用でき快適な自習スペース ・リモートワークや打合せが気軽にできる空間 等	40
防犯、安全面の確保	・防犯カメラや・非常ベルの設置。 ・警備員がいる ・セキュリティ面の強化 等	35
カフェ、飲食可能スペース	・スターバックスのようなカフェで飲食ができ、利用者が思い思いにゆっくりと利用できる施設 ・飲食可能なスペース ・子供連れでも入れるカフェや飲食店 等	29
運動やスポーツ、健康づくりの場所	・プール、ランニングマシンなどのジムのような設備。 ・ボルダリング、スケートボードができる場所 ・誰でも使える健康器具 ・ナイター設備のあるスポーツ施設 等	20
PC、ネット環境の充実	・無料で誰でも使用できるパソコン、タブレット ・充実したインターネット環境 等	20
イベント・講座の充実	・音楽活動の練習や披露する場所 ・パソコン教室、スマホ教室 等	20
くつろげる、落ち着ける空間	・ゆったり座れるソファやマッサージチェアなどくつろげるスペース ・軽食も取れて少しほっとできるような空間 ・ゆったりできる芝生 ・静かに読書できるスペース 等	17
居場所、交流の場所	・みんなが顔見知りになれるような空間。初めて来た人へ声をかける、かけられやすい空間 ・子供同士が集まれる空間 ・高齢者の憩いの場 等	17
図書室、図書館	・自由に出入り出来る図書室。 ・専門書などが豊富な図書館 等	14
施設の雰囲気	・清潔で明るくてお洒落な雰囲気がある ・誰もが入りやすい雰囲気 等	14

使用料	・無料または低額で使用できる ・利用料は少し高めでも予約制で一部だけ貸切にできる機能 等	12
施設に関する情報の周知、PR	・習い事や講座等の一般市民へのPR活動 ・どの施設でどんな事が出来るか、行っているかの情報 等	5
子どもの一時預かりサービス	・一時預かり保育を作って欲しい ・安心して子供を数時間預けられる 等	5
相談窓口	・法律や税など専門的な知識のある人に無料で相談できる空間 ・何でも気軽に相談出来る窓口 等	4
交通アクセス	・交通アクセスがよい（または駅から〇分など、地図も載せる）等	4
利用しやすい時間帯、日時	・夜の時間帯に利用可能 ・土日に利用できる 等	4
予約手続き	・予約がネットで出来る 等	3
その他	・勉強を教えてくれる先生がいる ・災害時の避難場所及び備蓄に使用可のスペース ・無料の送迎がある ・動物（ペット等や介助犬、盲導犬等）も一緒に利用できる 等	25

※1つの回答で複数の内容を含むものは重複してカウントしており、件数の合計が回答数ではない

(6)その他

問 25 南・北公民館、勤労青少年ホームや学校以外で地域の人が集える（コミュニティ活動の拠点となり得る）施設があれば、ご記入ください。

施設名	主な理由	件数
テクスピア大阪	・多くの人が集まれる ・利便性がよい、誰でも知っている ・施設が大きい、設備が整っている、きれい ・警備員がいる ・駐車場がある 等	19
長寿園（老人集会所）	・地域ごとにあり、市民なら誰もが利用出来そう ・無料で利用できる ・植木等もありくつろげる雰囲気がある 等	18
自治会館	・各地にあり、地域密着している ・今までも町内で集まる拠点となっている 等	16
総合体育館	・広く、大人数収容できる ・使いやすく、アクセスがよい 等	8
その他（アルザ泉大津、学校、図書館、あすとホール、福祉会館など）		56

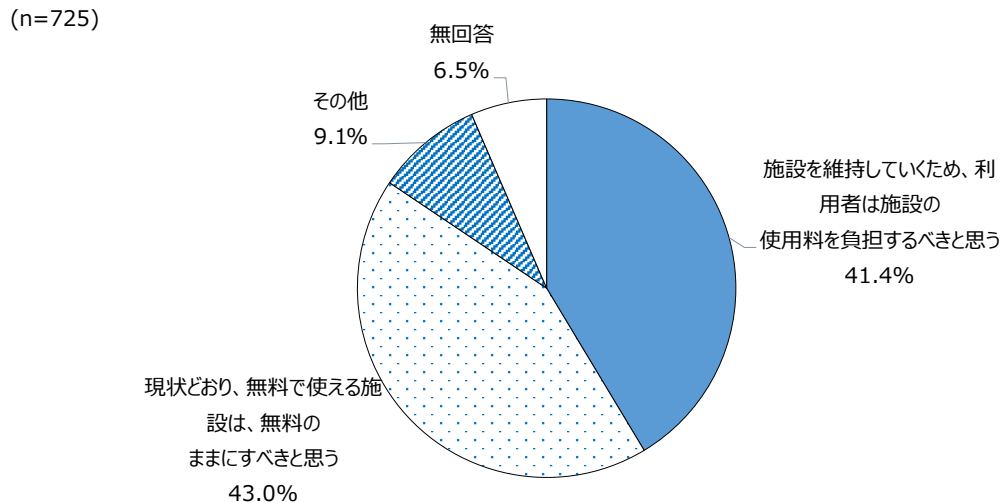
※1つの回答で複数の内容を含むものは重複してカウントしており、件数の合計が回答数ではない。

問 26

現在、使用料を無料としている公共施設について、将来にわたり施設を維持していくため、新たに利用者に使用料の負担を求めることについて、どのように思いますか？
 <1つに〇印>

- 公共施設の使用料負担については、「現状どおり、無料で使える施設は、無料のままにすべきと思う」が43.0%、「施設を維持していくため、利用者は施設の使用料を負担するべきと思う」が41.4%、となっている。

図表 32 公共施設の使用料負担について

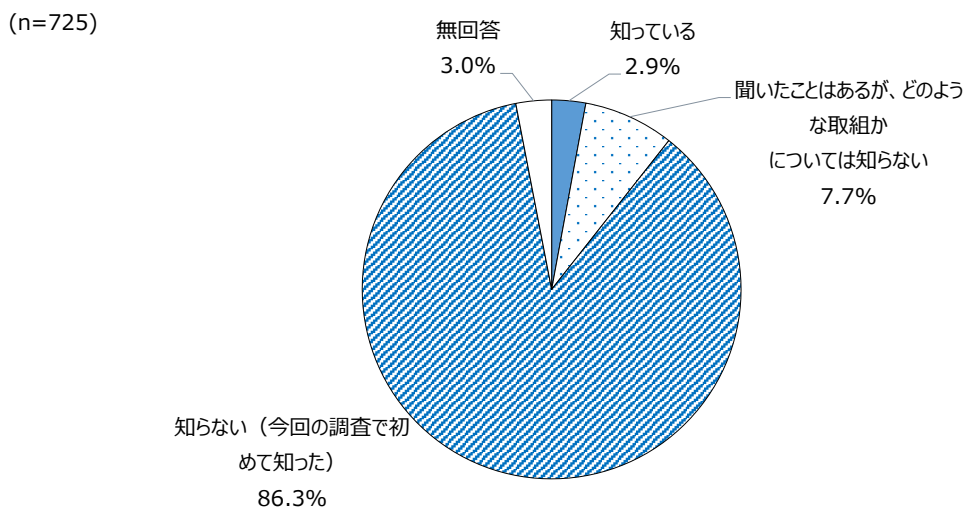


問 27

本市の小津中学校区で令和元年度より開始したコミュニティ・スクールについて、知っていますか？ <1つに〇印>

- コミュニティ・スクールの認知度について「知っている」が2.9%、「聞いたことはあるが、どのような取組かについては知らない」が7.7%、「知らない(今回の調査で初めて知った)」が86.3%、となっている。「知らない(今回の調査で初めて知った)」が9割近くを占めている。

図表 33 コミュニティ・スクールの認知度



問 28

「未来の学びの場」（学校施設の利活用）について、ご意見がございましたら自由にご記入ください。

項目	主な理由	件数
学校施設の利活用への意見	<ul style="list-style-type: none"> ・空教室をどんどん開放して貸し出してほしい。低料金で個人的にでも使えるようにお願いしたい。 ・学校関係者以外（シニア世代など）でも気軽に利用できる場であってほしい ・学校は子供達が学ぶ場であるので、地域住民も一緒になって利用するのは難しい。子どもが色々な事を体験できる様、空きスペースを活用してあげてはどうか。 ・生涯学習施設より近い学校に学びの場ができるのは楽しみ ・土・日・祝日などに利活用できれば良い ・学校関係者の負担にならないようにしてほしい 等 	36
市内施設等に関する意見	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の空き教室を活用し、今回対象となっている施設は廃止でよい ・学びの場というなら、子供達の自習室の整備をしてほしい。大人は既存施設でのイベントや公園の活用など、今あるものの活用を考えてほしい ・子どもが屋根のある涼しい場所で走り回れるような広場があればいい ・災害時にも避難、医療等に利用できる ・家から近い遠いは関係なく、駐車場の併設も検討してほしい。 ・民間が入り使用料等が上がったため、あきらめなければならない人も多くなっている。公民館等の生涯学習としての施設は残してほしい ・民間企業が入って良くなるのであれば負担額が少しくらい増えたとしても利用してみようと思う 等 	29
防犯・安全面	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者や生徒以外の不特定多数の出入りがあると防犯面が不安 ・学校施設を利用する場合は身元の確認や利用制限を設けて防犯面を強化して欲しい ・不審者対策などセキュリティ面が重要。誰でも気軽に入れるのは子供たちの安全が確保されず不安が残る 等 	27
交流・居場所	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしの高齢者のためにも近くで交流できる場があればよい ・学校は人々の集まりやすい場所なので、子供達と地域の人達との交流を持てるようイベントや行事を広く募集する ・子どもの居場所づくり ・両親が遅くまで働いている家庭の子供の居場所、不登校などで勉強の遅れた子供への手助け ・介護を一人でされている方、ヤングケアラーの方の相談が受けられるような場所 ・保育施設と老人福祉施設などを一緒に運用。防災訓練や、学習体験ができ、有事に助け合えるコミュニティ的な広場 等 	21
行政への意見	<ul style="list-style-type: none"> ・今ある施設を有効利用できるよう、職員でもっと知恵を出してほしい ・コミュニティ活動は現在の暮らしに満足してのこと。現実問題、コロナワクチン接種等、まずは行政として対応してもらいたい等 	14
教室や活動、イベント等の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者でも健康のため体力作りに関心があり、頑張る場所があれば参加したい ・有料でもいいので様々なイベントや経験ができるものが増えるとよい ・プログラミング教室やドローン教室などを開講 等 	11

情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・どの施設でどのような活動をしているのか現状わかりにくいので、広報の仕方を工夫してもらおうと共に、誰もが利用できるようにする ・イベント等の周知方法を再考しないと市民に伝わりにくい等 	8
コミュニティ ・スクールへの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールの運営は大変よいこと。子供たちの豊かな成長を支える仕組みとして、本音で協働していくことを期待 ・小中学校生のいない家ではコミュニティ・スクールも無関係で興味ない人も多いと思う 等 	7
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの目標を取り込んだ野心的なまちづくりをデザインしてほしい ・若い世代に住んでもらえるような魅力ある街になるよう頑張っしてほしい ・学びたいと思うが、共働きも多く、時間的余裕がなく、利用に至らないのではないか。施設が利用されない事情・背景を知ることが大切 等 	25
※1つの回答で複数の内容を含むものは重複してカウントしており、件数の合計が回答数ではない。		

3 クロス集計結果等

(1) 属性別クロス集計

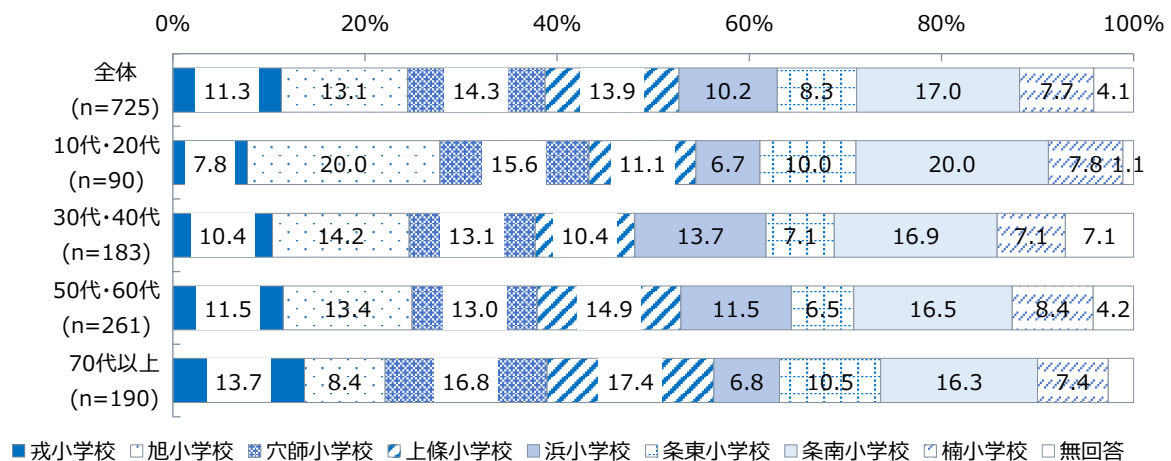
① 年代別クロス集計

ア 基本情報

(ア) 居住地区(問1(2))

- ・ 居住地区は、10代・20代で「旭小学校」が全体に比べてやや高くなっている。

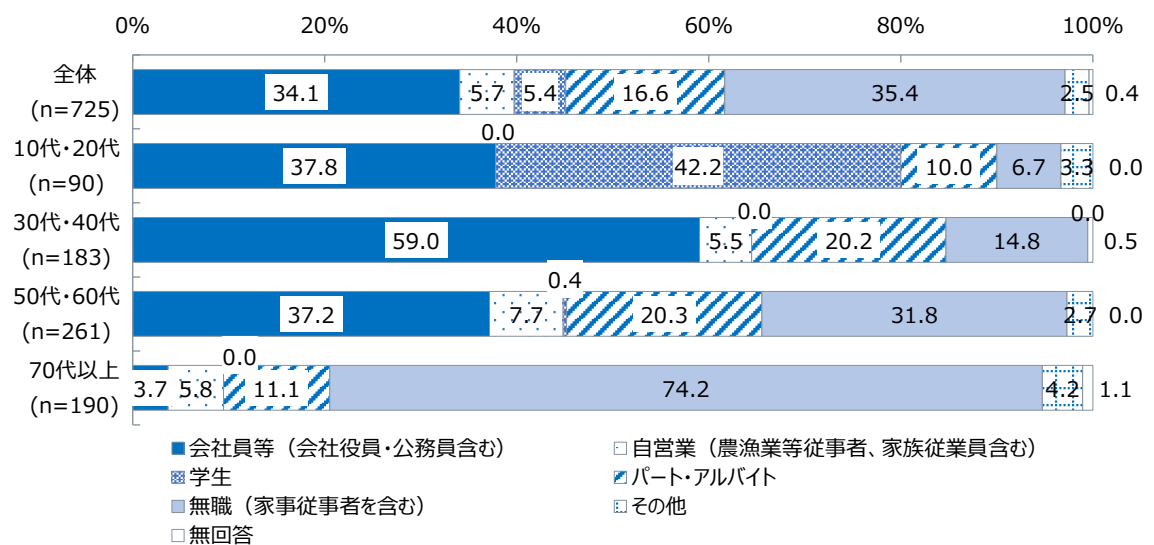
図表 34 問1(2) 居住地区



(イ) 職業(問1(3))

- ・ 職業は、10代・20代で「学生」、30代・40代で「会社員等(会社役員・公務員含む)」、70代で「無職(家事従事者を含む)」が高い。

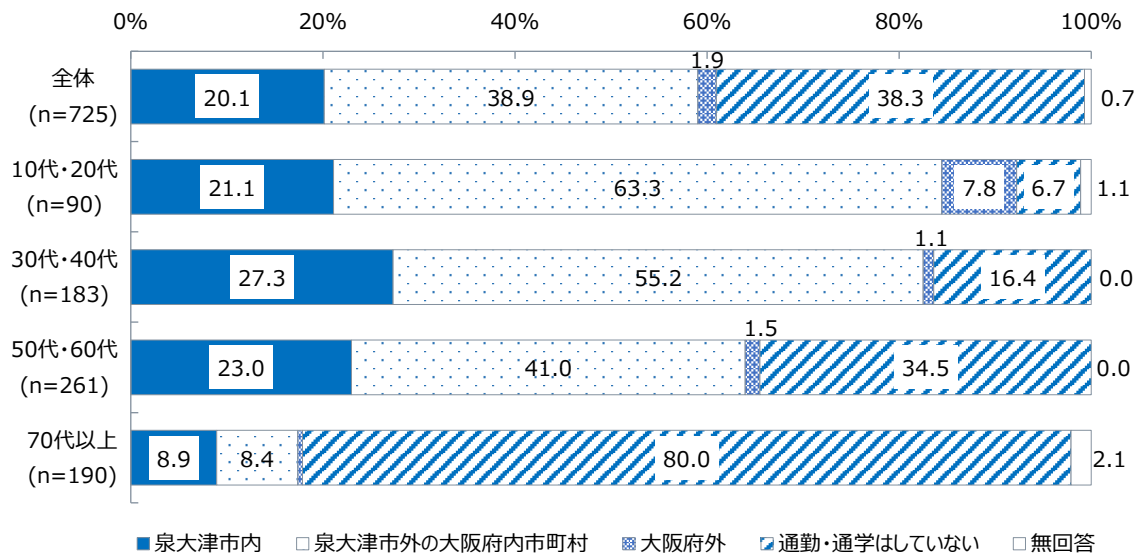
図表 35 職業



(ウ)通勤・通学先(問1(4))

- ・ 通勤・通学先は、10代・20代と30代・40代ではそれぞれ6割前後が「泉大津市外の大阪府内市町村」となっている。30代・40代は「泉大津市内」が全体に比べてやや高くなっている。

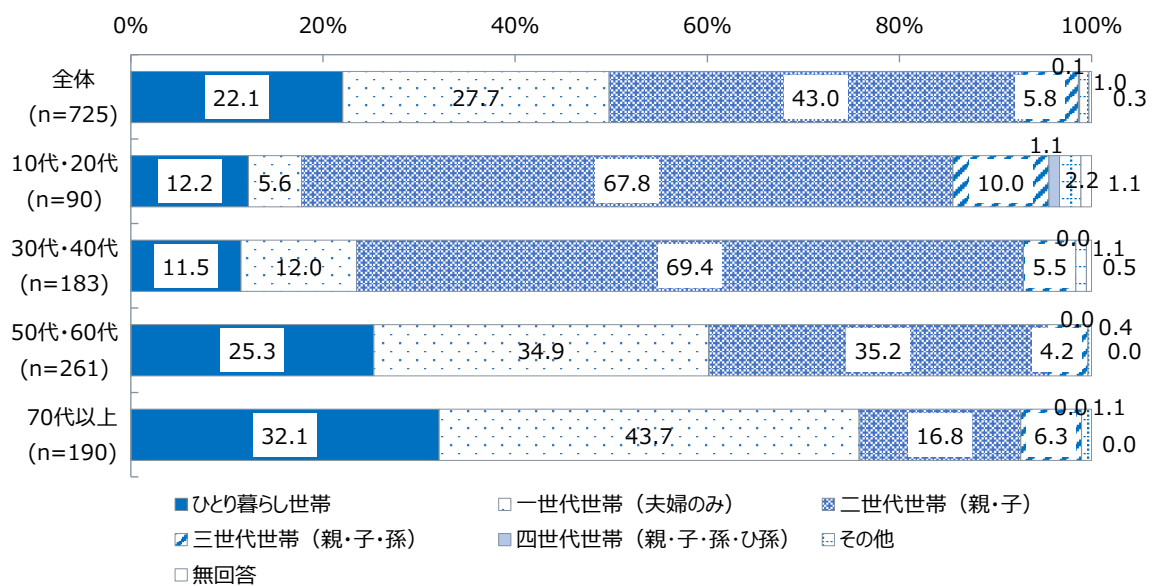
図表 36 通勤・通学先



(エ)家族構成(問1(5))

- ・ 家族構成は、10代・20代と30代・40代ではそれぞれ7割近くが「二世世代世帯(親・子)」となっている。50代・60代では「一世代世帯(夫婦のみ)」、70代以上では「一世代世帯(夫婦のみ)」と「ひとり暮らし世帯」が全体に比べて高くなっている。

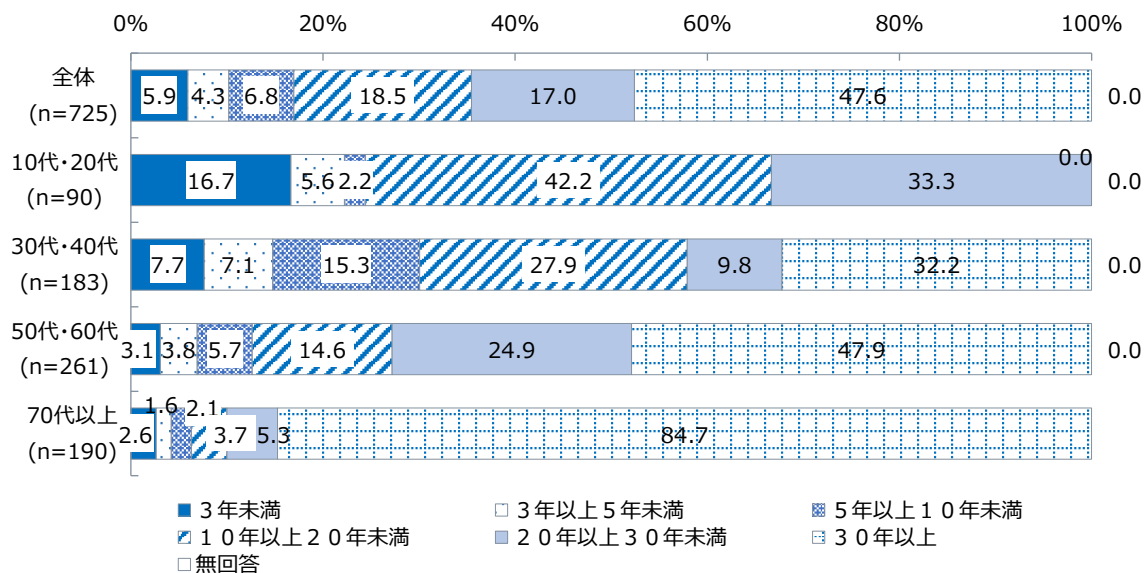
図表 37 家族構成



(オ) 居住年数(問1(6))

- 居住年数は、10代・20代では「10年以上20年未満」が、30代・40代では「30年以上」と「10年以上20年未満」が高い。50代・60代では「30年以上」が半数近くを占め、70代以上では「30年以上」が8割強となっている。

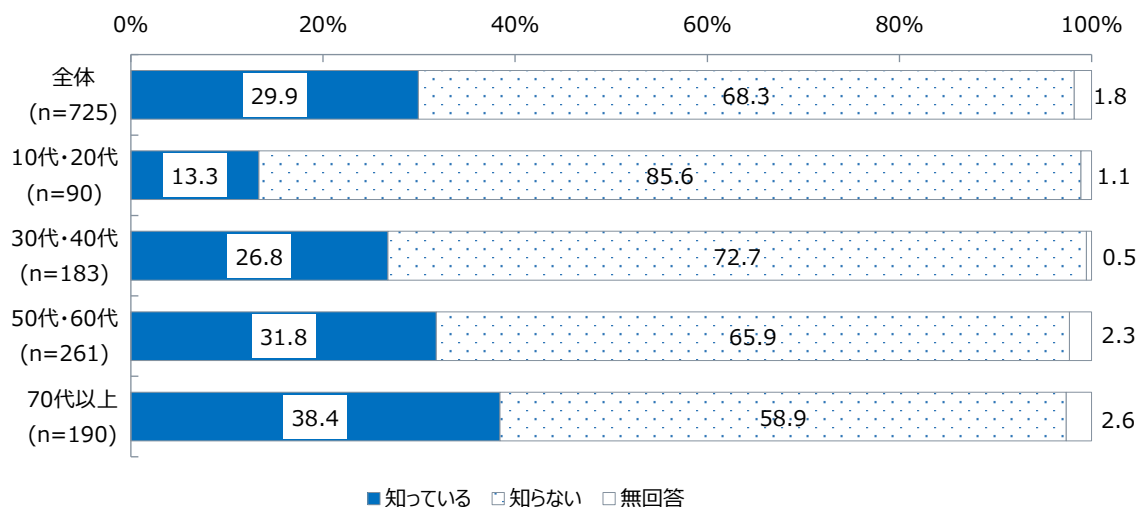
図表 38 問1(6) 居住年数



イ 公共施設の数や規模を、市の将来の人口や税収の減少に見合ったものにする取組の認知度(問2)

- 公共施設の数や規模を、市の将来の人口や税収の減少に見合ったものにする取組の認知度は、年代が高くなるにつれ、「知っている」割合が高くなっている。10代・20代では、「知っている」は1割強となっている。

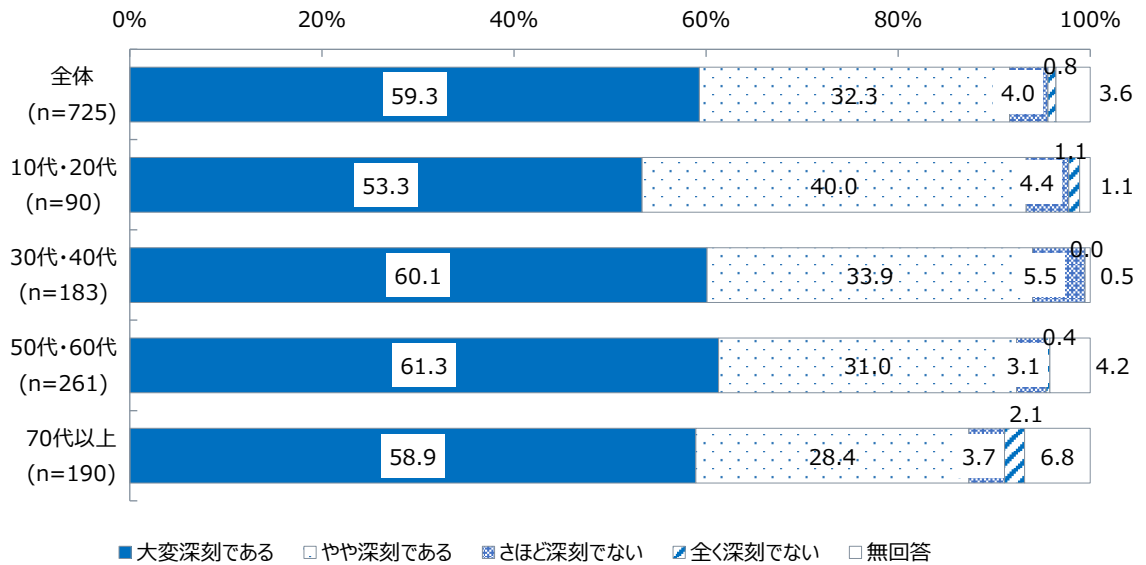
図表 39 公共施設の数や規模を、市の将来の人口や税収の減少に見合ったものにする取組の認知度



ウ 教育施設の整備費用に関する意見(問 3)

- ・ 教育施設の整備費用については、年代による大差は見られない。どの年代においても「大変深刻である」が5～6割、「やや深刻である」が3～4割となっている。

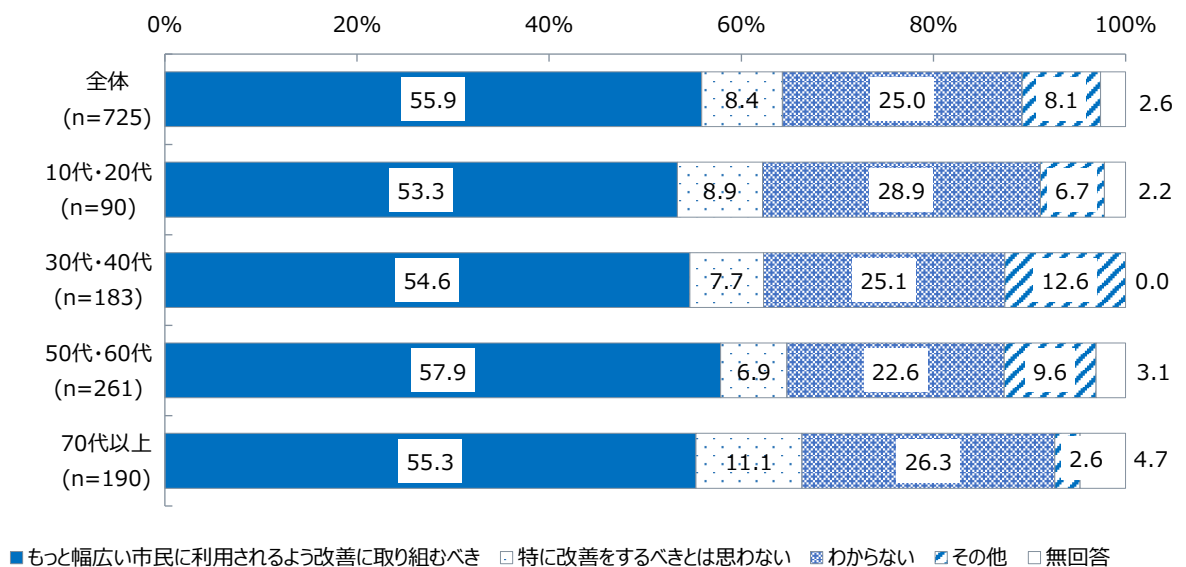
図表 40 教育施設の整備費用に関する意見



エ 南・北公民館、勤労青少年ホームの利用状況に関する意見(問 4)

- ・ 南・北公民館、勤労青少年ホームの利用状況に関する意見は、年代による大差は見られない。いずれの年代も、「もっと幅広い市民に利用されるよう改善に取り組むべき」が5割強、「わからない」が4分の1程度となっている。

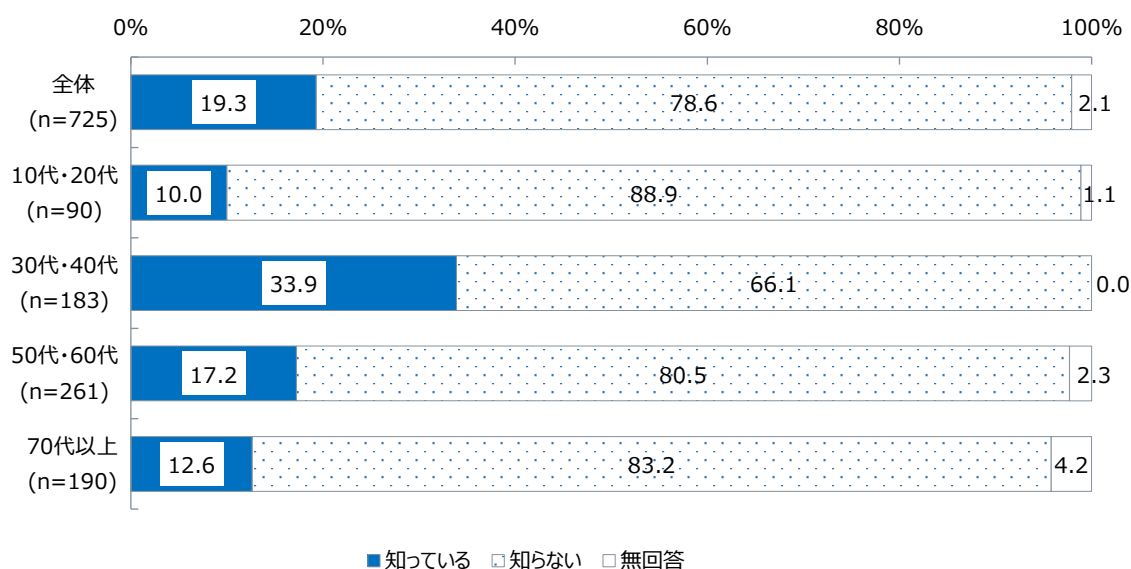
図表 41 南・北公民館、勤労青少年ホームの利用状況に関する意見



オ 学校・就学前施設における地域開放の取組の認知度(問 5)

- 学校・就学前施設における地域開放の取組について、30代・40代のみ「知っている」が3割強と他年代に比べて高くなっている。その他の年代では「知っている」は1割強にとどまっている。

図表 42 学校・就学前施設における地域開放の取組の認知度

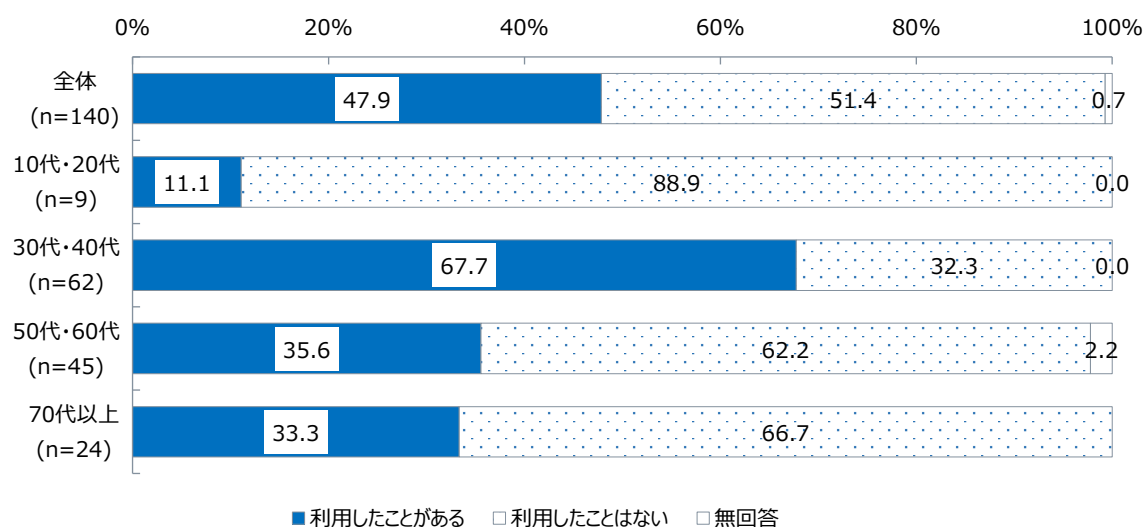


カ 学校・就学前施設の地域開放について(問 6)

(ア)利用の有無(n数が少ないため参考値)

- 学校・就学前施設における地域開放の取組を知っていると回答した方において、学校・就学前施設の地域開放の利用の有無については、30代・40代で「利用したことがある」が7割弱と他の年代に比べて高くなっている。

図表 43 学校で地域開放されているスペースや、就学前施設の地域開放の利用の有無



(イ)利用したことのある施設(n数が少ないため参考値)

- 学校・就学前施設における地域開放を利用したことがあると回答した方において、利用したことのある施設は、30代・40代で「保育所・幼稚園及び私立認定こども園での園庭開放」が73.8%、「おやこ広場」が54.8%、50代・60代で「ブックランド・あさひ」が31.3%と高くなっている

図表 44 利用したことのある施設〔複数回答〕

	全体 (n=67)	10代・20代 (n=1)	30代・40代 (n=42)	50代・60代 (n=16)	70代以上 (n=8)
りぶれ EBISU	14.9	—	14.3	18.8	12.5
ミント条東	7.5	—	0.0	18.8	25.0
ブックランド・あさひ	13.4	—	4.8	31.3	25.0
旭小学校の多目的室	10.4	—	4.8	18.8	25.0
小学校での校庭開放	14.9	—	14.3	12.5	25.0
保育所・幼稚園及び私立認定こども園での園庭開放	46.3	—	54.8	37.5	12.5
おやこ広場	61.2	—	73.8	43.8	25.0
無回答	1.5	—	0.0	0.0	12.5

※10代・20代ではサンプル数が極端に少ないため秘匿としている。(%)

キ 学校・就学前施設における地域開放を利用した理由(問7)(n数が少ないため参考値)

- 学校・就学前施設における地域開放を利用したことがあると回答した人において、施設を利用した理由は、30代・40代は、「無料だから」が64.3%、「自宅から近いから(アクセスがよい)」が42.9%、50代・60代で「子どもが当該の学校・園に通っているため、親しみがあり利用しやすいから」が43.8%と高くなっている。

図表 45 学校・就学前施設における地域開放を利用した理由〔複数回答〕

	全体 (n=67)	10代・20代 (n=1)	30代・40代 (n=42)	50代・60代 (n=16)	70代以上 (n=8)
自宅から近いから(アクセスがよい)	40.3	—	42.9	31.3	37.5
無料だから	53.7	—	64.3	31.3	50.0
イベントや教室などが開催されているから	35.8	—	38.1	25.0	50.0
開放日時が都合よいから	11.9	—	11.9	6.3	25.0
居心地がよいから	11.9	—	9.5	18.8	12.5
子どもが当該の学校・園に通っているため、親しみがあり利用しやすいから	34.3	—	35.7	43.8	12.5
当該学校の卒業生のため、親しみがあり利用しやすいから	7.5	—	2.4	12.5	25.0
その他	13.4	—	14.3	18.8	0.0
無回答	0.0	—	0.0	0.0	0.0

※10代・20代ではサンプル数が極端に少ないため秘匿としている。(%)

ク もっと使いやすくなるために必要なことや、改善した方がよい点(問 8)(n 数が少ないため参考値)

- ・ 学校・就学前施設における地域開放を利用したことがあると回答した人に、もっと使いやすくなるために必要なことや、改善した方がよい点を聞いたところ、50代・60代で「もっと誰でも入りやすい雰囲気になってほしい」が50%と高くなっている。

図表 46 もっと使いやすくなるために必要なことや、改善した方がよい点〔複数回答〕

	全体 (n=67)	10代・20代 (n=1)	30代・40代 (n=42)	50代・60代 (n=16)	70代以上 (n=8)
特になし	28.4	—	31.0	18.8	25.0
開放日時をもっと増やしてほしい	23.9	—	26.2	12.5	37.5
イベントなどをもっと開催してほしい	23.9	—	28.6	12.5	25.0
もっと誰でも入りやすい雰囲気になってほしい	40.3	—	35.7	50.0	50.0
その他	10.4	—	9.5	18.8	0.0
無回答	1.5	—	0.0	6.3	0.0

※10代・20代ではサンプル数が極端に少ないため秘匿としている。(%)

ケ 学校・就学前施設における地域開放を利用していない理由(問 9)(n 数が少ないため参考値)

- ・ 学校・就学前施設における地域開放を利用したことはないと回答した人において、利用していない理由は、「利用する機会がないから」がいずれの年代でも最も高いが、30代・40代では、「学校内にあり、気軽に行きにくいから」、「他の施設等で代替できているから」、「開放日時の都合が合わないから」がやや高い傾向にある。

図表 47 学校・就学前施設における地域開放を利用していない理由〔複数回答〕

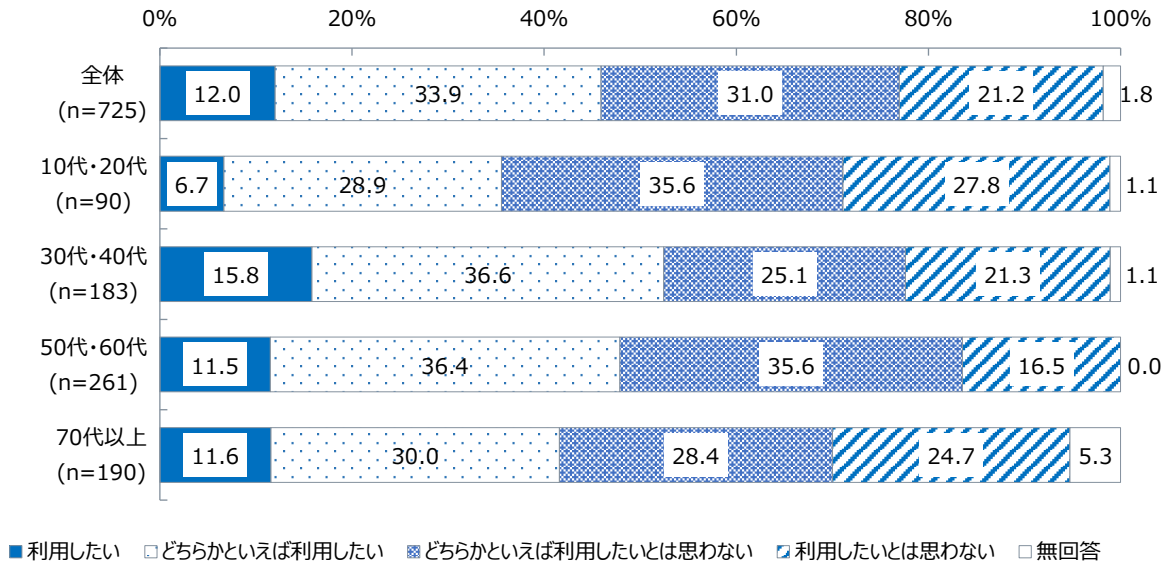
	全体 (n=72)	10代・20代 (n=8)	30代・40代 (n=20)	50代・60代 (n=28)	70代以上 (n=16)
利用する機会がないから	79.2	75.0	60.0	100.0	68.8
自宅からアクセスが悪く、行きづらいから	6.9	25.0	10.0	0.0	6.3
学校内にあり、気軽に行きにくいから	20.8	37.5	30.0	10.7	18.8
他の施設等で代替できているから	9.7	12.5	20.0	3.6	6.3
開放日時の都合が合わないから	8.3	12.5	20.0	3.6	0.0
開放日時や予約の仕方、場所の使い方がわからないから	12.5	25.0	10.0	14.3	6.3
その他	5.6	0.0	15.0	3.6	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(%)

コ 「地域交流ゾーン」の利用意向(問 10)

- 「地域交流ゾーン」の利用意向については、30代・40代で「利用したい」が15.8%、「どちらかといえば利用したい」が36.6%と利用したい人が52.4%と、全体(45.9%)より高くなっている。一方、10代・20代では「どちらかといえば利用したいとは思わない」が35.6%、「利用したいとは思わない」が27.8%と利用したいと思わない人が63.4%と全体(52.2%)より高くなっている。

図表 48 「地域交流ゾーン」の利用意向



サ 「地域交流ゾーン」を利用したい目的(問 11)

- ・ 「地域交流ゾーン」の利用意向がある人において、「地域交流ゾーン」を利用したい目的は、10代・20代では、「地域住民の居場所」(31.3%)、「自習」(28.1%)、30代・40代では、「習い事や講座などの利用」(67.7%)、「子育て支援の利用」(41.7%)、「図書貸出・閲覧サービスの利用」(55.2%)が他の年代に比べ高くなっている。50代・60代では、「ボランティア活動やサークル活動などの交流」(36.8%)、「スポーツ・健康づくり」(52.0%)、「防災の拠点施設」(45.6%)が他の年代に比べ高くなっている。

図表 49 「地域交流ゾーン」を利用したい目的〔複数回答〕

	全体 (n=333)	10代・20代 (n=32)	30代・40代 (n=96)	50代・60代 (n=125)	70代以上 (n=79)
ボランティア活動やサークル活動などの交流	29.7	21.9	24.0	36.8	29.1
習い事や講座などの利用	58.6	46.9	67.7	60.8	48.1
レクリエーション	14.4	15.6	14.6	13.6	15.2
会議や打合せ	8.7	15.6	6.3	8.8	8.9
スポーツ・健康づくり	43.5	37.5	39.6	52.0	38.0
地域住民の居場所	21.3	31.3	11.5	23.2	26.6
自習	10.5	28.1	14.6	9.6	0.0
子育て支援の利用	21.6	28.1	41.7	15.2	5.1
福祉サービスの利用	17.4	9.4	11.5	24.0	17.7
図書貸出・閲覧サービスの利用	39.6	43.8	55.2	34.4	27.8
防災の拠点施設	35.4	37.5	27.1	45.6	29.1
行政サービス、相談等の窓口の利用	21.3	15.6	24.0	22.4	19.0
その他	1.2	6.3	2.1	0.0	0.0
無回答	0.3	0.0	0.0	0.0	1.3

(%)

シ 「地域交流ゾーン」を利用したいと思わない理由(問 12)

- ・ 「地域交流ゾーン」の利用意向がない人において、利用したいと思わない理由は、いずれの年代でも「使う機会がないと思うから」が6割強～7割強となっており、次いで「どのようなことに使えるか、イメージがわからないから」が10代～60代で約4割となっている。10代・20代、30代・40代では、「学校内にあるため、気軽に行きづらいと思うから」(それぞれ31.6%、35.3%)が他の年代に比べ高くなっている。また、30代・40代では「他の施設等で代替できると思うから」(20.0%)も他の年代に比べ高くなっている。

図表 50 「地域交流ゾーン」を利用したいと思わない理由〔複数回答〕

	全体 (n=379)	10代・20代 (n=57)	30代・40代 (n=85)	50代・60代 (n=136)	70代以上 (n=101)
使う機会がないと思うから	71.0	71.9	72.9	65.4	76.2
開放日時などの時間的な制約が多いと考えられるから	17.7	15.8	20.0	21.3	11.9
広さや設備、機能面（防音等）など環境面での制約が多いと考えられるから	4.2	8.8	1.2	3.7	5.0
学校内にあるため、気軽に行きづらいと思うから	23.0	31.6	35.3	20.6	10.9
他の施設等で代替できると思うから	11.9	3.5	20.0	7.4	15.8
どのようなことに使えるか、イメージがわからないから	36.7	40.4	41.2	39.7	26.7
その他	6.1	5.3	9.4	1.5	9.9
無回答	1.3	0.0	0.0	0.0	5.0

(%)

ス 地域交流ゾーンをよりたくさんの人に使ってもらうために必要なこと(問 13)

- ・ 地域交流ゾーンをよりたくさんの人に使ってもらうために必要なことは、どの年代においても「利用予約がしやすい、利用の手続きが簡単」「誰でも気軽に入ることができる雰囲気づくり」が上位であるが、10代・20代、30代・40代では、「十分な設備、機能が備わった部屋やスペースがある」(それぞれ 45.6%、38.3%)、「セキュリティ面など防犯面が徹底されている」(それぞれ 46.7%、36.6%)、「快適で、居心地が良いこと」(それぞれ 55.6%、47.5%)が他の年代に比べ高くなっている。

図表 51 地域交流ゾーンをよりたくさんの人に使ってもらうために必要なこと〔複数回答〕

	全体 (n=725)	10代・20代 (n=90)	30代・40代 (n=183)	50代・60代 (n=261)	70代以上 (n=190)
利用予約がしやすい、利用の手続きが簡単	59.0	62.2	65.0	61.7	47.9
十分な設備、機能が備わった部屋やスペースがある	30.1	45.6	38.3	23.8	23.7
利用者が偏ることなく、利用希望者が公平に使えるルールづくり	36.7	33.3	36.1	38.7	36.3
学校の授業や活動に支障とならないようにするためのルールづくり	19.7	17.8	24.6	19.9	15.8
セキュリティ面など防犯面が徹底されている	30.1	46.7	36.6	27.2	20.0
多くの人利用できる日時に開放している	37.8	40.0	45.4	37.5	29.5
快適で、居心地が良いこと	39.3	55.6	47.5	34.9	29.5
誰でも気軽に入ることができる雰囲気づくり	63.0	65.6	62.3	64.0	61.1
その他	5.4	7.8	8.2	5.4	1.6
無回答	5.8	2.2	2.2	3.8	13.7

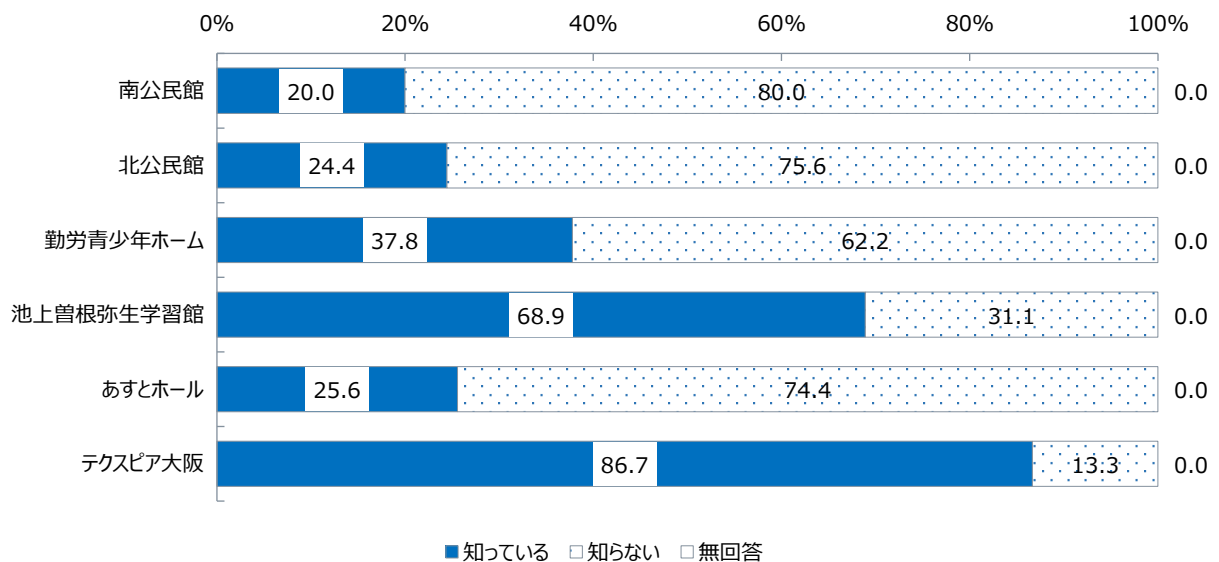
(%)

セ 各施設の場所の認知度(問 14)

(ア)10代・20代

- ・ 10代・20代において、南・北公民館、あすとホールの場所の認知度は3割を下回っており、勤労青少年ホームの場所の認知度も4割を下回っている。テクスピア大阪は9割近い認知度となっている。

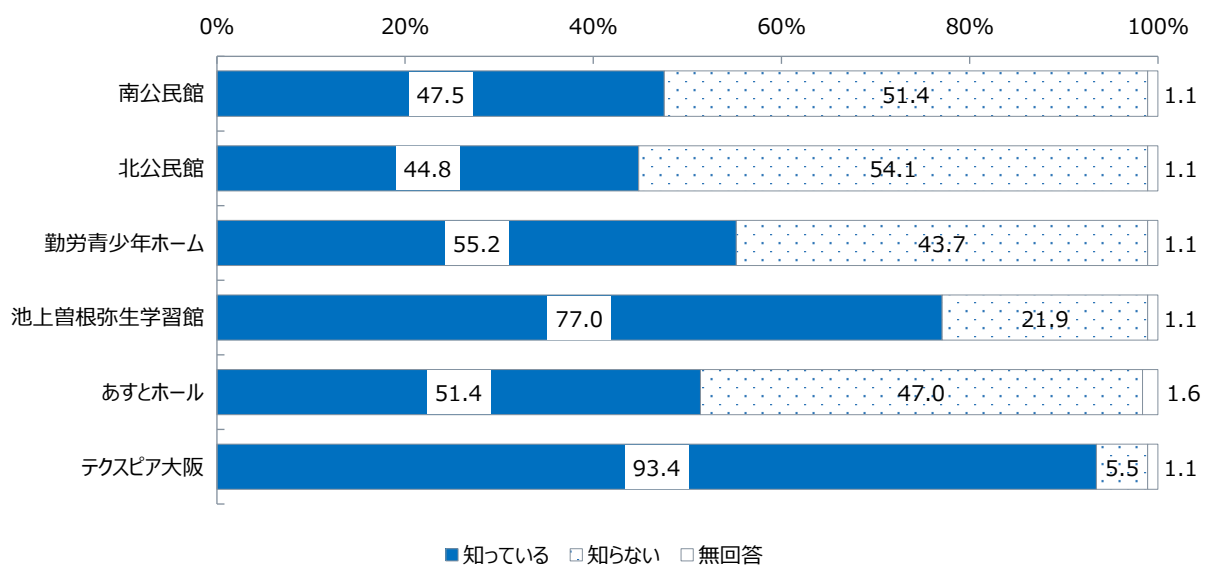
図表 52 各施設の場所の認知度(10代・20代(n=90))



(イ)30代・40代

- ・ 30代・40代においては、南・北公民館、勤労青少年ホームの場所の認知度は4割強～5割強となっており、池上曽根弥生学習館の認知度が8割近くと高くなっている。

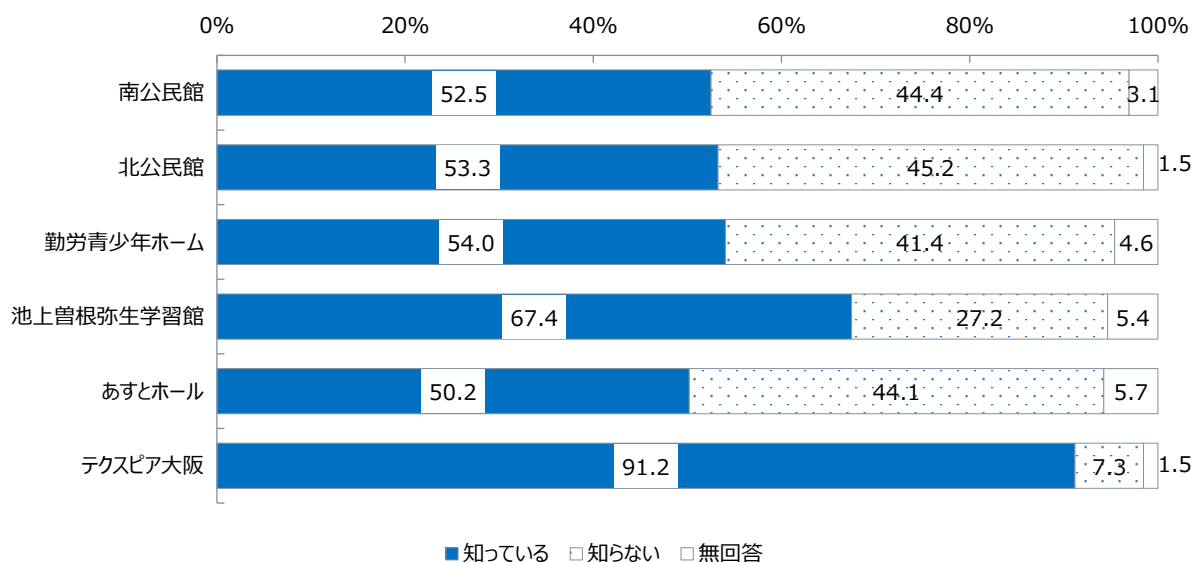
図表 53 各施設の場所の認知度(30代・40代(n=183))



(ウ)50代・60代

- ・ 50代・60代においては、南・北公民館、勤労青少年ホームの場所の認知度はいずれも5割以上となっている。

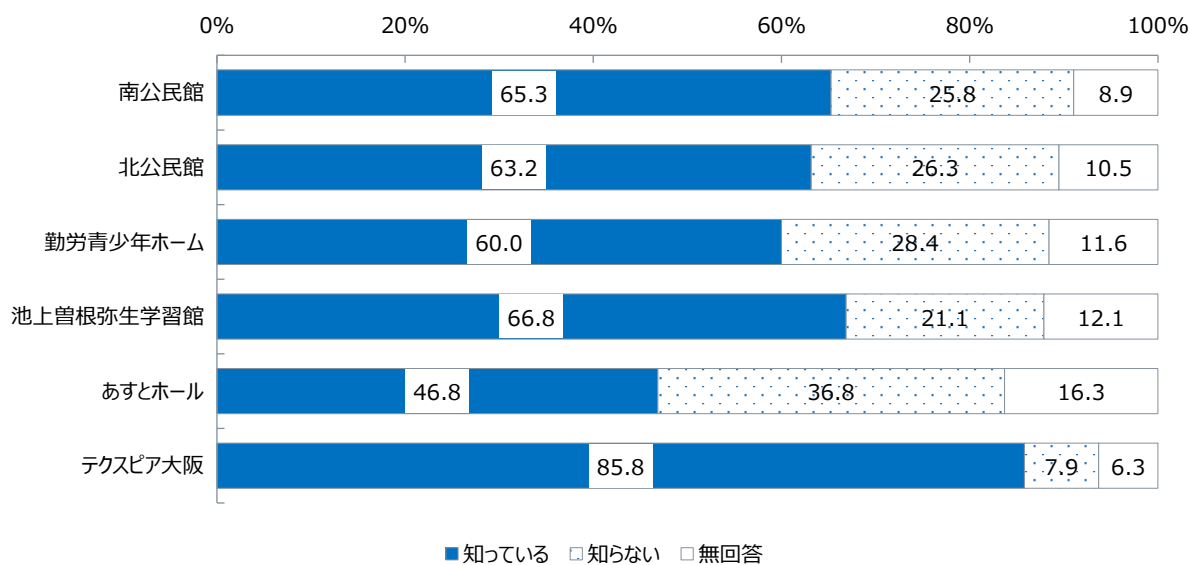
図表 54 各施設の場所の認知度(50代・60代(n=261))



(エ)70代以上

- ・ 70代以上においては、南・北公民館、勤労青少年ホームの場所の認知度はいずれも6割以上となっている。

図表 55 各施設の場所の認知度(70代以上(n=190))

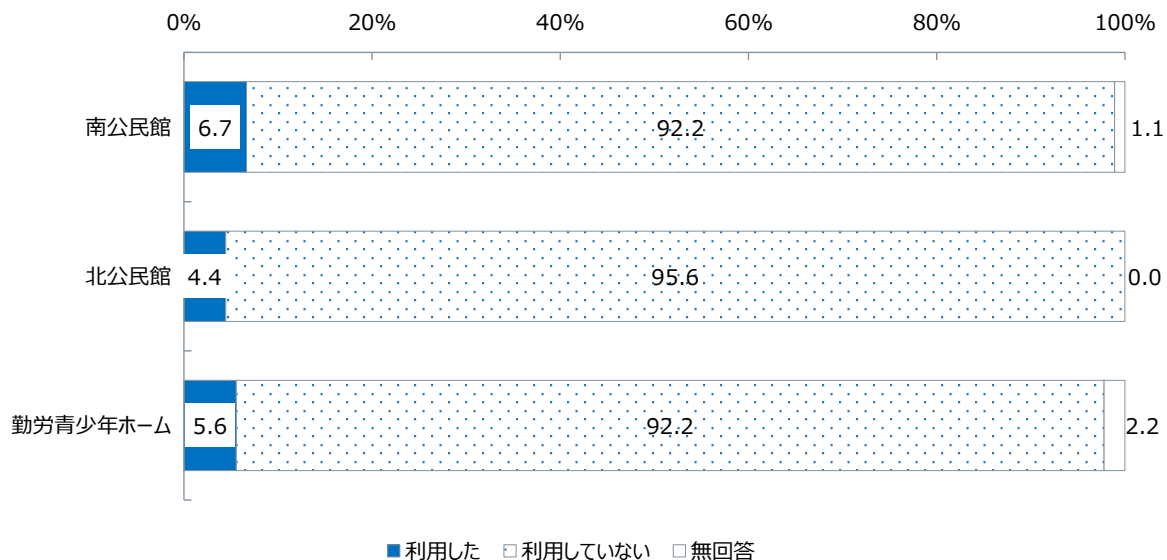


ソ 南・北公民館、勤労青少年ホームの利用状況(問 15)

(ア)10代・20代

- ・ 10代・20代においては、過去3年間に各施設の利用経験がある人は4%～7%未満となっている。

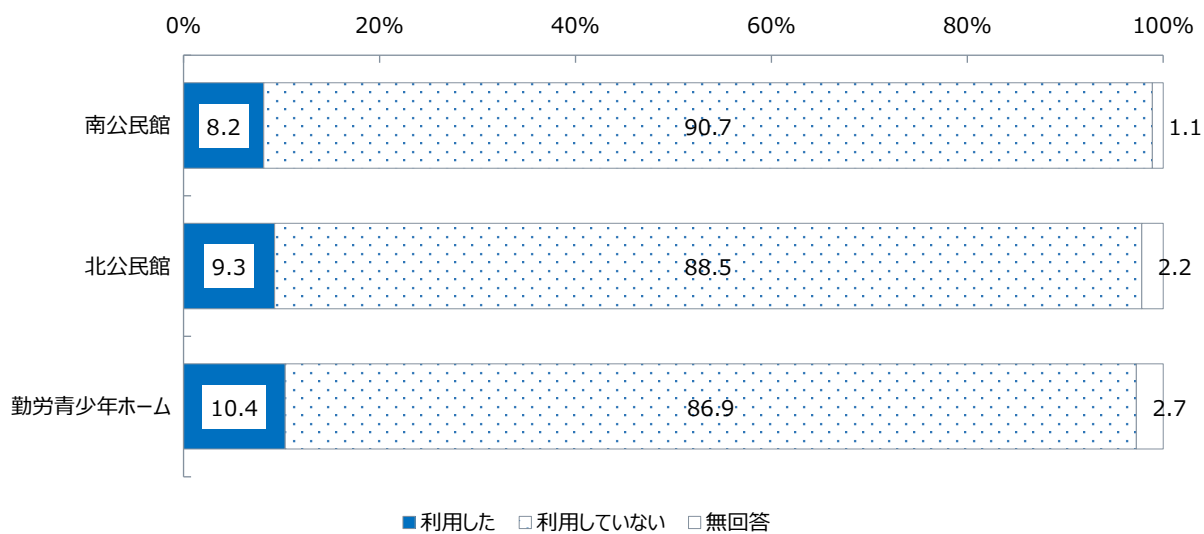
図表 56 南・北公民館、勤労青少年ホームの利用状況(10代・20代(n=90))



(イ)30代・40代

- ・ 30代・40代においては、過去3年間に各施設の利用経験がある人は8%～10%程度となっている。

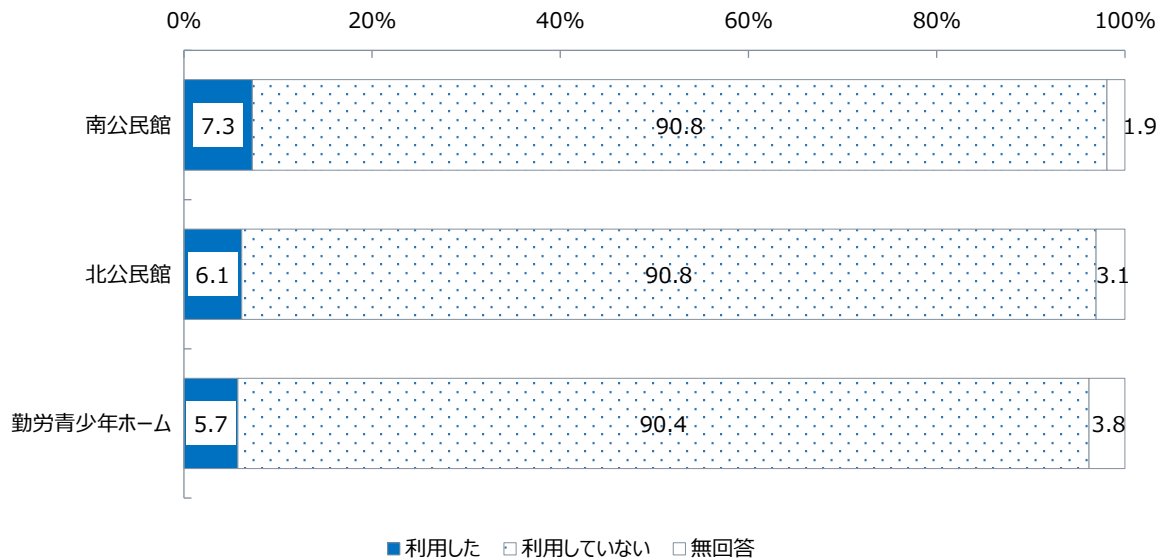
図表 57 南・北公民館、勤労青少年ホームの利用状況(30代・40代(n=183))



(ウ)50代・60代

- ・ 50代・60代においては、過去3年間に各施設の利用経験がある人は、5～7%程度となっている。

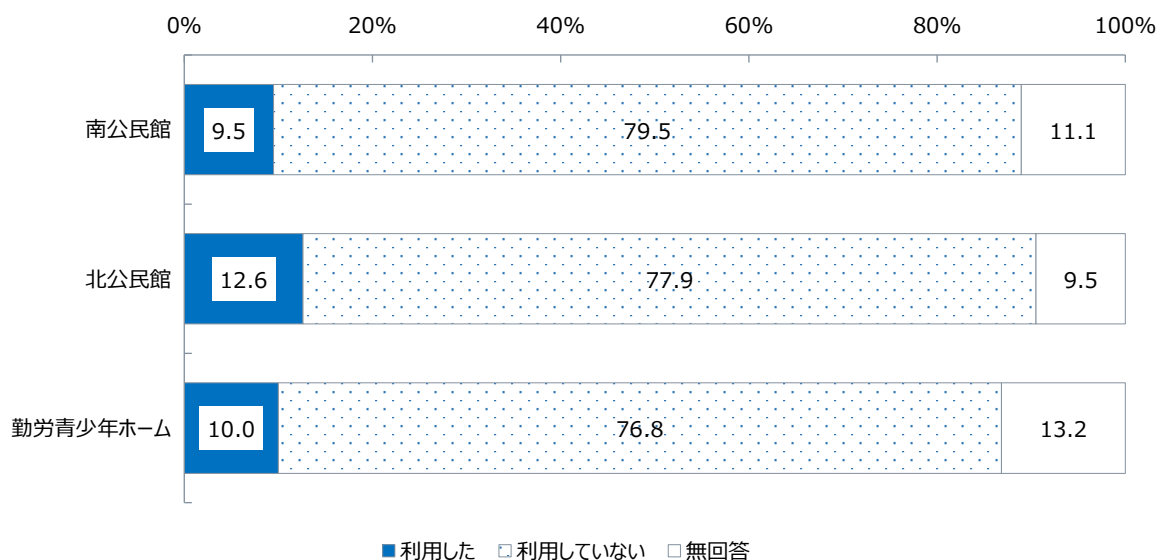
図表 58 南・北公民館、勤労青少年ホームの利用状況(50代・60代(n=261))



(エ)70代以上

- ・ 70代以上においては、過去3年間の各施設の利用経験がある人はいずれも9%以上となっている。

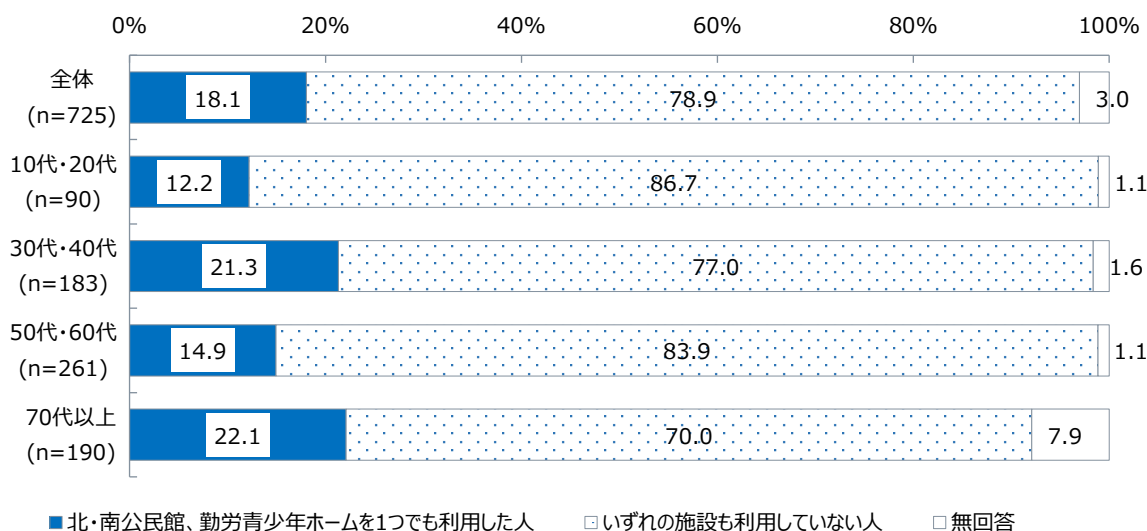
図表 59 南・北公民館、勤労青少年ホームの利用状況(70代以上(n=190))



(オ)南・北公民館、勤労青少年ホームのうち、1つでも利用したことがある人の割合(問 15)

- ・ 南・北公民館、勤労青少年ホームのうち、過去3年間にいずれか1つでも利用したことがある人の割合は、30代・40代、70代以上は2割を超えており、他の年代に比べ高くなっている。10代・20代では、12.2%と約1割にとどまっている。

図表 60 南・北公民館、勤労青少年ホームのうち、1つでも利用したことがある人の割合



タ 南・北公民館、勤労青少年ホームの利用目的(問 16)(n 数が少ないため参考値)

- ・ 南・北公民館、勤労青少年ホームのいずれかを利用した人において、南・北公民館、勤労青少年ホームの利用目的は、30代以上では、「習い事や講座などの利用」が最も高くなっている。30代・40代では、「子育て支援の利用」(17.9%)、70代以上では、「スポーツ・健康づくり」(23.8%)が他の年代に比べ高くなっている。

図表 61 南・北公民館、勤労青少年ホームの利用目的〔複数回答〕

	全体 (n=131)	10代・20代 (n=11)	30代・40代 (n=39)	50代・60代 (n=39)	70代以上 (n=42)
ボランティア活動やサークル活動などの交流	24.4	27.3	20.5	20.5	31.0
習い事や講座などの利用	43.5	18.2	41.0	46.2	50.0
レクリエーション	9.2	9.1	12.8	10.3	4.8
会議や打合せ	24.4	9.1	23.1	28.2	26.2
スポーツ・健康づくり	14.5	9.1	2.6	17.9	23.8
地域住民の居場所	2.3	9.1	2.6	0.0	2.4
自習	3.8	27.3	2.6	0.0	2.4
子育て支援の利用	6.9	0.0	17.9	2.6	2.4
福祉サービスの利用	3.8	0.0	0.0	7.7	4.8
図書貸出・閲覧サービスの利用	3.8	0.0	5.1	2.6	4.8
その他	6.1	9.1	12.8	2.6	2.4
無回答	0.8	0.0	0.0	0.0	2.4

(%)

チ 南・北公民館、勤労青少年ホームを利用していない理由(問 18)

- ・ 南・北公民館や勤労青少年ホームのいずれも利用していないと回答した人において、利用していない理由は、いずれの年代でも「使う機会がないから」が7割以上と最も高く、30代・40代では、「予約の仕方や施設の使い方がよくわからないから」(16.3%)、「どのようなことに使えるか、イメージがわからないから」(36.9%)、50代・60代では、「興味のある活動や教室などがないから」(22.4%)、70代以上では、「自宅からアクセスが悪く、行きづらいから」(14.3%)が他の年代に比べ高くなっている。

図表 62 南・北公民館、勤労青少年ホームを利用していない理由〔複数回答〕

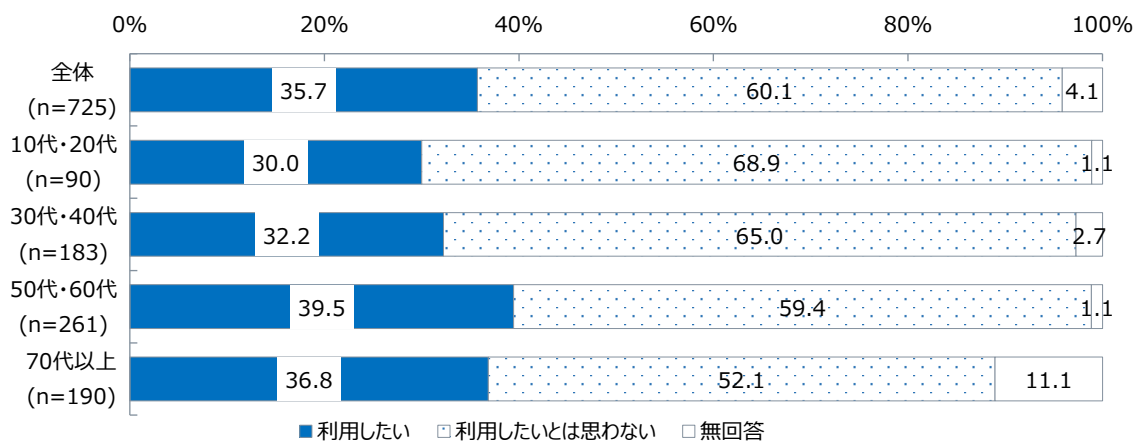
	全体 (n=572)	10代・20代 (n=78)	30代・40代 (n=141)	50代・60代 (n=219)	70代以上 (n=133)
使う機会がないから	82.2	87.2	84.4	83.1	75.9
広さや設備、機能面(防音等)など環境面での制約が多いから	0.2	0.0	0.7	0.0	0.0
他の施設等で代替できるから	4.9	5.1	5.0	4.1	6.0
予約が埋まっているなど、希望する時間に使えないから	2.4	0.0	0.7	3.2	4.5
予約の仕方や施設の使い方がよくわからないから	12.2	11.5	16.3	11.0	10.5
興味のある活動や教室などがないから	17.0	16.7	13.5	22.4	12.0
自宅からアクセスが悪く、行きづらいから	8.4	5.1	7.8	6.4	14.3
どのようなことに使えるか、イメージがわからないから	26.9	29.5	36.9	26.5	15.8
誰でも使えることを知らなかった	15.2	16.7	18.4	16.9	8.3
その他	6.5	5.1	10.6	6.8	1.5
無回答	3.5	2.6	2.1	1.4	9.0

(%)

ツ 南・北公民館などの生涯学習施設の利用意向(問 19)

- ・ 南・北公民館などの生涯学習施設の利用意向については、「利用したい」と回答した割合は、50代・60代で39.5%と最も高く、10代・20代で30.0%と最も低くなっている。

図表 63 南・北公民館などの生涯学習施設の利用意向



テ 南・北公民館などの生涯学習施設の利用目的(問 20)

- ・ 南・北公民館などの生涯学習施設を利用したいと回答した人において、利用目的は、いずれの年代でも「習い事や講座などの利用」が最も高くなっているが、10代・20代では、「自習」(25.9%)、「図書貸出・閲覧サービスの利用」(33.3%)、30代・40代では「子育て支援の利用」(35.6%)、「図書貸出・閲覧サービスの利用」(33.9%)が他の年代に比べ高くなっている。また、50代・60代では、「ボランティア活動やサークル活動などの交流」(35.9%)、「スポーツ・健康づくり」(51.5%)、70代以上では、「地域住民の居場所」(20.0%)が他の年代に比べ高くなっている。

図表 64 南・北公民館などの生涯学習施設の利用目的〔複数回答〕

	全体 (n=259)	10代・20代 (n=27)	30代・40代 (n=59)	50代・60代 (n=103)	70代以上 (n=70)
ボランティア活動やサークル活動などの交流	31.7	25.9	27.1	35.9	31.4
習い事や講座などの利用	77.2	66.7	83.1	81.6	70.0
レクリエーション	13.5	11.1	15.3	12.6	14.3
会議や打合せ	10.4	14.8	5.1	11.7	11.4
スポーツ・健康づくり	43.6	29.6	39.0	51.5	41.4
地域住民の居場所	14.3	11.1	8.5	14.6	20.0
自習	10.0	25.9	15.3	8.7	1.4
子育て支援の利用	15.4	18.5	35.6	9.7	5.7
福祉サービスの利用	16.2	3.7	11.9	18.4	21.4
図書貸出・閲覧サービスの利用	26.6	33.3	33.9	22.3	24.3
その他	0.8	0.0	3.4	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(%)

ト 南・北公民館などの生涯学習施設を利用したいと思わない理由(問 21)

- ・ 南・北公民館などの生涯学習施設を利用したいと思わないと回答した人において、利用したいと思わない理由は、「使う機会がないから」がいずれの年代でも8割程度と最も高いが、10代・20代では、「予約の仕方や施設の使い方がよくわからないから」(19.4%)、また、10代・20代、30代・40代では「どのようなことに使えるか、イメージがわからないから」が高くなっている(それぞれ38.7%、37.8%)。

図表 65 南・北公民館などの生涯学習施設を利用したいと思わない理由〔複数回答〕

	全体 (n=436)	10代・20代 (n=62)	30代・40代 (n=119)	50代・60代 (n=155)	70代以上 (n=99)
使う機会がないから	81.2	82.3	83.2	79.4	81.8
広さや設備、機能面（防音等）など環境面での制約が多いから	1.6	3.2	2.5	1.3	0.0
他の施設等で代替できるから	7.6	4.8	10.9	5.2	9.1
予約が埋まっているなど、希望する時間に使えないから	2.3	1.6	1.7	3.9	1.0
予約の仕方や施設の使い方がよくわからないから	12.6	19.4	16.0	9.7	9.1
興味のある活動や教室などがないから	15.4	11.3	20.2	16.8	9.1
自宅からアクセスが悪く、行きづらいから	12.2	6.5	13.4	11.6	15.2
どのようなことに使えるか、イメージがわからないから	29.8	38.7	37.8	29.0	16.2
その他	6.4	8.1	10.1	3.9	5.1
無回答	0.2	0.0	0.0	0.0	1.0

(%)

ナ 南・北公民館などの生涯学習施設の機能として必要だと思うもの(問 22)

- ・ 南・北公民館などの生涯学習施設の機能として必要だと思うものは、いずれの年代でも「習い事や講座などの場所」が最も高いが、10代・20代では、「自習のための場所」(26.7%)、30代・40代では、「子育て支援の提供」(44.3%)が他の年代に比べ高く、10代・20代、30代・40代に共通して、「図書貸出・閲覧サービスの提供」(それぞれ 24.4%、23.0%)も他の年代に比べ高くなっている。また、50代・60代では、「スポーツ・健康づくりの場所」(39.5%)が他の年代に比べ高く、30代・40代、50代・60代に共通して「防災の拠点施設」(それぞれ 42.1%、42.5%)、「行政サービス、相談等の窓口」(それぞれ 26.2%、25.3%)が他の年代に比べ高くなっている。

図表 66 南・北公民館などの生涯学習施設の機能として必要だと思うもの〔複数回答〕

	全体 (n=725)	10代・20代 (n=90)	30代・40代 (n=183)	50代・60代 (n=261)	70代以上 (n=190)
ボランティア活動やサークル活動などの交流の場所	35.2	34.4	31.1	38.7	34.7
習い事や講座などの場所	48.7	41.1	58.5	50.6	40.5
レクリエーションの場所	17.7	18.9	20.8	16.9	15.3
会議や打合せの場所	13.8	14.4	15.8	13.8	11.6
スポーツ・健康づくりの場所	34.5	23.3	34.4	39.5	33.2
地域住民の居場所	26.8	25.6	24.6	29.1	26.3
自習のための場所	15.0	26.7	21.9	11.9	7.4
子育て支援の提供	29.9	33.3	44.3	29.1	15.8
福祉サービスの提供	25.2	21.1	25.7	30.3	20.0
図書貸出・閲覧サービスの提供	18.9	24.4	23.0	16.1	16.3
防災の拠点施設	36.1	27.8	42.1	42.5	25.3
行政サービス、相談等の窓口	22.2	15.6	26.2	25.3	17.4
その他	2.6	6.7	3.3	1.9	1.1
無回答	10.2	4.4	3.8	8.0	22.1

(%)

二 生涯学習施設の機能の中で、他の施設で利用可能だと思われる機能、施設(問 23)

(ア)他の施設で利用可能だと思われる機能(3つ)

- 生涯学習施設の機能の中で、他の施設で利用可能だと思われるものについては、10代・20代では、「レクリエーションの場所」(21.1%)、「自習のための場所」(37.8%)が他の年代に比べ高く、10代・20代、30代・40代に共通して、「子育て支援の提供」(それぞれ22.2%、23.0%)、50代・60代では、「スポーツ・健康づくりの場所」(42.1%)が他の年代に比べ高くなっている。

図表 67 生涯学習施設の機能の中で、他の施設で利用可能だと思われるもの(3つ)[複数回答]

	全体 (n=725)	10代・20代 (n=90)	30代・40代 (n=183)	50代・60代 (n=261)	70代以上 (n=190)
ボランティア活動やサークル活動などの交流の場所	31.9	31.1	31.7	31.4	32.6
習い事や講座などの場所	38.1	31.1	39.9	38.3	38.9
レクリエーションの場所	15.9	21.1	14.8	18.8	10.5
会議や打合せの場	21.2	27.8	26.2	21.8	12.6
スポーツ・健康づくりの場所	37.4	25.6	40.4	42.1	33.2
地域住民の居場所	19.7	17.8	13.7	21.8	23.7
自習のための場所	20.8	37.8	27.3	20.3	7.4
子育て支援の提供	16.0	22.2	23.0	12.3	11.6
福祉サービスの提供	15.7	14.4	13.7	15.3	18.9
図書貸出・閲覧サービスの提供	29.0	31.1	32.2	30.3	23.2
その他	0.8	0.0	1.1	0.8	1.1
無回答	14.3	7.8	8.2	12.6	25.8

(%)

(イ)利用可能だと思われる他の施設(3つ)

- 生涯学習施設の機能の中で、利用可能だと思われる他の施設は、どの年代においても「総合体育館」が最も高いが、10代・20代では、「市民活動支援センター(おづぶらざ)」(24.4%)、30代・40代では、「総合体育館」(67.2%)が他の年代に比べ高く、また、10代・20代、30代・40代に共通して、「図書館」(それぞれ58.9%、64.5%)が他の年代に比べ高くなっている。50代・60代では、「自治会館」(41.8%)が他の年代に比べ高くなっている。

図表 68 生涯学習施設の機能の中で、利用可能だと思われる他の施設(3つ)[複数回答]

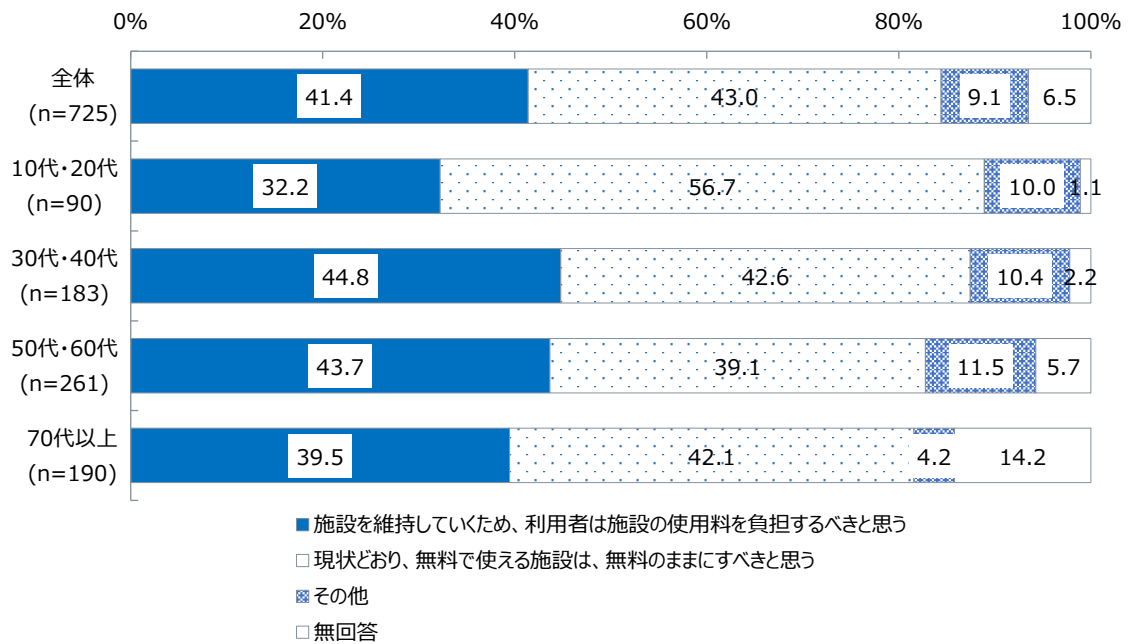
	全体 (n=725)	10代・20代 (n=90)	30代・40代 (n=183)	50代・60代 (n=261)	70代以上 (n=190)
学校	34.6	51.1	41.0	33.3	22.1
図書館	50.5	58.9	64.5	49.4	34.7
総合体育館	57.5	60.0	67.2	62.1	40.5
自治会館	36.4	33.3	30.6	41.8	35.8
市民活動支援センター(おづぶらざ)	17.4	24.4	14.8	18.8	14.7
長寿園(老人集会所)	20.0	8.9	11.5	18.8	35.3
民間施設(公共施設以外)	20.7	24.4	27.9	19.9	13.2
無回答	15.6	6.7	8.7	13.0	30.0

(%)

又 公共施設使用料負担について(問 26)

- 公共施設の使用料負担については、10代・20代では、「現状どおり、無料で使える施設は、無料のままにすべきと思う」が56.7%と過半数を超えており、「施設を維持していくため、利用者は施設の使用料を負担するべきと思う」は3割程度となっている。30代以上では、「施設を維持していくため、利用者は施設の使用料を負担するべきと思う」が4割程度となり、50代・60代では、「現状どおり、無料で使える施設は、無料のままにすべきと思う」の回答よりやや上回っている。

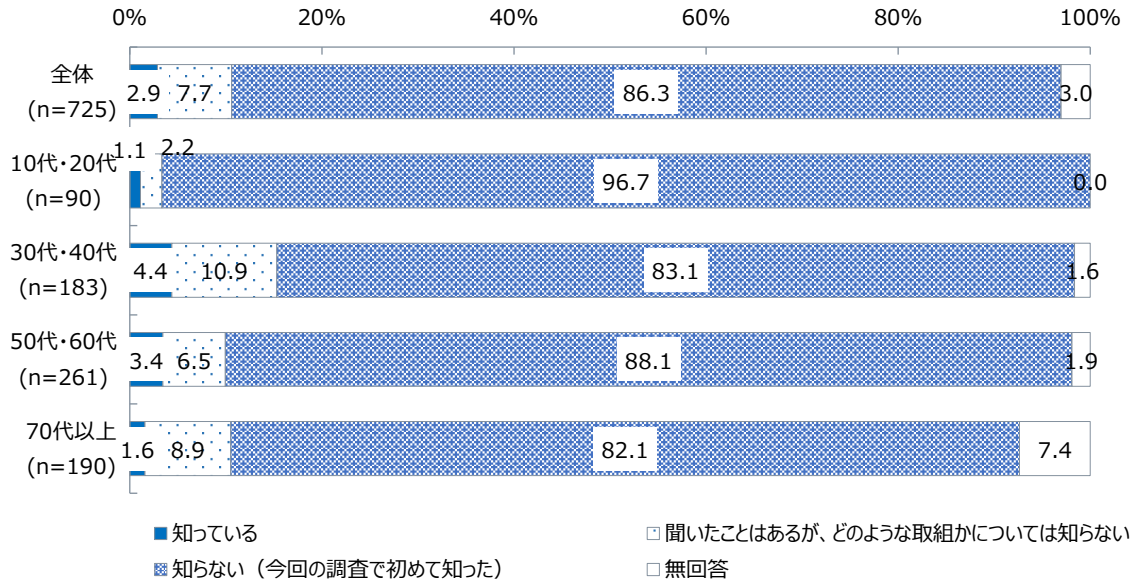
図表 69 公共施設使用料負担について



ネ コミュニティ・スクールの認知度(問 27)

- ・ コミュニティ・スクールの認知度については、いずれの年代でも 8 割以上が、「知らない(今回の調査で初めて知った)」となっている。30 代・40 代では、「知っている」、「聞いたことはあるが、どのような取組かについては知らない」の合計が他の年代に比べ高くなっている。

図表 70 コミュニティ・スクールの認知度

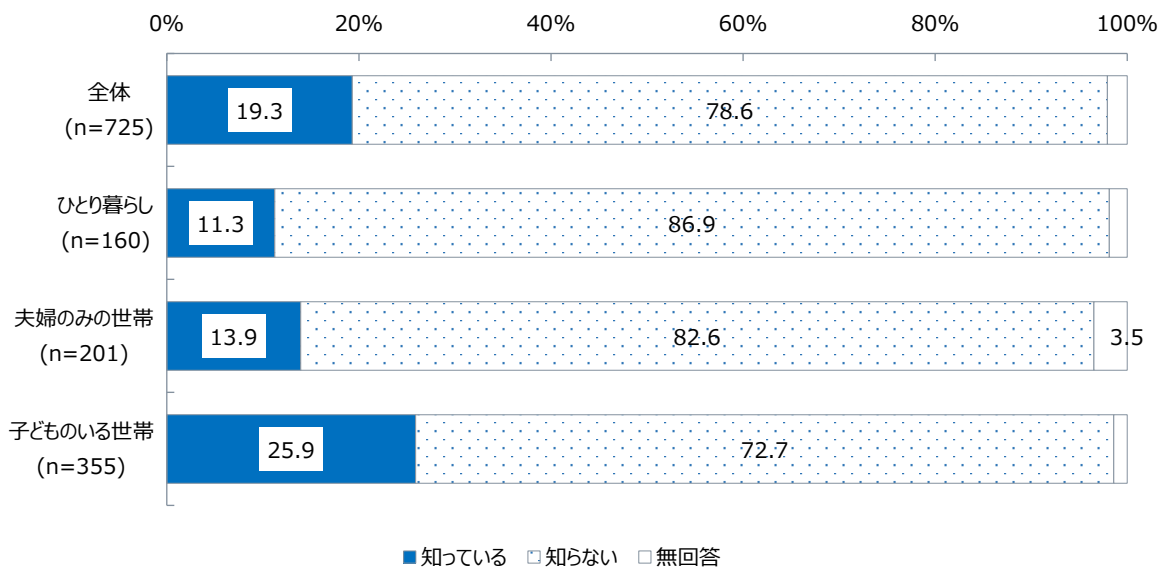


② 家族構成別クロス集計

ア 学校・就学前施設における地域開放の取組の認知度(問 5)

- ・ 学校・就学前施設における地域開放の取組の認知度については、子どものいる世帯で、「知っている」が 25.9%と他に比べ高くなっている。

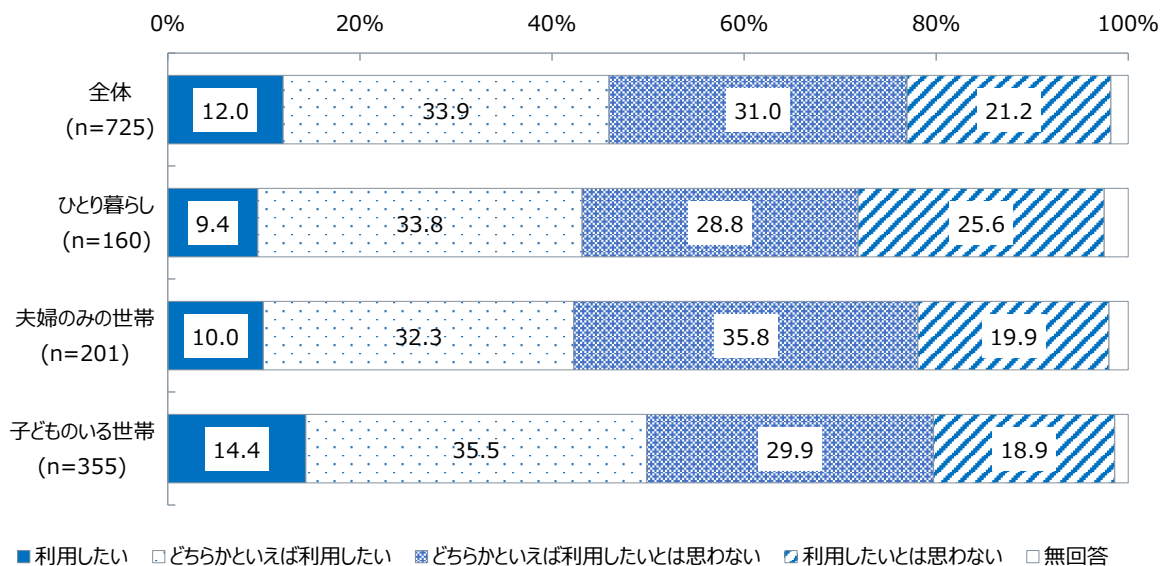
図表 71 学校・就学前施設における地域開放の取組の認知度



イ 「地域交流ゾーン」の利用意向(問 10)

- ・ 「地域交流ゾーン」の利用意向は、子どものいる世帯で、「利用したい」が 14.4%、「どちらかといえば利用したい」が 35.5%と利用したい人が 49.9%と他に比べ高くなっている。

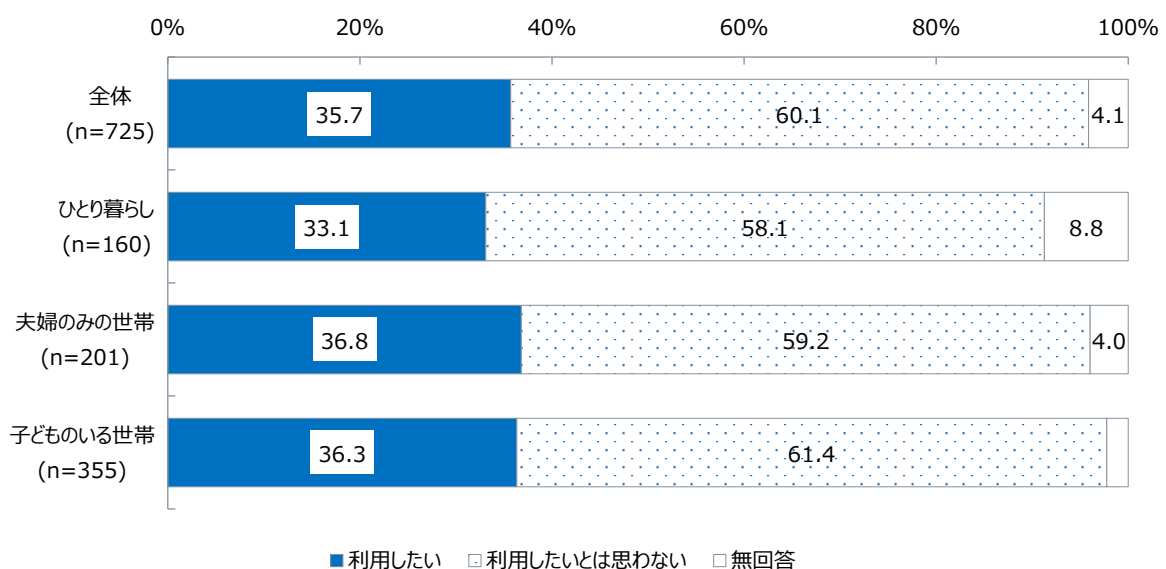
図表 72 「地域交流ゾーン」の利用意向



ウ 南・北公民館などの生涯学習施設の利用意向(問 19)

- ・ 南・北公民館などの生涯学習施設の利用意向は、家族構成による大差はみられない。

図表 73 南・北公民館などの生涯学習施設の利用意向



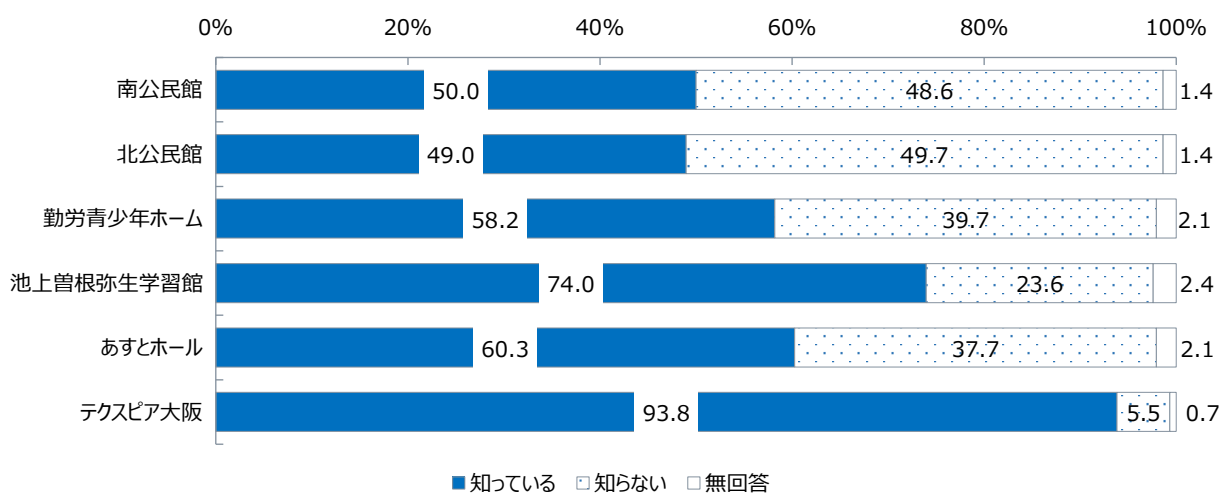
③ 居住地区別(中学校区別)クロス集計

ア 各施設の場所の認知度(問 14)

(ア)東陽中学校区

- 東陽中学校区では、各施設の場所の認知度について、南・北公民館は約 5 割、勤労青少年ホームは約 6 割となっている。また、池上曽根弥生学習館、あすとホールの認知度も 6 割以上となっている。

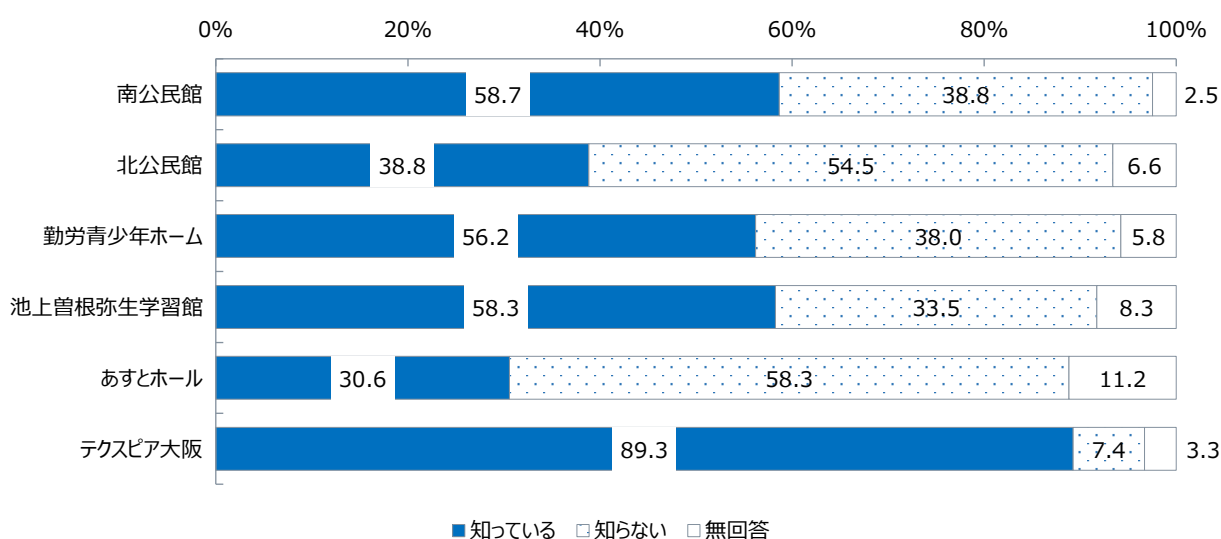
図表 74 各施設の場所の認知度(東陽中学校区(n=292))



(イ)誠風中学校区

- 誠風中学校区では、各施設の場所の認知度について、南公民館、勤労青少年ホームは 6 割弱となっているが、北公民館は 4 割を下回っている。また、あすとホールの場所の認知度も約 3 割となっている。

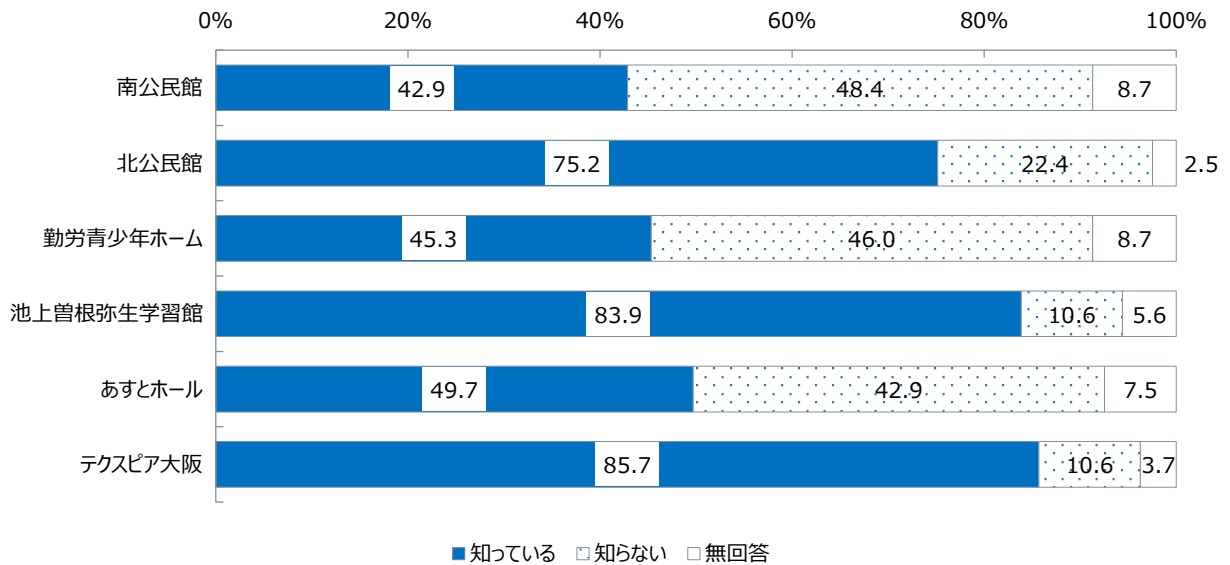
図表 75 各施設の場所の認知度(誠風中学校区(n=242))



(ウ)小津中学校区

- ・ 小津中学校区では、各施設の場所の認知度について、北公民館は75.2%と高くなっているが、南公民館、勤労青少年ホーム、あすとホールは半数を下回っている。池上曽根弥生学習館の認知度は8割以上と高くなっている。

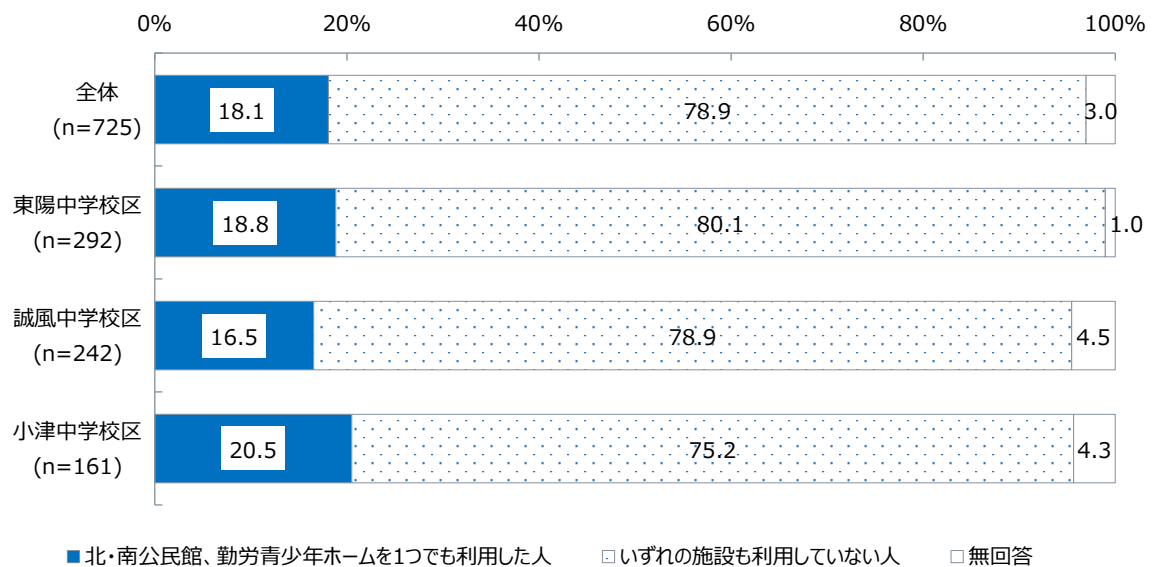
図表 76 各施設の場所の認知度(小津中学校区(n=161))



イ 南・北公民館、勤労青少年ホームの利用状況(問 15)

- ・ 過去3年間に南・北公民館、勤労青少年ホームのうち、1つでも利用した人は、東陽中学校区で18.8%、誠風中学校区で16.5%、小津中学校区で20.5%となっている。

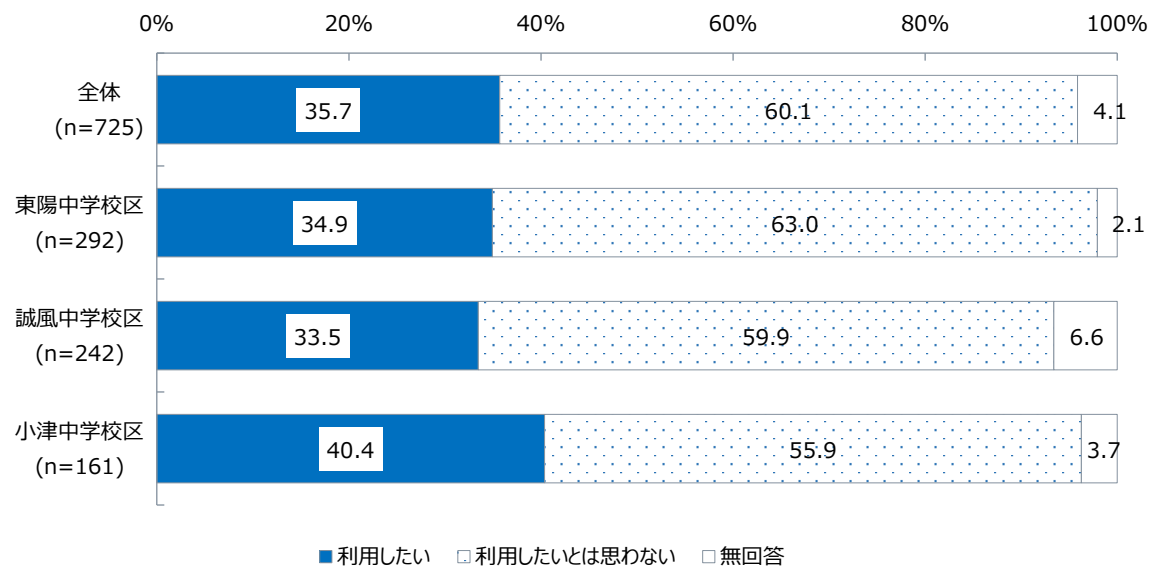
図表 77 南・北公民館、勤労青少年ホームの利用状況(1つでも利用したことがある人の割合)



ウ 南・北公民館などの生涯学習施設の利用意向(問 19)

- ・ 南・北公民館などの生涯学習施設の利用意向は、小津中学校区で「利用したい」が 40.4%と、他に比べ高くなっている。

図表 78 南・北公民館などの生涯学習施設の利用意向

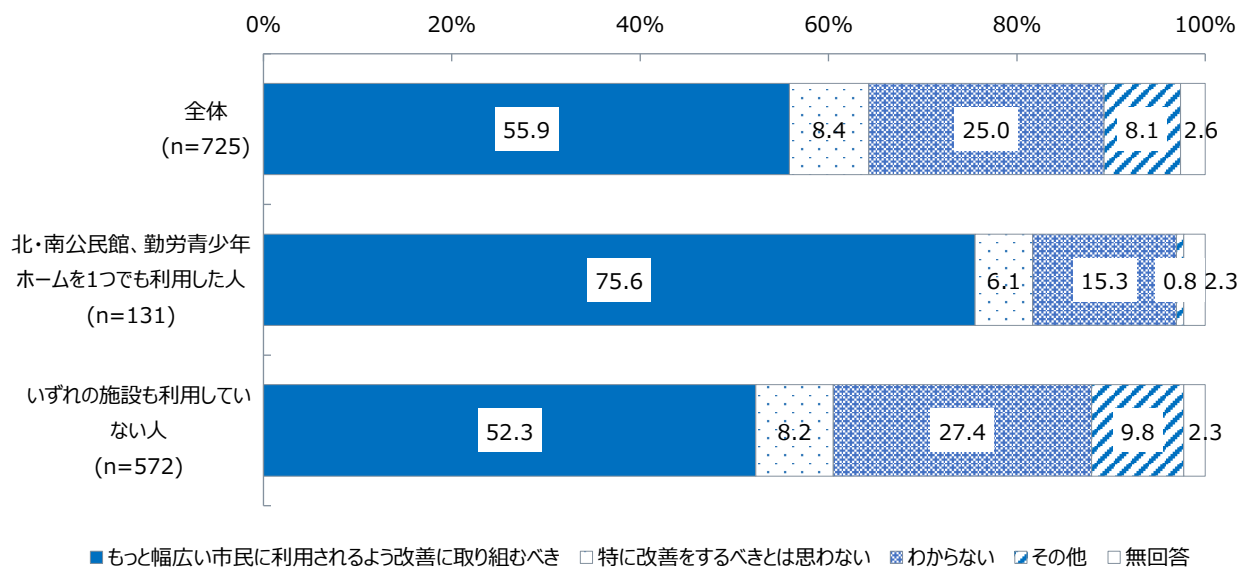


(2)設問別クロス

ア 南・北公民館、勤労青少年ホームの利用状況(問 15)×南・北公民館、勤労青少年ホームの利用状況に関する意見(問 4)

- 南・北公民館、勤労青少年ホームの利用状況に関する意見については、南・北公民館、勤労青少年ホームのうち、1 つでも利用した人においては、「もっと幅広い市民に利用されるよう改善に取り組むべき」が 75.6%といずれの施設も利用していない人に比べ高くなっている。

図表 79 南・北公民館、勤労青少年ホームの利用状況×
南・北公民館、勤労青少年ホームの利用状況に関する意見

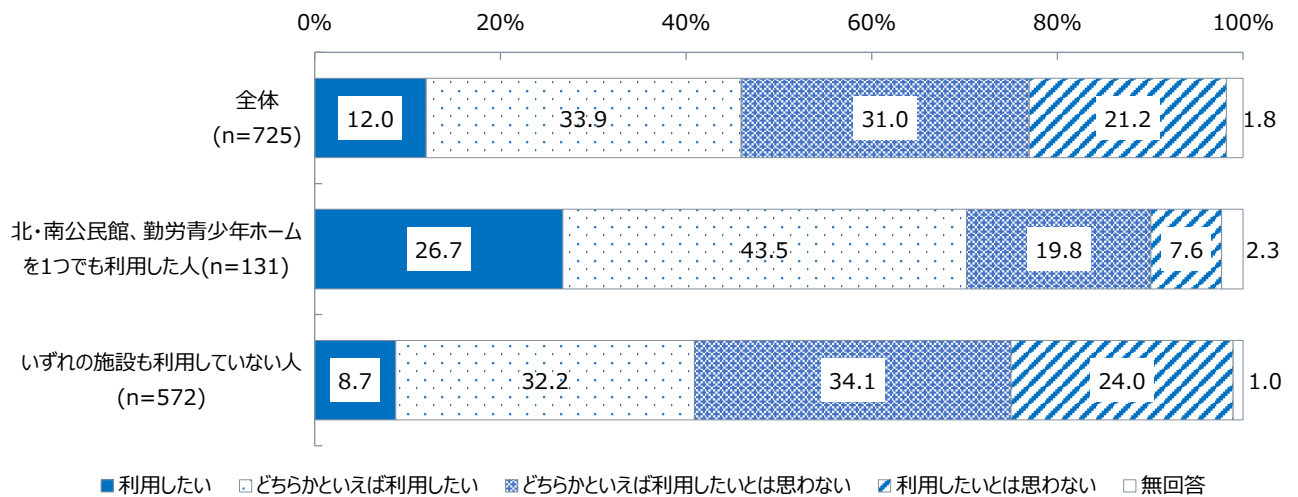


※南・北公民館、勤労青少年ホームの利用状況(問 15)において、3 施設についてすべて無回答の群 (n=22)を除く。以下同様。

イ 南・北公民館、勤労青少年ホームの利用状況(問 15) × 地域交流ゾーンの利用意向(問 10)

- 地域交流ゾーンの利用意向については、南・北公民館、勤労青少年ホームのうち、1 つでも利用した人において、「利用したい」が 26.7%、「どちらかといえば利用したい」が 43.5%と利用意向のある人が 70.2%と 7 割を超える一方で、いずれの施設も利用していない人においては、「利用したい」が 8.7%、「どちらかといえば利用したい」が 32.2%と利用意向のある人が 40.9%となっている。

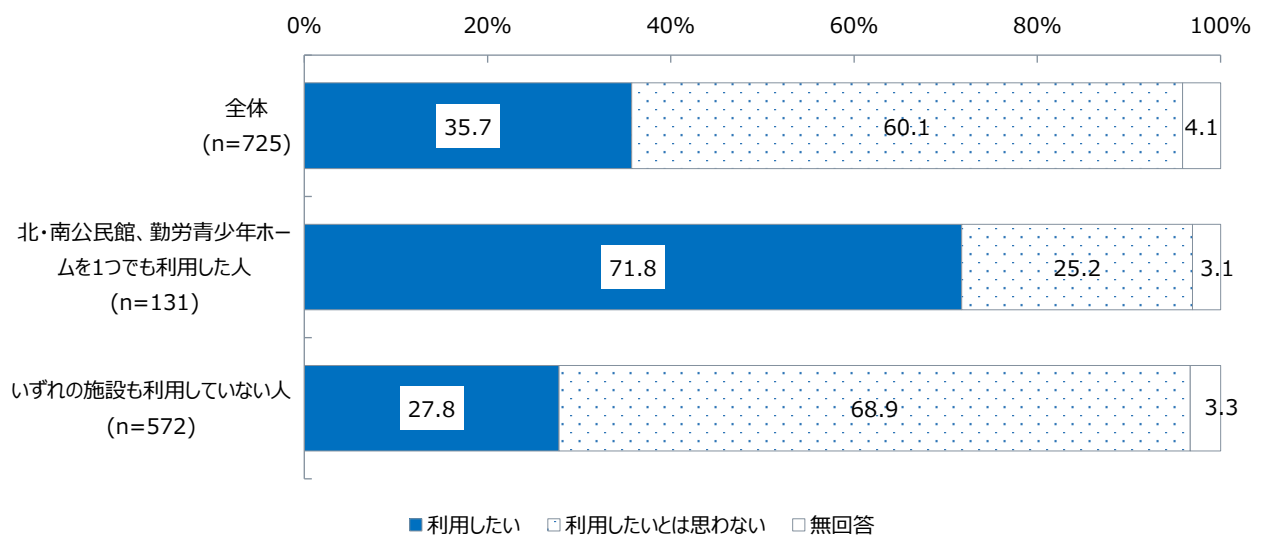
図表 80 南・北公民館、勤労青少年ホームの利用状況 × 地域交流ゾーンの利用意向



ウ 南・北公民館、勤労青少年ホームの利用状況(問 15) × 南・北公民館などの生涯学習施設の利用意向(問 19)

- 南・北公民館などの生涯学習施設の利用意向については、南・北公民館、勤労青少年ホームのうち、1 つでも利用した人においては、「利用したい」が 71.8%、いずれの施設も利用していない人においては「利用したい」が 27.8%となっている。

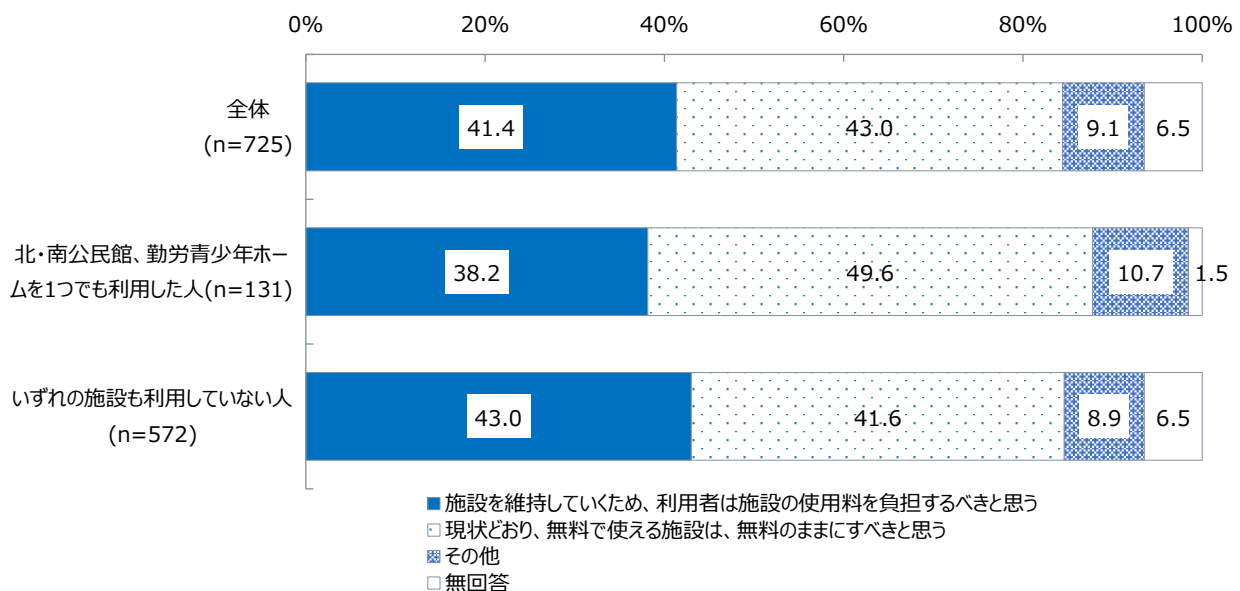
図表 81 南・北公民館、勤労青少年ホームの利用状況 × 南・北公民館などの生涯学習施設の利用意向



エ 南・北公民館、勤労青少年ホームの利用状況(問 15) × 公共施設使用料負担について(問 26)

- 公共施設の使用料負担については、南・北公民館、勤労青少年ホームのうち、1 つでも利用した人においては、「現状どおり、無料で使える施設は、無料のままにすべきと思う」が 49.6%と、いずれの施設も利用していない人に比べ高くなっている。

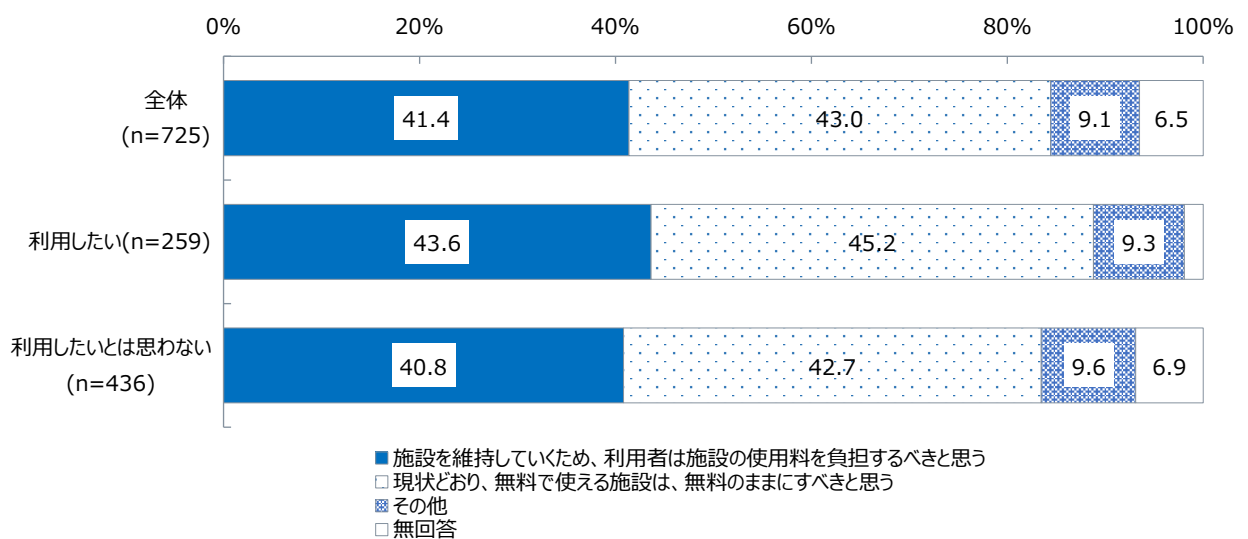
図表 82 南・北公民館、勤労青少年ホームの利用状況 × 公共施設使用料負担について



オ 南・北公民館などの生涯学習施設の利用意向(問 19) × 公共施設使用料負担について(問 26)

- 公共施設の使用料負担については、南・北公民館などの生涯学習施設の利用意向がある人と利用意向がない人において、結果に大差はみられない。

図表 83 南・北公民館、勤労青少年ホームの利用意向 × 公共施設使用料負担について



※生涯学習施設の利用意向(問 19)の回答が無回答(n=30)のものを除く

カ 地域交流ゾーンの利用意向(問 10)×地域交流ゾーンをよりたくさんの人に使ってもらうために必要なこと(問 13)

- ・ 地域交流ゾーンをよりたくさんの人に使ってもらうために必要なことは、地域交流ゾーンの利用意向がある人において、利用意向がない人に比べ、全体的に回答割合が高くなっている。利用意向がある人においては、「利用予約がしやすい、利用の手続きが簡単」が最も高く、「十分な設備、機能が備わった部屋やスペースがある」、「多くの人が利用できる日時に開放している」も、利用意向がない人に比べ高くなっている。一方、利用意向がない人においては、「誰でも気軽に入ることができる雰囲気づくり」が最も高くなっている。

図表 84 地域交流ゾーンの利用意向×地域交流ゾーンをよりたくさんの人に使ってもらうために必要なこと〔複数回答〕

	全体 (n=725)	利用したい (n=87)	どちらかといえば 利用したい (n=246)	どちらかといえば 利用したいとは思 わない (n=225)	利用したいとは思 わない (n=154)
利用予約がしやすい、利用の手続きが簡単	59.0	81.6	72.8	52.4	38.3
十分な設備、機能が備わった部屋やスペースがある	30.1	41.4	37.0	23.6	24.0
利用者が偏ることなく、利用希望者が公平に使えるルールづくり	36.7	40.2	44.3	34.7	28.6
学校の授業や活動に支障とにならないようにするためのルールづくり	19.7	29.9	23.2	18.2	12.3
セキュリティ面など防犯面が徹底されている	30.1	34.5	32.5	29.8	26.0
多くの人が利用できる日時に開放している	37.8	55.2	49.6	30.7	22.1
快適で、居心地が良いこと	39.3	49.4	47.2	35.1	29.9
誰でも気軽に入ることができる雰囲気づくり	63.0	72.4	69.5	64.4	50.0
その他	5.4	6.9	3.3	3.1	11.7
無回答	5.8	2.3	1.6	2.2	12.3

※地域交流ゾーンの利用意向(問 10)の回答が無回答のもの除く(%)

(3)その他(問 23 の追加分析)

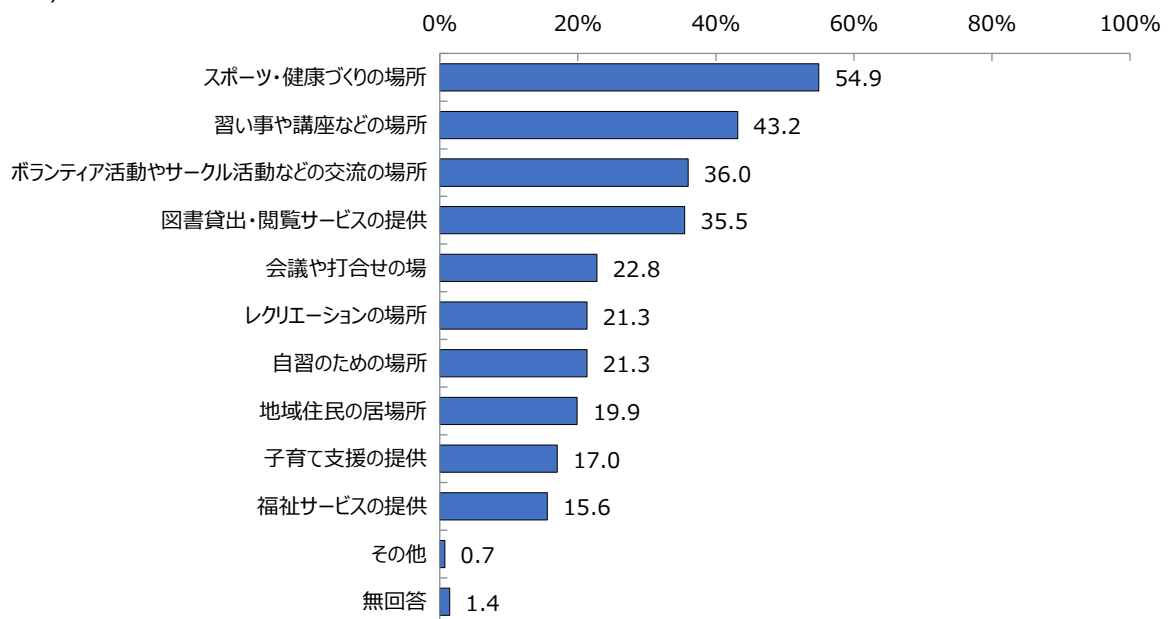
① 他施設において、生涯学習施設の機能の中で利用可能なもの(上位 2 施設)

ア 総合体育館

- 生涯学習施設の代替可能な施設として最も多く回答された総合体育館では、利用可能な機能として、「スポーツ・健康づくりの場所」が 54.9%と最も高く、次いで「習い事や講座などの場所」が 43.2%、「ボランティア活動やサークル活動などの交流の場所」が 36.0%、「図書貸出・閲覧サービスの提供」が 35.5%となっている。

図表 85 総合体育館と回答した人における利用可能な機能〔複数回答〕

(n=417)

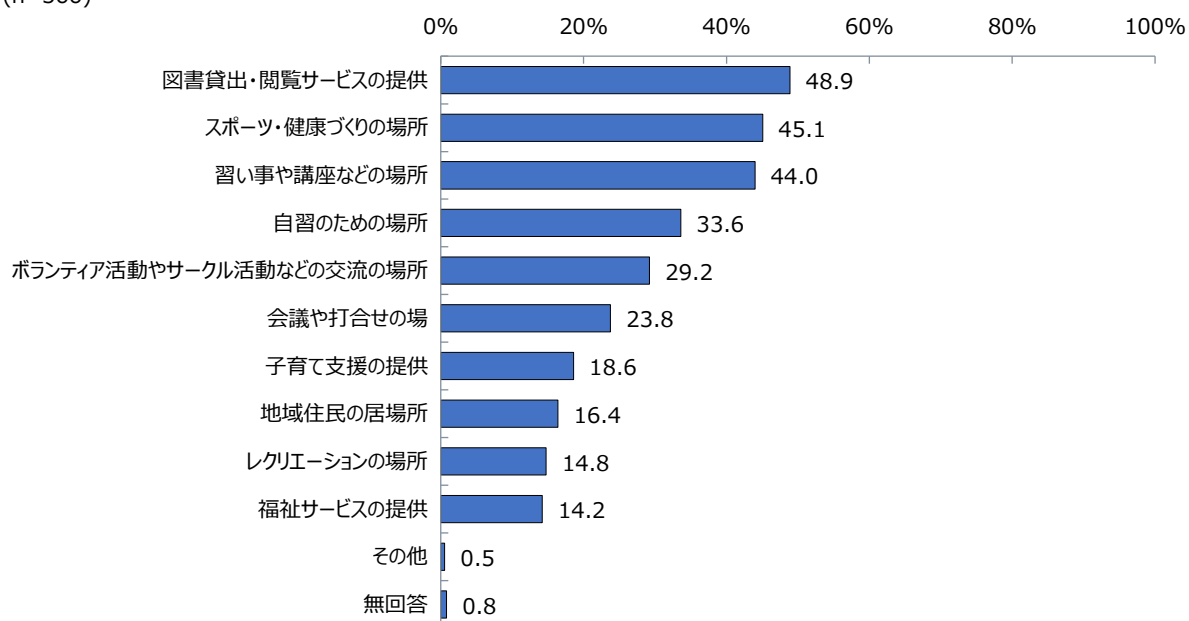


イ 図書館

- 生涯学習施設の代替可能な施設として2番目に多く回答された図書館では、「図書貸出・閲覧サービスの提供」が48.9%と最も高く、「スポーツ・健康づくりの場所」が45.1%、「習い事や講座などの場所」が44.0%、「自習のための場所」が33.6%となっている。

図表 86 図書館と回答した人における利用可能な機能〔複数回答〕

(n=366)



III 市民ワークショップ

1 目的

- ワークショップを通じて、市民アンケートの結果の振り返り、市内教育施設の現状や、現在の泉大津市の教育施設再編などに係る取組みに関する理解の充足等を図りながら、市内教育施設に関する市民や施設利用者等の意見や課題認識等を幅広く把握することを目的とする。

2 ワークショップの名称

- ワークショップの名称は、「市民みんなの『未来の学びの場』を考えるワークショップ」とした。

3 ワークショップメンバーの構成

(1)参加者の属性

- 本ワークショップの目的を踏まえて、ワークショップメンバーは公募した市民のほか、現在の教育施設の主な利用者及び市内における活動団体並びに今後の各学校における「地域交流ゾーン」の整備やコミュニティ・スクール等の取組に関する地域組織及び学校関係者によって構成した。

(2)ワークショップメンバー数

- ワークショップメンバーは同じ時間帯に1グループあたり5又は6名の、4つのグループに分かれることを想定し、1回あたり24名程度、それを2ライン実施することとして、合計48名程度を目安に募集した。
- その結果、合計45名を登録した。なお、2つのラインは、同日の午前と午後を実施することとし、午前の部は24名、午後の部は21名に割り振った。

4 開催日程・出席者数

(1)開催日程

- 以下の日程、場所、テーマにより、4回のワークショップを開催した。同日の午前と午後と同じテーマで、各ラインのワークショップを開催した。

No	開催日時	実施場所	テーマ
1	令和3年10月23日 午前:10:00~12:00 午後:13:30~15:30	テクスピア大阪 小ホール	教育施設について知ろう <ul style="list-style-type: none"> 施設利用の経験 教育施設の好きなどころ、使いやすいところ 利用にあたって不便なこと、問題と思うこと これからの教育施設は、どのような施設であってほしいと思うか
2	令和3年11月20日 午前:10:00~12:00 午後:13:30~15:30	条南小学校 図書室	テーマ1:「教育施設に対する市民の認知度・関心度を高めるためには？」 テーマ2:「みんなに利用してもらうため、かつ満足度を高めるための工夫は？」 <ul style="list-style-type: none"> 市民みんなが利用するための機能とは？ 市民みんなが利用できる・したくなる空間とは？
3	令和3年12月18日 午前:10:00~12:00 午後:13:30~15:30	旭小学校 多目的室	『『未来の学びの場』のあり方(案)』について <ul style="list-style-type: none"> 「骨太の方針(仮説)」について 「具体的な取組例(案)」について 「取り組むにあたっての課題」について
4	令和4年1月27日 午前:10:00~12:00 午後:13:30~15:30	旭小学校 多目的室	ワークショップの振り返り <ul style="list-style-type: none"> ワークショップ全体や「とりまとめ」について ご自身ができること、やりたいことについて 上記のことを実現するにあたっての課題などについて

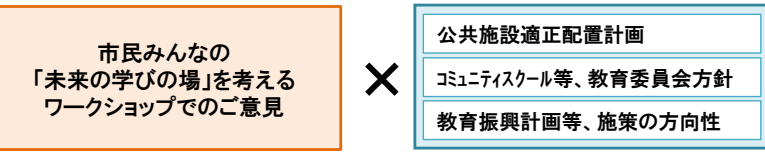
(2)出席者数

- 各回の出席者数は、以下のとおり。

	午前	午後	合計
第1回	20名	16名	36名
第2回	23名	13名	36名
第3回	20名	15名	35名
第4回	19名	15名	34名

市民みんなの「未来の学びの場」を考えるワークショップとりまとめ

1 市民みんなの「未来の学びの場」として思い描く姿



【コンセプト】
泉大津市全域が、学びのキャンパス
 ～身近な居場所としての複数の「学び場」と、
 出会いや発見のある交流拠点としての「学び場」で構成～



1.1 【地域交流ゾーン】
 身近な居場所、顔見知りとの交流の場

各校区に配置する施設
 子どもたちの安全を確保しつつ、普段のクラブ活動などの練習や、ちょっとした活動の場として気軽に使える部屋や、予約しなくても思い思いに過ごすことができる空間などを整備

- 【諸室のイメージ】（学校にたとえると…）
- 毎日通って使える“普通教室”（貸しスペース）と“図書室”（サロン）
 - クラブ活動のための“部室”（利用者でシェアするロッカールームなど）
 - 校区ごとに特色を持つ“特別教室”

1.2 【新しい拠点施設】
 出会いや発見がある「学びの場」、新たなチャレンジの応援がある場

全市の拠点となる施設
 特定の活動に必要な設備を備えた部屋や、様々な規模の交流ができる空間などを導入

- 【諸室のイメージ】（学校にたとえると…）
- 空間と設備が充実した“特別教室”
 - 交流のための、大・中・小など様々な規模の“多目的教室”

1.3 【その他既存施設】
既存施設のさらなる活用

既に泉大津市内にある既存の学校教育施設、生涯学習施設なども活用

- 学校体育館、シープラ、テクスピア、都市公園、もんとパーク 等

2 提供するサービスのあり方 ～新しい拠点施設を中心とした、市民の学びを促進するサービス～

	具体的な取組(案)	取り組むにあたっての課題
2.1 市民が「先生」として活躍できる学びの場	<ul style="list-style-type: none"> □ 講座を開催したい人が柔軟に施設を利用できる運営ルール等の検討 □ リアルと併行してオンラインプログラムを実施（アフターコロナ対応） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「営利目的」となる活動の基準の明確化 ● スキルのある市民を集めるための魅力的な仕掛けづくり ● オンラインプログラムを実施するための環境整備
2.2 新たなチャレンジを応援するサービス	<ul style="list-style-type: none"> □ 新しく活動を始めたい人が相談できるワンストップ窓口（コンシェルジュ機能）の設置 □ 「先生」や運営スタッフになりたい市民を支援する仕組みづくり（研修の実施 等） 	<ul style="list-style-type: none"> ● スタッフや「先生」の一定の水準を確保するため、資格・スキル等の基準の設定
2.3 施設としての自主企画	<ul style="list-style-type: none"> □ 市内のクラブ同士で交流するイベントの実施（「おづみんエキスポ※後述」等） 	<ul style="list-style-type: none"> ● とりまとめや運営を行う中心的組織、人材の確保 ● 現在利用していない市民の興味を引き、来館を促すための工夫（有名人を呼ぶ、様々な年代の関心に合わせる 等）

3 運営方法のあり方 ～個別の施設を「点」としてではなく、施設全体を「未来の学びの場」＝「面」としてとらえた運営～

3.1 【運営体制】市民参加型の運営体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> □ 幅広い世代や立場の市民等のニーズや意見を、運営に反映させるための仕組みづくり（「(仮称)利用者会議」の定例設置 等） □ 関心のある市民が、施設運営の支援スタッフとして参画することができる枠組みの設定 □ 運営組織、支援スタッフの負担を軽減するための設備整備の検討（例：施設管理やセキュリティ対策について、IT技術の活用によって省力化 等） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民等のニーズや意見の把握、市民等の支援スタッフの受け入れ等を行い、各施設の管理運営を主体的に行う運営組成の構築又は募集 ● 支援スタッフとしてのスキルのある市民の参画を促すための募集や情報発信、さらには参画した市民の満足度を向上するための工夫（利用者の感謝を届ける 等） ● 支援スタッフの質の確保と、その維持・向上のための人材育成（支援スタッフとして参画を希望する市民に対する講習の実施 等）
3.2 【利用ルール】時代のニーズに沿ったルール	<ul style="list-style-type: none"> □ 利用者ニーズにあわないルールの変更 	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用ルールの設定や変更にあたっての他施設との調整、議会議決 ● ルールを柔軟に変えるつつも、いつ見ても分かりやすくするための工夫（共通のマニュアル、ルールブック作成 等） ● 利用目的の枠組みを広げる、手続きを簡素化する等、子供が自由に使いやすいよう配慮したルールづくり
3.3 【情報発信】面白さとお得感のある情報発信！	<ul style="list-style-type: none"> □ クラブの取り組み内容の情報発信等を目的とした「(仮称)おづみんエキスポ」の開催 ⇒ 将来は、市内全体の公共施設で一体運用 	<ul style="list-style-type: none"> ● 横断的なイベント運営を担う中心的な組織、あるいは会議体等の検討 ● 活動団体同士を相互につなぐ等、団体の横の連携を促すためのネットワークの中心となる組織・仕組みの検討 ● 施設を使いたい人が相談できる窓口の設置（将来的に施設数が増えることも踏まえた）受付対応、問い合わせ対応等の窓口の明確化
3.4 施設間連携	<ul style="list-style-type: none"> □ 市民や団体等に各施設を使ってもらい、知ってもらう機会を作る合同イベントの企画 	<ul style="list-style-type: none"> ● 全ての施設の利用状況や団体の活動状況の一元的な把握と、集約した情報の発信

4 施設整備のあり方

4.1 地域交流ゾーンの段階的整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 適切な立地場所の選定 ● 公民館等の機能の切れ目がない、整備スケジュールの設定 ● 計画・設計にあたっての市民意見の反映 ● 事業実施のための事業手法の検討 	4.3 【アクセシビリティ】車で行ける駐車場確保等	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用者の交通手段に係る利便性の確保
4.2 新しい拠点施設の整備			